

325  
350



始



PREPARATION  
FOR TEACHING

A STANDARD COURSE *for* TEACHER TRAINING

チャレース・エー・オリバー著  
賀川豊彦譯

日曜學校教授法

日本基督教興文協會



大正  
4. 3. 29  
内交

此書は、日本基督教興文協會より發行するものなり。而して本協會の事業は下文に定むる如し。

『日本基督教興文協會の事業は、日本の基督教信徒及び未だ基督教を信ぜざる人々の需要に適したる基督教文學の著作及び弘布にあり。本協會は日本に在る基督教ミッシヨンの同盟を代表せるが故に公同的精神を以て立てるものなり。されば本協會の會員及び維持者は必ずしも本協會に於て發行せる書籍に現はれたるすべての意見に同意せるものと認むべからず。』

## 序

日曜學校教育の基督教會の存在に對する使命は、日本に於ても既に認められたが、その教授法の研究の猶不完全なるは悲しむべきことである。

然し何れ此問題は完全に解決さるべきものであるから、此方面の文献は如何なるものと雖も歓迎せねばならぬのである。

されば近來此方面の著作が二三現れつゝあるに際し、尙オリヴァ氏の『日曜學校教授法』の譯書一つを加ふるは誠に喜ぶべきことである。余は此書を一瞥して如何にもよく日曜學校問題の諸方面に觸れ、又結構祖述の平易明晰なるを知り、日本に現れたる今日までの日曜學校教授法としては、比較的完全なるものと思ふ。また此書は既に北米合衆國諸日曜學校師範科の教科書として廣く行はれあるを見れば、その實際的効果に於て必ず大なるものあるを信するのである。是れ余が此譯書の出版に際し一言を

日曜學校教授法  
述べて熱心に之を我邦日曜學校研究者諸君に推薦する所以である。

二

大正四年三月

加藤直士誌

# 目次

## 緒言

如何にせば教師養成の好果を收め得るか

### 第一篇 舊約聖書

第一課	舊約聖書の各卷	一
第二課	新約聖書の各卷	四
第三課	族父時代	六
第四課	族父時代(續)	一三
第五課	族父時代(續)	一七
第六課	士帥時代	二一
第七課	王國時代	二八

目次

一

第八課	王國時代(續)	三二
第九課	屬國時代	三七
第十課	舊約の世界	四二
第一篇 新約聖書		
第一課	基督の私生涯	五一
第二課	基督の傳道	五七
第三課	基督の傳道(續)	六三
第四課	基督の傳道(續)	七〇
第五課	基督の傳道(續)	七七
第六課	エルサレムの教會	八二
第七課	異邦人の教會	八七
第八課	全世界の教會	九三

第九課	イエスの住み給ひし地	一〇〇
第十課	イエスの巡廻せられし地	一〇五

第二篇 聖書の制度及日曜學校

第一課	禮拜所	一一四
第二課	禮拜の諸式	一二〇
第三課	年中行事	一二四
第四課	日曜學校	一二八
第五課	教會と日曜學校と家庭との關係	一三四
第六課	日曜學校の目的	一三八
第七課	日曜學校の組織及び設備	一四二
第八課	日曜學校の級別	一四六
第九課	日曜學校管理法	一五〇

第十課 日曜學校と傳道 ..... 一五四

第四篇 生徒の研究

第一課 生徒を知るの必要 ..... 一五九

第二課 遊戯によれる生徒の研究 ..... 一六六

第三課 幼年期—嬰兒名簿及幼稚科 ..... 一七二

第四課 幼年期—嬰兒名簿及幼稚科(續) ..... 一七八

第五課 少年期—尋常科及初等科 ..... 一八三

第六課 少年期—尋常科及初等科(續) ..... 一九〇

第七課 青年前期—中等科 ..... 一九四

第八課 青年前期—中等科(續) ..... 二〇一

第九課 青年後期—高等科及大人 ..... 二〇七

第十課 課業を受けんとする兒童 ..... 二一二

第五篇 教師の研究

第一課 教師の教師 ..... 二一九

第二課 教師と教科書 ..... 二二三

第三課 教師と生徒 ..... 二二八

第四課 教師の人格的準備 ..... 二三三

第五課 教授上の諸法則 ..... 二三八

第六課 教授法 ..... 二四三

第七課 學課の準備 ..... 二四九

第八課 學課に使用する例 ..... 二五五

第九課 教師の責任 ..... 二六〇

第十課 訓練を受けたる教師の模範校 ..... 二六五



緒言



日曜學校教師養成の理想と、標準學課の採用との急速なる進歩は、最近一九〇五年に出版された「ウエストミンスター教師養成學課」をすら、舊いものにしてしまつた。それで、現今の要求を充す爲め、此書——「日曜學校教授法」——は特に日曜學校教師養成の事業に多年従事し、成功ある結果を收め得たる人に依つて書かれることとなつた。

此書は萬國日曜學校同盟教育課委員の檢定を経たものである。同委員の意見によれば、日曜學校教師範學課は、五十課を下る可らず、而してその中聖書研究に少くとも二十課、生徒、教師、日曜學校等に就て各七課を與へざる可からずとの規定になつて居る。

學課に附けて掲げた地圖は唯略圖であつて、黑板に畫き得る様に、わざ／＼粗雜に



書いたものである。

此新師範學課を吾が日曜學校に提供するに當つて、出版者は此書が充分需用に應じ得る、有益にして貢獻ある良書なるを深く信するものである。



### 如何にせば教師養成の好果を收め得るか

師範科を一組作ることの決心をせよ。すぐ出来る。實行はむづかしくない。この學校でも出来る。然し初めが肝腎だ。生案は失敗のもと。先づありふれた教師養成法の冊子を丁寧に讀め。經驗あるものと相談せよ。出来るだけ知識を豊富にせよ。自己の屬する教派の日曜學校局、或は自己の屬する日曜學校協會の部會の教師養成部々長に訴へよ。

一人一人に當つて見よ。教會内の最も優れたる人々の興味を喚起せよ。研究は彼等に必要で無いであらうが、然し彼等は研究を歓迎するであらう、そして是等の人々を通して他の者に手が伸びて行くのである。

教師と役員との會を開け。教課書を示せ。見本として一寸教へて見よ。そして直に師範科を始むるやう決定せよ。なるだけ適當なる教師を求めよ。その人は必しも熟

如何にせば教師養成の好果を收め得るか

練なものであるを要しない。唯一個の指導者として、熱心で同情あり、忠實で忍耐があればよいのである。熟練した教師がないからと云つて、師範科の組織を遅延さしてはならない。男女何れを問はず一番優れた人を用ゐるが善い。次の様な組をなると、双方とも組織するがよい。

一 現在の教師の組 出来るならば、一夕を此組の研究會に費せ。若し能はずば、定期の教師會と關聯して、毎週祈禱會の前後、或は日曜日のいつか、之を開け。役員及教役者も此組に列るを喜ぶであらう。

二 常設日曜學校教師範科 教師の盡力によつて高等科及大人の組より適當な青年の一群を撰び、之を一組とし、普通の日曜學校の時間に教へるがよい。又必要ならば、高等科或は大人の組全部を師範科に變ずるがよい。

出来るならば一室を別に定めよ。そうでなくとも一寸初めだけ日曜學校に集つて、その後は教會の講堂なり、手近の家で研究するやうにしてもよい。

此書の五編の中の一編が、どれも濟む時には、新入生を編入してもかまはない。第四編で編入されたものは、第四、第五編と研究して、本がも一度初めから始まる時に、第一第二第三編を研究するやうにすればよい。かうして機會をばつさずに新しい人を入れて行けば、此組はいつまでも續けて行くことが出来る。師範科の學生は補缺の教師として使つてはならない。學課が一通りすんでしまふまで、途中で研究を妨げてはならない。

混合學級 或時には現任の教師と、師範科の生徒を一緒にして混合學級を組織する方が善い場合がある。又多くの日曜學校より集つた聯合學級の養成方法も既に各所で成功して居る。然し一番よいのは各校に一つづつ師範科を設けることである。

自教派或は部會の日曜學校教師養成部の當局と聯絡を取つて、常に助言をしてもらうがよい。

教授上の助言

師範科學生自身の研究を獎勵せよ。質問をなし特別研究の問題を出せ。各學生が皆教科書を携へて居るか、又學課をよく研究して居るかを質せ。黒板を使用せよ。梗概と圖解を書け。常に復習せよ。各課をよく頭に入れて居るか否かをたしかめよ。復習の所をか、してみよ。そうすれば、學生の知識の不確かな處を見付けて教授上の參考となる。

自派或は部會の日曜學校協會規定の試験を學生が受けねばならぬことを考へに入れて置かねばならぬ。教科書は五編より成り、一編は十課に別れて居り、各編の終る毎に試験することが出来る。そして、そこだけ卒業したことにすればよい。然し面倒だと思へば、二編或はそれ以上を一度にしてもよい。是等の試験は研究の刺激になつてよい。一編をよく覚えて居れば、その先にも勵みが出る。

卒業式は熱心に研究した結果を認めるに最も適當な時で、また教會なり一部の人々に日曜學校教育の如何に必要なものであるかを印象せしめる。試験を首尾よく及第した學生には、萬國日曜學校同盟或は部會の卒業證書又自派の准允證書を授與するがよい。獨修生にも試験を受けた上で證書を授けるがよい。

# 日曜學校教授法

## 第一編 舊約聖書

### 第一課

#### 舊約聖書の各卷

聖書は神の御旨を書いたものである。

六十六卷より成り、

千六百年の間に亘つて、

少なくとも三十六人によつて書かれたものである。

舊約聖書はアラメエク語で書かれた一小部分を除く外、全部ヘブライ語で書かれて

舊約聖書

シイ・エイ・オリヴァ著  
賀川豊彦譯

居る。紀元前殆ど二世紀頃舊約聖書全體が、希臘語に翻譯された。新約は希臘語で書かれた。各國語の聖書は是等の原語から譯せられたものである。日曜學校教師は聖書各卷の名稱及位置を充分覺えて置く必要がある。舊約聖書の三十九卷は便宜上次の様に分類してもよい。

律法書五卷 創世紀、出埃及記、利未紀、民數記、申命記。

史書十二卷 ヨシユア、士師記、ルツ、サムエル前後書、列王前後書、歷代前後書、

エズラ、ネヘミア、エステル。

詩書五卷 ヨブ記、詩篇、箴言、傳道書、雅歌

大預言書五卷 イザヤ、エレミヤ、哀歌、エゼケル、ダニエル。

小預言書十二卷 ホセア、ヨエル、アモス、オバデア、ヨナ、ミカ、ナホム、ハバ

クック、ゼバニヤ、ハガイ、ザカリヤ、マラキ。

必要なる練習としては、舊約聖書の名稱を、前からでも後からでも自由に云る様に

せしむることにて、任意に一書を選び、何の區分に屬するか、またその前と後の書名を擧げて見よ。之を國の縣別或は道別にしたりする様に試みよ。また各卷をどれ位の早く開き得るかをためしてみよ。

練習問題

舊約聖書は何語にて書かれしや。

聖書は何卷ありや。

舊約は何卷ありや。

聖書は何人が書きしや。

何年かたりしや。

律法書の名を云へ。

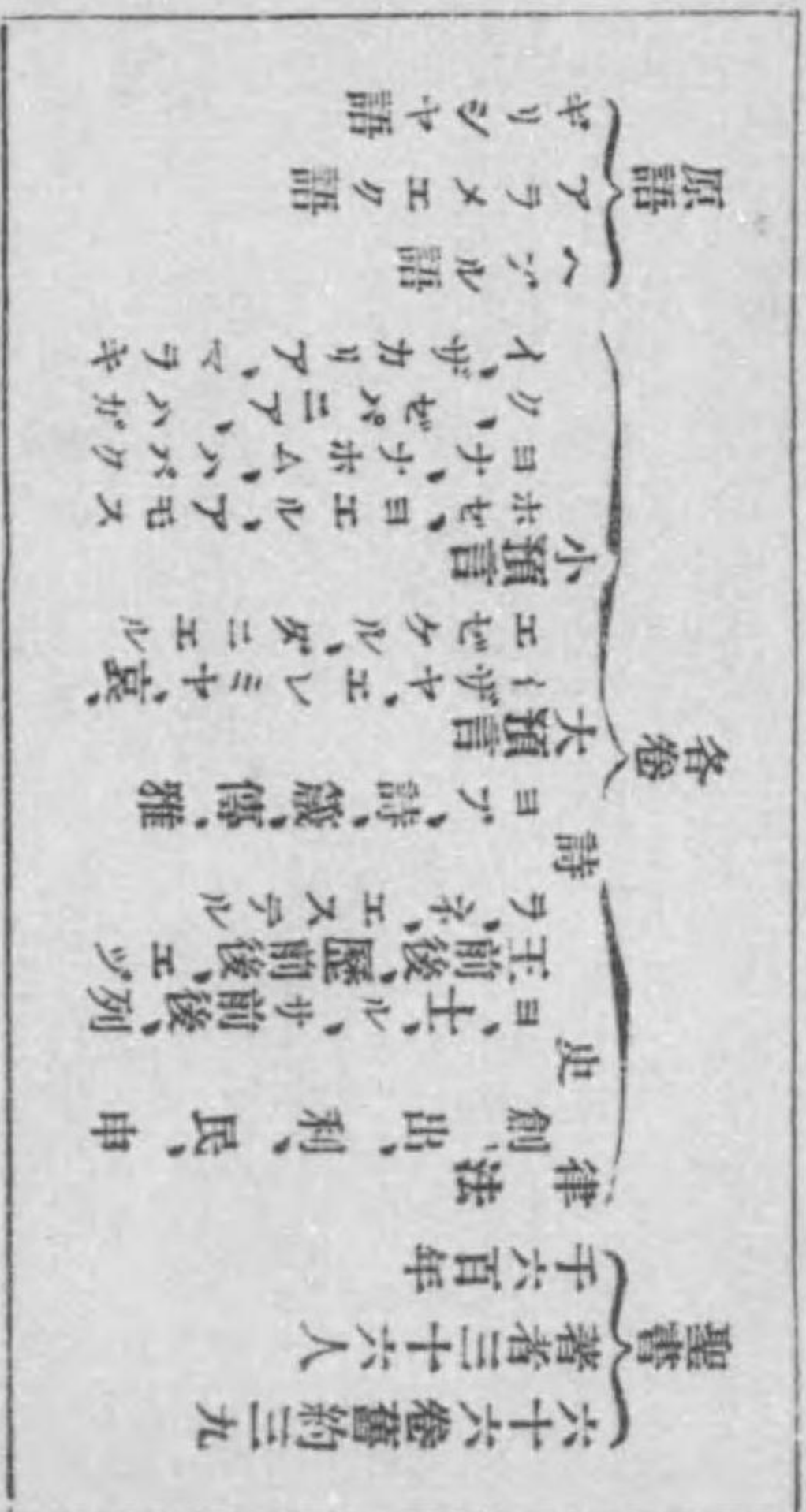
詩書の名を云へ。

大預言書の名を云へ。

小預言書の名を云へ。

黑板上の梗概

舊約聖書



第二課

新約聖書の各卷

新約聖書は新約の仲保者耶穌基督の性格と敎訓を現す爲めに多分八人のひとによつて書かれたものであらう。その中馬太、約翰、保羅、彼得の四人は使徒であつて、馬可と路加とは使徒の弟子、雅各と猶太はイエスの兄弟であつた。第一世紀の後半に各々違

つた時書かれたものである。便利な分類はまづ次の様なものである。

四福音書(即基督傳記) 馬太、馬可、路加、約翰。

史書 使徒行傳。

保羅の書翰十四卷 ロマ書、前後コリント書、ガラテヤ、エペソ、ピリピ、コロサ

イ、前後テサロニケ、前後テモテ、テトス、ピレモン、ヘブライ(著者不明)

他の書翰七卷 ヤコブ、ペテロ前後、ヨハネ一、二、三書、猶太書

預言書 黙示録。

練習問題

注意 教師は筆記試験として此練習問題を課する事、問題は口授し、答のかる、問を待つ可し。

新約は何時誰に依つて書かれたか。

新約聖書は何語にて書かれたか。

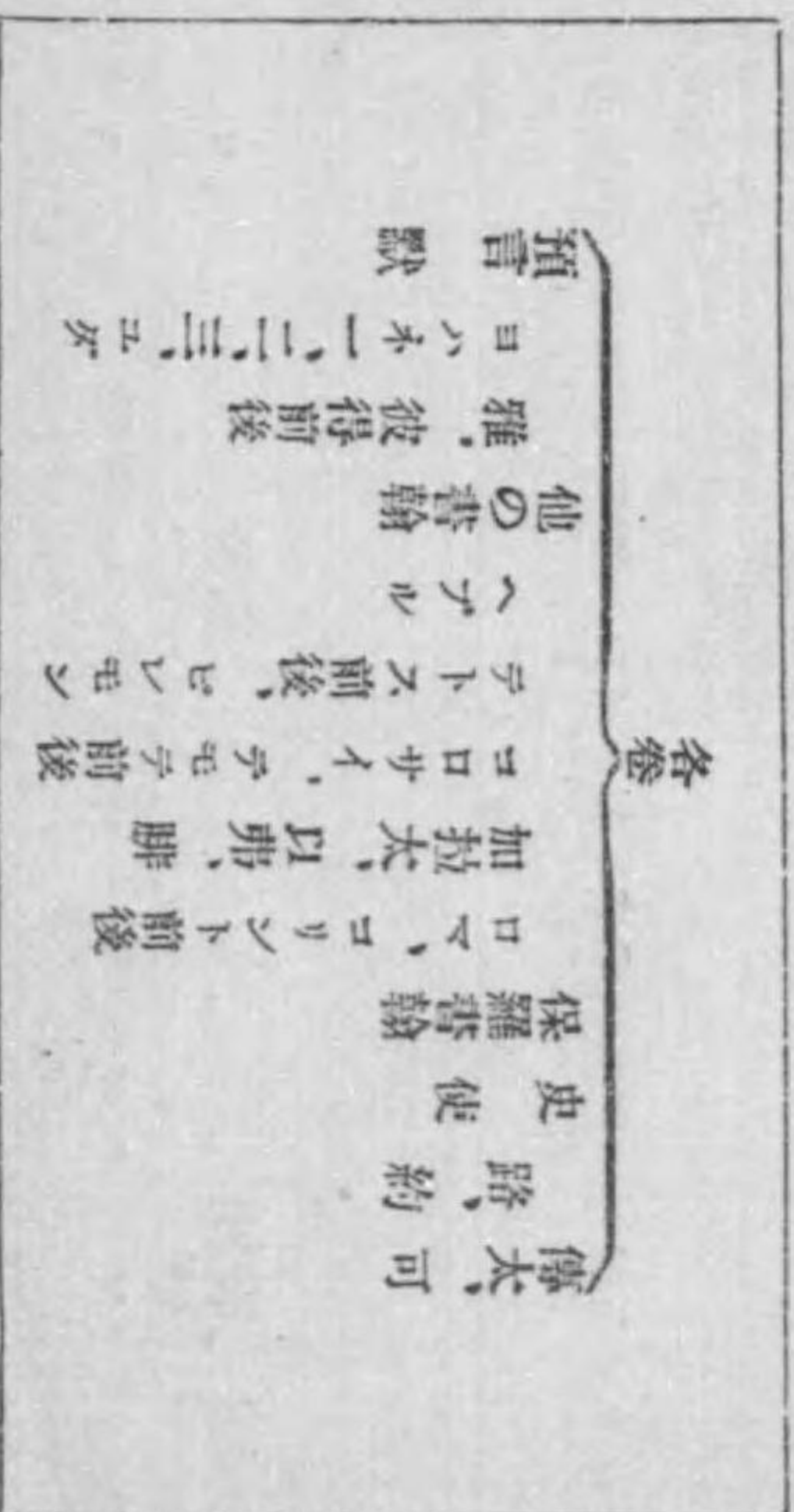
基督の四傳記を擧げよ。

新約の史書の名を云へ。

保羅の書翰の名を云へ。

他の書翰の名を云へ。  
新約聖書の預言書の名を云へ。

黑板上の梗概



第三課

舊約聖書歴史

聖書は人に對する神の默示である。中心の目的は基督を通しての救である。聖書歴

史は事件の宗教的意味を教へ、神が人類の歴史にも携はり給ふことを現すものである。舊約聖書歴史は四期に別つことが出来る。

- 一、族父時代 アダムよりモーセまで。
- 二、士師時代 モーセよりサウロまで。
- 三、王國時代 サウロよりバビロン捕囚まで。
- 四、屬國時代 バビロン捕囚より基督降生まで。

一、族父時代

アダムよりモーセまで、  
(聖書 創世記)

此時期はイスラエル民族が全世界に對する眞の神の智識を與ふる大使命を果さんと

の準備を示すものである。猶此時期を分類すれば、

- 一、神の直系。
- 二、選ばれし家族。
- 三、イスラエルの支派。

一、神の直系

此時代の初めに當つて世界にはまだ國民と云ふものが無い。神の恩は唯地上に於て彼の知識を保存せる少數の選民にのみあらはされて居た。然し段々世は悪くなつた。此時代の神の人は、アダムとイブとその子孫、また特に「神と共に歩みしが、神之を取り給ひしかば然らずなりぬ」と聖書にあるエノク、箱舟を造つたノア、又セムとその子孫である。猶區分すると、

- (い) 創造。
- (ろ) 墮落と約束。

- (は) 洪水。
- (に) 分離。



舊約聖書

(い) 創造（創世紀一、二章）神はみことばを以つて、凡てのものを創造せられた。彼の創造は進歩的であつた。第一、物質界が造られた。それから生命の系統、最後に萬物の靈長として人類を創造せられた。神は猶創造物を思ふ餘り、創造についに、統治と保續を以つてせられた。

(ろ) 墮落と約束 アダムとエバは罪なきものとしてつくられた。然し彼等の性格の能力と耐久力は彼等が悪に勝ち、善を選ぶによつてのみ得られると云ふことになつて居た。彼等は尤も順境に於て試みられた。神は明晰なる頭腦と純潔な心情と、善をなす力を與へられたのである。神は又自らを彼



等に現し、厚情を交へられた。彼等の忠信を試みるは唯從順であるか無いかを知ればそれでよかつた。悪魔は美しき姿を以て現れた。そして神の智と愛を疑ひ、神の命令に背く様に試みた。彼等は誘惑に破れた。そして罪は世に入る事になつた。然し、みめぐみによつて、神は人を罪より贖ふ者と與へんと約束せられた。(創三二五)

(は) 洪水 墮落の後神はセツによつて、世界に新生命を與へ給ふた。彼によつて、約束は残ることゝなつた。セツの子はカインの子孫と離婚して不純なものとなつた。そして唯一人も美人が残らない程まで世は墮落の淵に沈んでしまつた。その人さへ周囲の悪感化に負けさうになつた。神様の忍耐は寧ろ驚く程であつた。聖靈は人と争ひ給ふた。ノアは彼等に警告した。ノアが舟に這入つた後にもまだ一週間の猶豫が有つた。然し人は神の恵を拒んだ。神の恵は拒まれた。そして皆滅びることになつた(創六七章)ノアは舟のお蔭で洪水より救はれ、洪水のお蔭で世の罪より救はれた。舟より出て來た時に一つの祭壇をたて、以後神の奉仕に一生を捧げると云つて誓をたてた。

(創八二十)

(乙) 分離 (創世紀十一章) 洪水の後、世界はもう一度やり直された。けれどもまた人間が殖えんと共に悪くなつた。人間はまた神に背いてバベルを建てた。神より獨立して世界的の帝國を建てやうと思ふたのだ。それで神は彼等を變つた地に散らし給ふた。それから攝理の下に民族、國民、國語が起つた。北アフリカには埃及、地中海にはフェニキア、チグリス川とユーフラテ川の間にはカルデア、カルデアの北にはアツシリアの四大強國が起つた。

練習問題

- 舊約聖書歴史の四大時期を問ふ。
- 族父時代の範圍を擧げよ。
- 族父時代の事に就て聖書は何を教ふるか。
- 族父時代の區分を擧げよ。

第一區分の著名なる人物を問ふ。

神の直系の中にて四つの著しき事件を云へ。

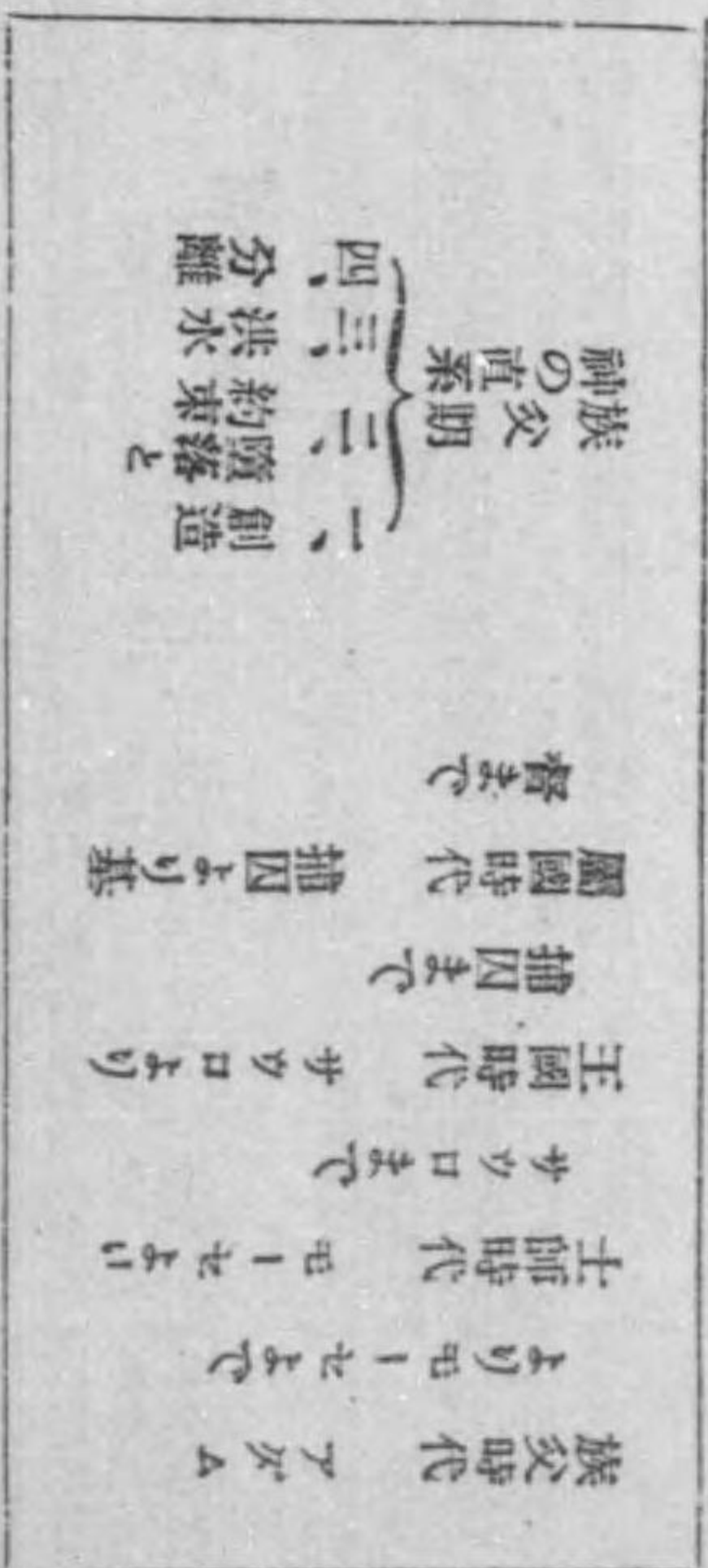
神の創造に就ての三階級を擧げよ。

アダムの神に對する忠信は如何にして試みられたるか。

ノアの時に神は何故に世界を滅し給ひしか。

人類の分離に就て記せ。

### 黑板上の梗概



## 第四課

### 一、族父時代

#### 二、選民

人間が悪い爲めに全人類を救ふとの恵の企が失敗に歸して終つた。それで神は彼の恵の約束を只一家族に限つて其者を通じて、全世界を祝福せんとし給ふた。今神の民の成立に就て攝理の階段を研究しやう。

大事件を區分すれば、

(い) アブラハムの召

(ろ) ヤコブの放浪

(は) ヨセフの出世

(い) アブラハムの召 (創十二章一節—二十五章十節) 神は偶像の都カルデアのウルを

捨て、彼を一大強國の父として仰がしむる、知らざる地に行けどアブラハムをお召になつた。アブラハムは従ひました。そして最初にハランへ参りました。そこで父テラが亡なるまで止りました。それよりカナンに進んで旅行を終りました。シエケムで神は此の地は約束の地であると示し給ひました。即ち此地は神のもの又彼の子孫のものであると教へられました。然し、彼は一所に止ることを許されませんでした。けれども彼は行く處、祭壇をたてり、神の約束を信じて居ることを現しました。で、神も明かにその信仰を嘉し給ひ色々な方法によつて、御自身を顯はし給ひ、「吾が友」とアブラハムをお呼びになつて新しき契約をお結びになりました。(イザヤ四十一八)

彼の家族は特別に神の御保護に預る事なり、神は外の民族と異つて、特別の取扱を



一四

なさいました。

(ろ) ヤコブの放浪 (創二十五章十九節—三十六章四十六節) 神の約束はイサクを経て

ヤコブに傳りました。彼は多くの缺點あるにもかゝらず、神の約束を重じました。ヤコブは彼の放浪中自分の罪の爲めに苦しみました。そして神の鞭撻に依つて善き人に成りました。僞つてエサウから奪ひ取らうと致しました神の恩は遂に彼の眞の所有となりました。

(は) ヨセフの出世 ヨセフはヤコブの末子の一人でした、それだから自然と望がな

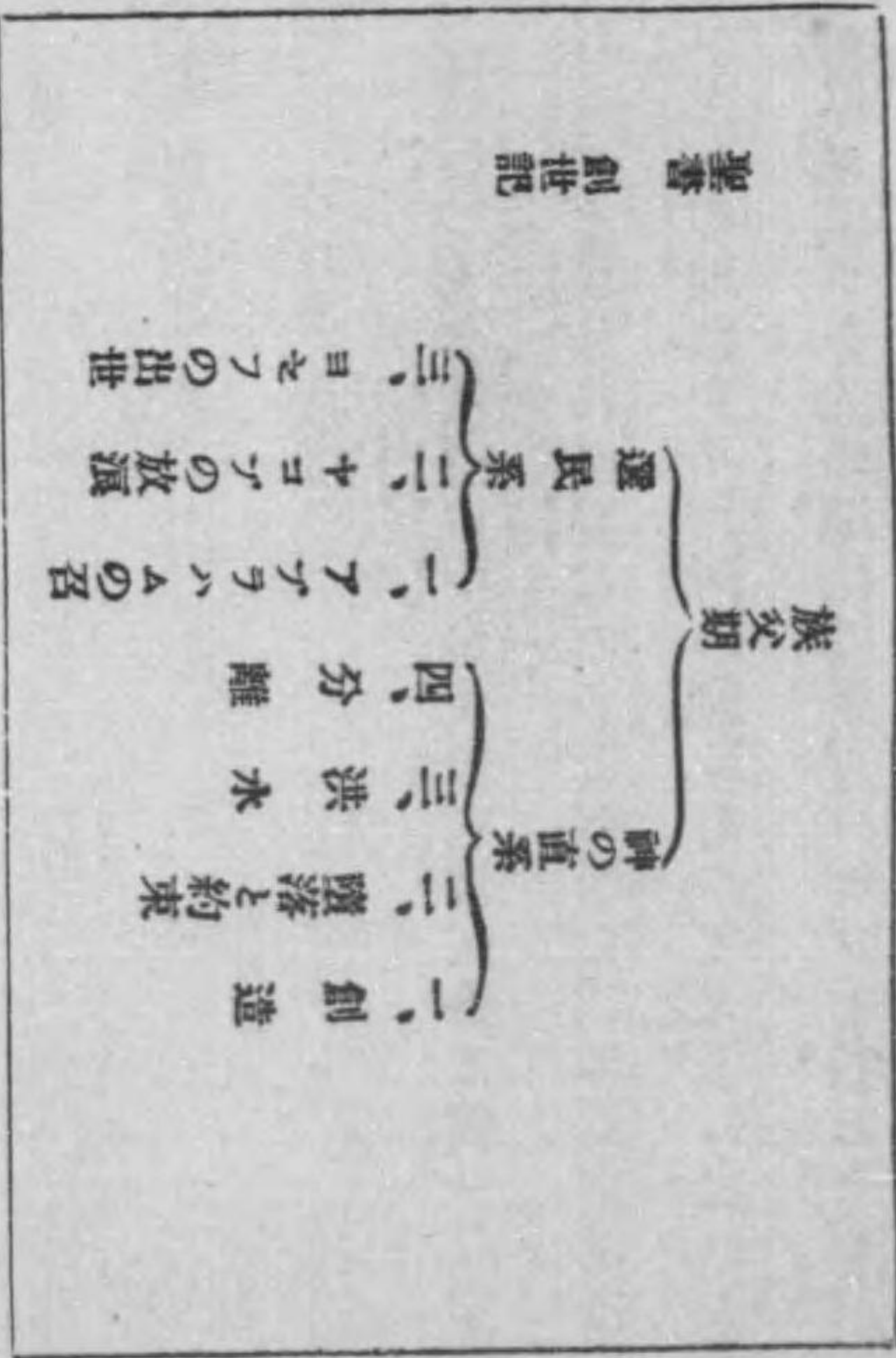
いらしく見えました、と申しますは、戸主権は長子のものであつたからであります、然し神はヨセフと偕に居られました、ヨセフは人の下につくことが出来ませんでした、彼は嫉妬深い兄弟の爲めに奴隷として賣られました、埃及では僞られて訴へられました、そして哀れ監禁の身となりました、然しこの迫害の中にもバロの次位に坐る道が開かれて居たのであります、彼の稀有な智識と純潔と豪毅なる性格とによつて、

彼は父と兄弟とを埃及と云ふユダヤ民族の一教室に連れ来る使命を帯びていたのであります。(創世紀四十五章)

練習問題

- 神は如何にして人類に救を與ふる計畫を變へられしか。
- 選民の家族系の區分に於ける三大事件は何ぞ。
- 神はアブラハムに何を約せしや。
- 神はアブラハムの信仰と性格を如何にして表彰せしか。
- ヤコブの放浪は如何なる良結果を得たるか。
- ヨセフは如何なる人か。
- ヨセフの試練を少なくも三個あげよ。
- ヨセフをして成功せしめし性格上の三點をあげよ。
- ヨセフの出世の爲めに如何なる大切な結果を得たるか。

黑板上の梗概



第五課

一、族父時代

三、イスラエルの支派

此時代に選ばれたる一家族はイスラエルの支派として發達した。そして神の攝理の

もとに一階段に達した。初めの程、神は一個人を、その次には家族を、それから支派を、そして後には國民として關係をお保ちになりました。アブラハムの一家はヤコブの子等の十二家族となり、各家族は各支派の核質となり、そしてエジプトに居る間に支派の組織は出来上つて居りました。區分の大事件は、

(い) エジプトへの旅行。

(ろ) 支派の發達と教育。

(は) 民族の統一。

(い) エジプトへの旅行 善き境遇の中に使命に堪へ得る備をなすため、カナンの悪

風より離れることはユダヤ民族に必要なことであつた。エジプトはその時代最高の文明を彼等に與へ、ゴセンの地はナイル河の側にあつて天下に之れより勝れる地は無かつた。攝理により神はヨセフを此の地に導き、ヨセフを名あるものとし、バロをし

てヤコブとその子等を歓迎し、その地の善きものを與へしめ給ふた。(創世紀四

六四七)

(ろ) 支派の發達と教育 アブラハムの子等は約束の地を受繼ぐに餘り少數であつ

た。それで彼等は増殖する時と機會を待たなければならなかつた。それが數百年間肥えたる幸福なる土地に引き籠つて居た計りで、僅か七十人の一群は少なくとも二百萬を數へる十二支派を形造ると云ふ様になつた。

此間朴訥な羊飼がエジプトの學校で教育され大切な工業或は自治の方法を教へられたのである。この訓練は彼等が荒野とカナンの生活に缺く可らざる大切な準備であつた。

(は) 民族の統一 星移り、時は經つて、ユダヤ人に親しくないバロが王位を占めることになつた、イスラエルの急速なる進歩に驚き、壓制によつて、彼等の人



口増殖を防止せんと試みる様になつた。(出埃及一八十四)

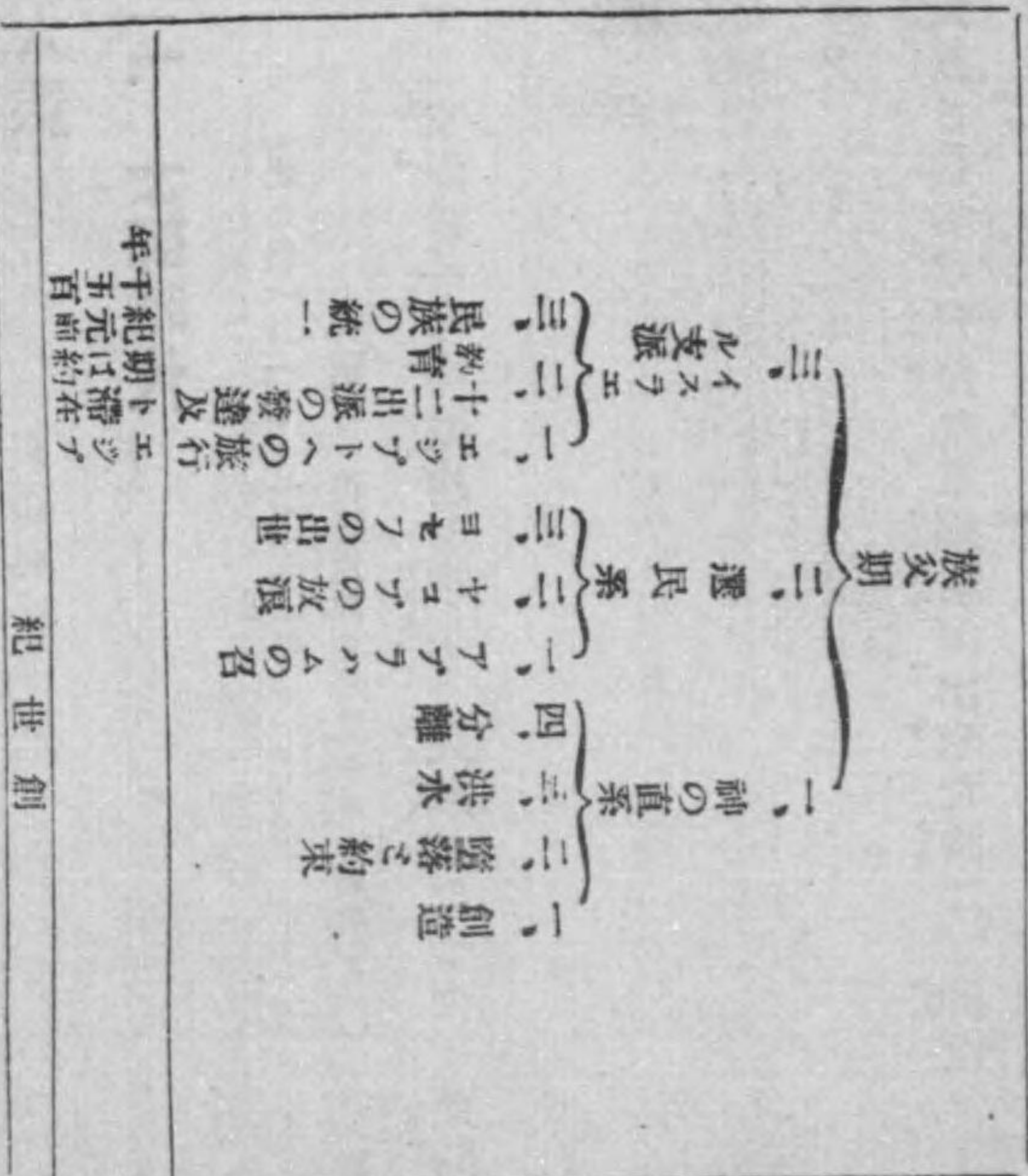
此の長い間の苦しみと悲しみが、遂にユダヤ民族を團結させ、約束の地を懐しむる様になつた。即ちこゝに民族として、初めての團結が出来たので、神のみむねに従ひ埃及の地を去らんとした。

練習問題

神の企の開展に於ける四階段を告げよ。  
 イスラエル支派の三大事件を擧げよ。  
 何故イスラエルの千供等はカナンの地を捨てざる可からざりしか。  
 埃及は何故に此民族にはよき地なりしか。  
 何故に彼等はエジプトに止る必要ありしか。  
 彼等は如何なる訓練を受けしか。  
 パロは何故にイスラエル人を壓制せしか。

彼等の悲哀は民族として如何なる結果を興へしか。

黑板上の梗概



第六課

二、士師時代

〔モーセよりサウロまで  
紀元前一三二七—一〇三〇年〕

(聖書 出埃及記よりサムエル前書まで)

此時代に於て十二支派は一つの政府を形造り民族となつた。此時代を四つに分つ。

- 一、出埃及。
  - 二、荒野の訓練。
  - 三、カナンの征服。
  - 四、士師の政治。
- 一、出埃及、民族として、充分なる経験が出来た時に、神はモーセを彼等の將帥としてお招になつた。彼の一生は三期に分れて居つて、一期各四十年で有る。
- (い)埃及に於ける四十年の教育。バロの女に拾はれその子として育てられ、彼は高等

教育を受け、エジプトの智識に於て勝れた者となつた。(出埃及二二—三三使七三—三三)

(ろ)アラビアの沙漠の靈的訓練の四十年。埃及の四十年は彼を學者とし、政治家としました。神の人としての教育はまだ足りませんでした。荒野で彼は長い間神と交はり圓熟した性格を造りました。

(は)イスラエルの立法者建國者としての四十年。神の御用に立ち得る様になつて神は彼をエジプトに呼び返しました。(出埃及三、四章)

十の災禍にエジプトの家庭は長子を失つて、こりこりし、バロはイスラエルの出て行くことを許しました。(出埃及七章—十二章)

特に今日迄ユダヤ人の間に守られて居る十二章の逾越節の制度に就ては注意すべきものがあります。海を横ぎる奇蹟の有つて後、荒野の生活が始まる。

- 二、荒野の訓練。イスラエルはシナイに進軍し、一年間そこに止つて神より、
- (い)日常生活の標準としての道徳律

(ろ) 禮拜の指南としての禮典  
(は) 國を治める爲めの民法

を受けた。そこで幕屋は建てられ、神の禮拜の式は定められた。神は國民の偶像を拜するを止めさせ、神にのみ頼る事を教へんが爲め、道なき荒野に榮ある輝ける靈をもて導き給ひ、天よりマナを降らせ給ふて、彼等を養ひ給ふた。

カデシバルネアで彼等は神に謀叛して、カナンに入ることを拒んだ。彼等は唯斥候の偽の報告を信じたのである。それで此上三十八年間荒野に放浪はなければならなかつた。(民十三—十四) 此四十年間は次の時期の準備となつた。

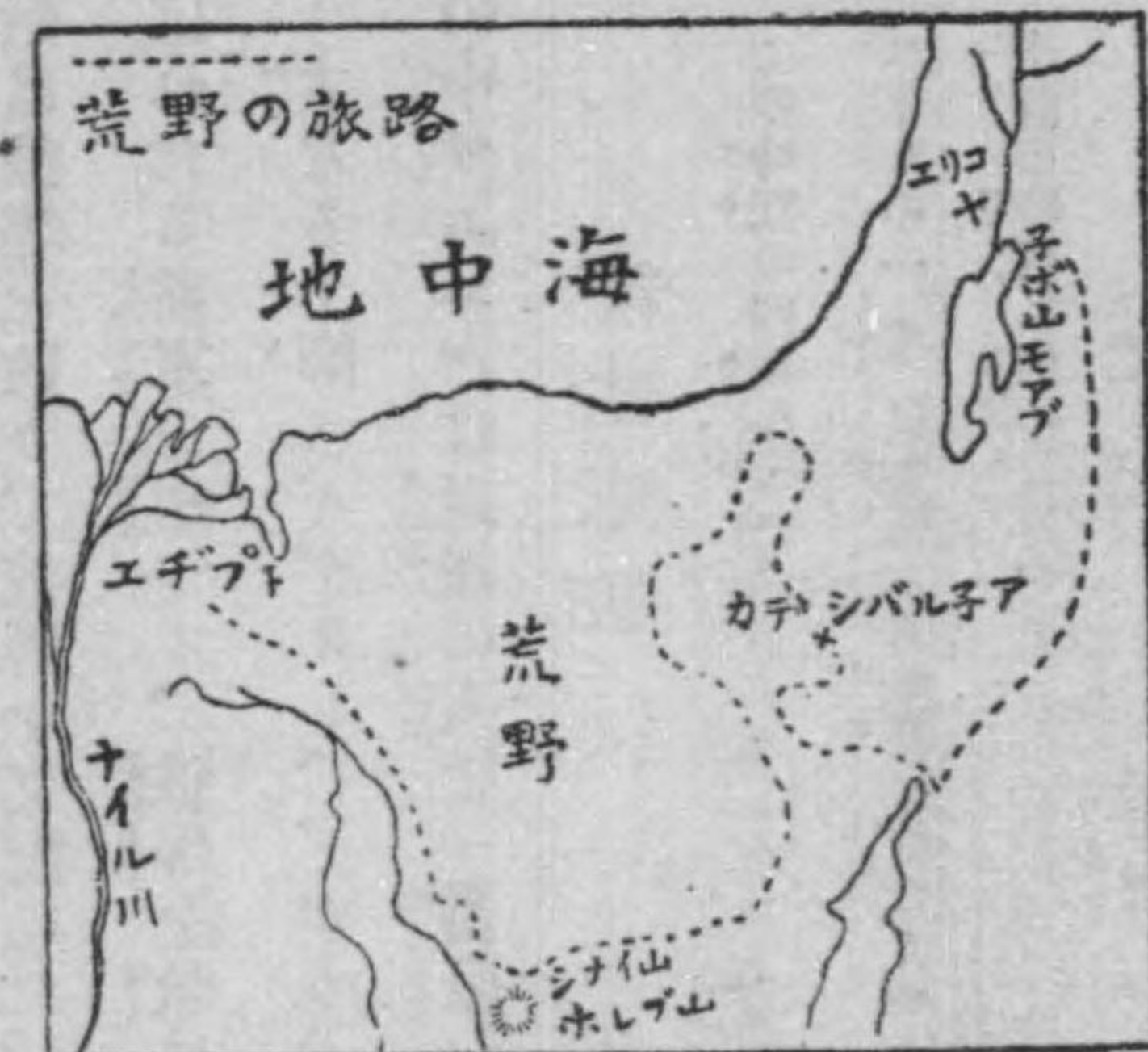
三、カナンの征服 モーセと偕にエジプトから出た大勢の戦士の中で、荒野の旅の終りには忠實なカレブと、ヨセフの子孫であるヌンの子ヨシユアと二人しか残らなかつた。埃及を出た時にはヨシユアはもう四十で有つた、荒野ではモーセと親しく共に

働いて將帥として高き位置を占める準備は充分出来た。

ヨシユアの下にイスラエルはヨルダンを越え、カナンの地の征服を始めた。ヨシユアは三大作戦計画をした。エリコを取つた後で、北部と南部との敵の連絡を断つたために、

中部の強敵を攻撃し、それより南部を征服し、最後に北方の聯合軍に當り勝利を得た(ヨシユア十二) カナン人は征服された。然し全くは驅馳せられなかつた。征服の後支派の間に領地を分割した。

四、士師の時代 ヨシユアの死んだ後、後継者が無かつた。各支派は勝手に振舞つた。都も無ければ、定つた政府も無かつた。災害の場合の外共同の行動は取らなかつた。災害時には共通の利益の爲めに支派が聯合した。彼等が神に逆つた時、



舊約聖書



敵は彼等を敗り、彼等を支配した。悲しみの中に彼等が神に求むる時、神は士師と呼ばれたる將軍を送つて、彼等を救はれた、(士師二十六、二十九)

主なる士師はギデオ、デボラ、サムソン、エプタ、エリ、サムエル、であつた。此の中サムエルは最後の人で一番豪かつた。

練習問題

この時期の四期を云へ。

モーセの一生は如何なる時期に分たるや。

士師の時代は何年なるや。

アラビアの荒野に於てモーセは何の益を受けしや。

パロをしてイスラエル民族にエジプトを出づる許可を與へしむる爲に、神は如何なる方法を取られしや。

シナイ山にてイスラエルは如何なる法律を與へられしや。

カデシバルネアに於けるイスラエルの罪は何ぞ。

ヨシユアは將帥として立てられん爲めに如何なる訓練を受けしか。

ヨシユアはカナンの征服の爲めに如何なる三大会戦をなせしや。

ヨシユアの死後如何にして人民は統轄されしか。

六大士師の名を擧げよ。

如何なる場合に士師は現れしか。

黑板上の梗概

11. 士師時代	1. 出埃及	11. 荒野の訓練	13. カナンの征服	14. 士師の時代	年代	1311-1010年	聖書	出埃及よりサムエル前書まで
----------	--------	-----------	------------	-----------	----	------------	----	---------------

第七課

三、王國時代

〔サウロよりメビロン捕囚まで  
紀元前一〇三〇—五八七年〕

〔聖書 サムエル、列王記略、歴代及預言書〕

此時代は王國の勃興より衰退に至るまでの間である。我々は既に聖書歴史の始めに極く僅な人々に神の智識が保存せられ、選ばれたるアブラハムの一家に神の恵が止まることを學んだ。そして此一家がイスラエルの十二支派となり、支派の生活が遂に發達して國民となり、國民は王國を形造るに至つたのである。

區分

- (一) 統一王國
- (二) 分裂王國

一、統一王國

士師の中で最も大なるサムエルの統治の下にイスラエルの敵は征服せられ、四面平和となつた、然し國民は不平であつた、彼等は外の國民の様に王を要求した。そして神は彼等の思ふが儘に王を與へ給ふた。(サムエル前八六)

始めての王でキシの子なる サウロは、四十年間治めた、彼は容貌の勝れた能才であつた。(サムエル前九二—三—二四)

然し乍ら、彼は我儘で神様に背き勝であつた、始めの程はよかつた、それでペリシテ人の戦争には勝利を得たのである、然し直に神より離れてペリシテ人の戦争に敗れ、自殺した。(サムエル前三—一—六)

ダビデ サウロが失敗した時に、神は御心にかのふ一人の後継者をお選びなされた。(使一三—三)

ダビデは高き位に登るだけの訓練を経てゐました、羊飼の子供としては、神との交通の精神を涵養し、智慧と、堪能と、義務に忠實な精神に充されて居た、彼の後々受

けた試は彼の性格を益々圓熟せしめた、勿論多少の缺點もあつた、それでも彼の多くの美點を打消すことは出来ない、彼は恐ろしき罪を犯した、然し彼の生活の習しは純潔な者であつた、兎に角彼はイスラエルの王の最大なるものであつた、ダビデの治世は四十年間續いた、七年間彼はその都へブロンでユダヤ人を治め、その後國民に認めらるゝに至つて、正式の王となり、エルサレムを占領して三十三年間此の前より國のまんなかに近い都で治めた。(サムエル後五月、五)

彼は戦争に勝て國民の爲めに全き獨立を獲得し、遂にユーフラエ川まで占領して領地を廣めた。彼は契約の箱をエルサレムに運び、神の禮拜式を定めた、彼は又神殿建築の準備をした、彼の詩篇は今日に至る迄神の民の信仰を助けて居る。

ソロモン ダビデの子であつて、その後繼者であるソロモンは四十年の間世を治めた、彼の代は神殿建築によつて忘る可らざるものと成つた、ソロモンは繁榮を以つて世を治め智慧を以つて名高かつた。(列王上十)

然し彼はその榮華と驕の爲めに毒せられた、彼の時代に再び偶像禮拜が起つた。

(列王上十一六一)

練習問題

民族としてのイスラエルの發達の順序の大略を告げよ。

王國時代の區分を告げよ。

何故に國民は王を求めしか。

サウロの性格如何。

ダビデは如何なる人なりしや。

ダビデは何故王として適當なりしや。

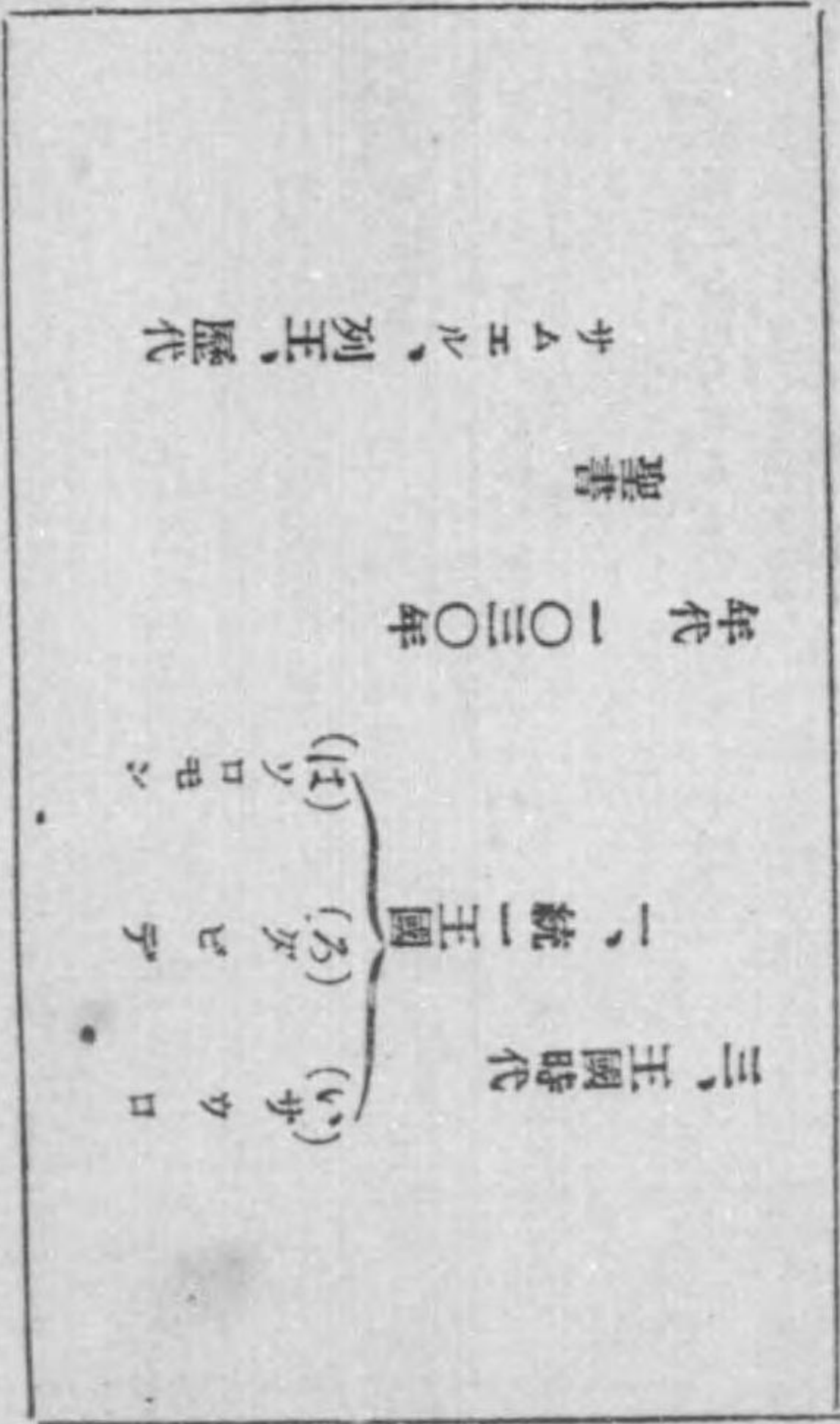
ダビデは何處にて世を治めしや 各の都にて何年治めしや。

ダビデの著しき事業を告げよ。

何に依つてソロモンの治世は忘る可らざるものとなりしや。

ソロモンの代に如何なる悪事が國民の間に顯れしや。

始めの三人の王は何程永く世を治めしや。



第八課

三、王國時代

二、分裂王國

ソロモンの死後、國民はソロモンが課した重税を減せられんことを要求した。ソロモンの子である新しき王レホボアムはこの要求を拒んだ。(列王上十二一十二)

それで北の十二族は謀反してネバテの子エロボアムを王とし、新しき王國を設立した。此國は「イスラエル王國」或は「十族の王國」と呼ばれた。始めの程セケムが都であつたが、後にサマリアに變つた。残りの二族ユダとベニヤミンはレホボアムについてゐた。エルサレムが都でユダヤ王國となつた。

(イ) **イスラエル王國** エロボアムは人民が南王國のエルサレムに禮拜に行く事を止めんと牡牛禮拜を起して、南にはユダに接したベテルに、北にはダンに祭壇を築いて人民を偶像禮拜に誘つた。エロボアムの後繼者の一人アハブはフェニキアの王女イゼベルと結婚した。彼女はイスラエルに、フェニキアの神バウルとアシタロテの禮拜を起さんことをアハブに勧めた。(列王上十六三三、三三)

かく神より離れた結果は唯一つであつた。即ち國民の悔改めがなければ王國は滅亡

すると云ふことである。神は大なる預言者エリヤを遣して神に歸れと云はしめ給ふた。エリヤの後、エリシヤは有力なる働をした。退潮は暫時止つたとは云へ、また間もなく下り道になつた。人民は偶像と婚した。そして十九人の王の中で一人の善人がなかつた。遂に紀元前七百二十二年アツシリアのサルマネツセルがサマリアを蹂躪し、イスラエル王國は茲に滅亡してしまつた。(列王下十七章)

(ろ) ユダ王國 イスラエルに較べて遙かに勝れてゐた。民間には團結力があり、道徳宗教に於て遙かに勝つて居つた。ユダの人々は北王國の人に比べてエホバに忠信であつた。で、ユダ王國はイスラエルより百三十年間永續した。

ユダが勝れてゐたと云ふ理由は、主として神殿がユダの領分に有つて、祭司及びレビ人が之と偕に居た爲めである。レビ人は多くエロホアムの迫害の爲めに北王國より逃げて來たのである。ユダには二十の王の中で、ヨシヤバテ、ヘゼキヤ、ヨシユア、ヨアシの様な神々しい明君が有つたことは幸な事である。預言者イザヤとエレミヤは

王國の衰亡に際しては神よりの特別の使者であつた。然しこんな恵があつたにかゝはらず、罪は益々國を傾かせ國民は捕虜となつて行つた。それは下の通りである。



紀元前六〇五年、ユダの王エホヤキムの時ネブカデネザルの軍勢が侵入してダニエル始め多くの人々をバビロンに連れて行つた、これが捕囚七十年の始である。(列王下二四二)

五九八年前ネブカデネザルはエホヤキム及び預言者エゼケルを始め一萬人を捕虜として行つた(列王下二四一十六) 五八七

年前ゼデキヤがユダの王であつた時ネブカデネザルの軍勢がエルサレムに侵入し宮殿を破壊して上流の人達をバビロンに捕へて行き、貧民計りを残した。(列王下二五章)

日曜學校教授法  
練習問題

人民は如何なる要求をレホボアムになせしか。  
レホボアムの拒絶は如何なる結果を來せしか。  
統一王國の次に如何なる王國が起りしか。

イスラエル王國の首府を云へ。

ユダ王國の首府を云へ。

エロホアムは人民が南王國に行くを如何にして防ぎしか。

アハブは人民の間に偶像禮拜を増す爲めに如何なる事をなせしか。

エリヤの使命は何ぞ。

何時何者によつてサマリアは陥落せしか。

何故ユダ王國はイスラエル王國より永續せしか。

ユダの四名君は誰々なるか。

如何なる預言者がユダヤに遣されしか。  
何時何者によりユダの人民は捕虜として運ばれしか。

黑板上の梗概

聖書	サムエル、列王、歴代預言書						
年代	サマリアの陥落—紀元前七二二年 エルサレムの陥落—紀元前五八七年						
時代	<table border="0"> <tr> <td rowspan="2">統一王國</td> <td>サカロ</td> </tr> <tr> <td>ダビデ</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">分裂王國</td> <td>イスラエル王國</td> </tr> <tr> <td>ユダ王國</td> </tr> </table>	統一王國	サカロ	ダビデ	分裂王國	イスラエル王國	ユダ王國
統一王國	サカロ						
	ダビデ						
分裂王國	イスラエル王國						
	ユダ王國						

第九課

四、屬國時代

〔バビロンの捕囚より基督の降生まで〕  
紀元前五八七—四七四年迄

(聖書 エズラ、ネヘミア、エステル、ダニエル、エゼキエル)

此時代に神は、基督の降生の爲めに其地と民と世界とを準備した、此目的の爲めに小さな戦争好きの民族や國民が一つの大きな帝國に因り、其帝國の援護に依つて十字架の使徒等が全世界に福音を傳へる様に準備したのである。此時代の偉大なる征服者は知らず識らずに自分の務めを一一果して居たのである。それは神の御攝理に由つて世界の贖主がお顯れになるに都合のよい世界を備へる爲めであつた、此時代を五つに分けることが出来る。

一、カルデア捕囚時代 捕囚の間 捕虜は一所に住んで宗教的生活を續けることを許された。彼等には神殿も無ければ犠牲もなし、唯安息日と律法の種々な事が守られただけであつた、彼等はエゼケルとか、ダニエルの様な宗教的指導者を持つてゐた。

二、ベルシヤ王國時代の回復 紀元前五三九年ベルシヤ王クロスはカルデアを征服し、七十年の期が満ちた時、神の靈に感じて、エルサレムの神殿を再建するの命令を

發した。そしてユダヤ人を放還し、ユダヤ人に神殿再建にとりかゝることを許した。(エズラ十二、三)

ゼルバベル及びヨシユアは五萬のユダヤ人と共に故國に歸り二十年の後宮殿の再建を終へ献堂式を擧げた。(エズラ二、六章)

紀元前四五年、書記官エズラは順禮の一小團隊と共に、國民の生活、禮拜の弛廢を改善せんとしてエルサレムに歸つて來た。(エズラ七、八章)

紀元前四四五年、アルタサクセス王の酒人ネヘミヤはエルサレムに第三の遠征隊を率ゐて來た。そして邑の堀を修復し多くの革新に功を擧げた。

三、希臘の優勢時代 アレキサンダー大王が紀元前三三一年ベルシヤを敗つた時、パレスタインは、希臘の勢力範圍に歸した。アレキサンダーはすぐ死んだが、その帝國は部下の將軍の間に分割された。そして多くのギリシヤの風俗がパレスタインに入つて來た。

特に此時代全世界に使用せられていたギリシヤ語が輸入せられて、神が世界にキリストを紹介せんとする國語となつた。シリア人であるアンチカスは權威を以つてパレステナに臨みギリシヤの偶像教を民に強ひた。彼等は反して多數のものが虐殺された。

四、マカベの獨立　マカベと呼ばれる、マタイヤスと其子は、ユダヤ人の一軍隊を組織して壓制者に向つて、勇敢に戦つた。二年後、ユダス・マカベアスは父の後を繼いだ。が、遂に自由を獲得し、百年の間獨立を保ち得た。

五、羅馬時代　紀元前六十三年、羅馬の將軍ポンペイがパレステナに侵入し、羅馬帝國の名に依つて占領した。三十七年前ヘロデ大王は羅馬の議會で王に任命され、その治世の間に基督が生れた、此時代はメシヤが直に來ると云ふことを世界的に望んでいたので、ユダヤ人の中の信仰深い人は、生きてゐる間に、メシヤが來るのだとの希望を抱いてゐた。

練習問題

- 此時代の聖書は聖書の如何なる部分にありや。
- 如何に此時代は基督の事業の爲めに世界を準備せしや。
- 捕囚時代に於ける捕虜の狀態如何。
- 故國回復は如何にしてメシヤ人の治下に行はれしや。
- ゼルバベルは如何なる事を完成せしや。
- ネヘミヤはエルサレムに於て如何なる事をなせしや。
- 希臘のパレステナに於ける統治は如何なる結果を來せしや。
- マカベは何をなせしや。
- 基督の生れし時のパレステナの支配者は何人なりや。

黑板上の梗概



聖書	イサヤ、ホセ、エレミヤ、エズラ、ネヘミヤ、マカビ、エズラ、ネヘミヤ、マカビ、エズラ、ネヘミヤ、マカビ
終る	バビロンの捕囚は前五三八年
四、屬國時代	一、カルデアの捕囚 二、バビロン時代の回復 三、希羅優勢時代 四、マカビ王朝獨立時代 五、羅馬の治下

### 第十課

#### 舊約の世界

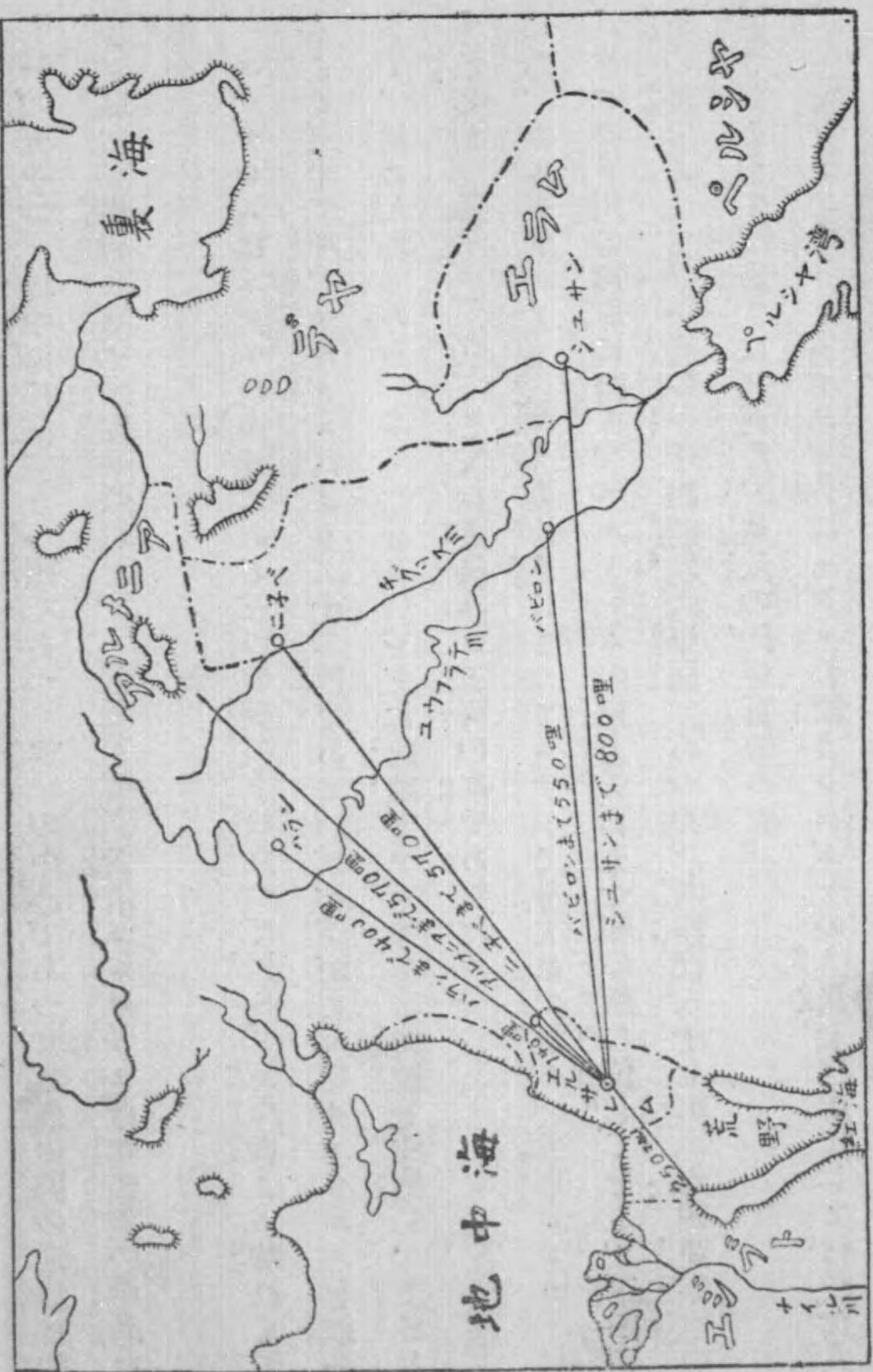
舊約世界は千二百哩の廣さがあつて、東はミデア、ペルシヤより、西は埃及地中海に至り、北はアルメニアの高原より、南はアラビアの沙漠に至る迄八百哩の間が居る。

一、カナン 地中海に濱する小國であつて興味の中心であつた。外の國の地域は約東の地との關係によつて定められた。(申命記三二) 首府エルサレムは諸民族の中心に置かれた。(エゼケル五五)

エルサレムはユダヤの山地にある三つの岡の上に立つて居る。海岸線より離れて居ること三十二哩、ヨルダン河より二十二哩である。ダビデがこゝでイスラエルを統一して、治めたのである。(サムエル後五六一九) また此處でソロモンは神殿を建築し、王として治めた。(歴代下一七) こゝは其後ユダ王國の都であつた。

二、カルデア アラビアの沙漠によつてカナンと分たれて居る。首府バビロンはユウフラテ川の兩岸に跨り、エルサレムの東方五百五十哩の所に位してをる。正四角形の都であつて、一邊各々十四哩(六里弱)あつた。其城は八十七呎(十四間半)の厚さがあつて、高さは三百尺、眞鍮の門が百あつた。

バビロンの王ネブカデネザルはユダヤの國よりユダヤの人民を捕虜にして行つた人



である。(エレミヤ二十一セダニエル一)

エデンの花園及びバベルの塔は多分カルデアに在つたのであらう。カルデアのウルはアブラハムの生地である。

三、ペルシヤ ペルシヤ湾の東方に位しエルサレムより八百哩の所に在つた。

メデアとエラムはペルシヤ帝國に合併された。(エステル一ノ二三)

ペルシヤの都シユシヤンはエラムの地に在つた。ダニエルはこゝでペルシヤ帝國の内閣總理大臣となつた、また此處でエステルがアハザエラス王の皇后にあげられ、ネヘミアも同じ御殿の王の酒人となつた。(ネヘミア一二二)

アツシリア王の命令に依つてイヌラエルの捕虜はミデアとエラムの地に移された。

(列王下一七六)

四、アツシリア カルデアとエラムの北に在つた。ニネベは大きな都であつて、ヨナが遣されたのはこゝである、チグリス河の傍に位し、エルサレムより五百七十哩の

所に在つた。バビロンやスサナの様にニネベも亡びてしまつた。然し發掘によつてこ  
れらの都の昔の繁榮を忍ぶことが出来る。

五、メソポタミア アッシリアの西方チグリス河とユウフラテ河の間にあつて、

ダンアラムと呼ばれて居る。(創二五二)

ハランは大なる町で、アブラハムがカルデアより約束の地なるカナンに旅行するに  
際して暫く父と共に止つてゐた處である。(創十一三二)

六、アルメニア メソポタミアの北方エルサレムより五百七十哩の處にある、アル

メニヤはまた屢々アララットとも呼ばれて居る、この地はノアの洪水の時に箱舟が止  
つた處である。考へられて居る。(創八四)

七、シリア メソポタミアの西方、ユウフラテ河と地中海の間にある要路に當つて  
居る、ダマスコは首府であつて、エルサレムの北方百三十哩に位し、沙漠の一潤澤地  
に建られたものである、アバナ川及びバルナバ河の流域によつて潤されて居る。(列土

下五十二) エリシヤは癩病を癒されたナーマンの故郷であつて、(列王下十四)また迫害者タル  
ソのサウロが此處に行かんとして途中悔改めた處の町である。

八、エチプト ユダヤ人が嘗て奴隸であつた地で、エルサレムの西南二百五十哩の  
處にある。アブラハムが飢饉の時に此地に下り、ヤコブと其子はまた此地に移住して  
ゴセンの地を與へられた、オン即ちペリオポリスはヨセフの義理の父の生地であつて、

(創四一四五) モーセは此地の學校に通ふた、大きな大學の廢趾が此處で發掘された。

黑板上の梗概

メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ
メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ
メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ
メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ	メ メ メ メ メ メ メ メ

練習問題

舊約世界の廣さは何程ありしや。

カナンは何處にありや。

エルサレムに就てその重要なる事業を擧げよ。

カルデアは何處に位するか。

バビロンの位置及び其光景を云へ。

ヘルシヤは何處に位するか。

ヘルシヤの都の名と其位置を問ふ。

ヘルシヤの首府にて如何なる有名なる聖書の人物が住みしか。

アツシリアの位置及び其都會の名を告げよ。

ミノボタミアの位置と其首府の名を問ふ。

アルメニヤの位置を問ふ。

シリアの位置及びその首府の名を問ふ。

エチオピアの位置を問ふ。

複習の梗概

一、族父時代 アダムよりモーセまで、

一、神の直系

(い) 創造 (ろ) 墮落と約束

(は) 洪水

(に) 分離

二、選民族

(い) アブラハムの召 (ろ) ヤコブの放浪

(は) ヨセフの出世

三、イスラエルの支派

(い) エジプトへの旅 (ろ) 支派の發達及教育 (は) 民族の統一

二、士師時代 モーセよりサウロまで、

四大過渡期

(い) 出埃及 (ろ) 荒野の訓練 (は) カナンの征服 (に) 士師の政治

三、王國時代 サウロよりバビロン捕囚まで、

(い) 統一王國 (ろ) 分裂王國

舊約聖書

四、屬國時代

バビロン捕囚より基督の降生まで、

- (い) カルデヤ捕囚
- (ろ) ヘルシヤ時代の回復
- (は) 希臘優勢時代
- (に) マカベ王朝獨立時代
- (ほ) 羅馬の治下

第二編 新約聖書

第一課

緒言

時滿ちつて、地上に約束せられてゐた救主は來給ふた、イスラエルの子等はバビロン捕囚の間に偶像禮拜から離れ、世界に散つて萬國民に神の智識を教へ、キリストによれる光明を見るの準備をした、異邦人の中にも既に多くの者は虚偽の宗教を捨て贖主に憧れてゐたのである。

羅馬は世界を征服し、知らずして基督の福音の使者の便を計らんが爲に、世界に通づる道を設け、また彼等を守らんが爲めに強固なる政府を組織した、新約聖書の書かるべき希臘語は此時既に全世界の通用語となつて居つた。

此等の準備が凡て成つた時、榮の主は人の子の間に來り給ふた。

新約聖書は即ち彼の生涯と事業を始め、教會の設立より彼の國の發展の記録である。我等は新約聖書歴史を次の様に分類することが出来る。

- 一、基督の私生涯。
- 二、基督の傳道。
- 三、エルサレムの教會。
- 四、異邦人の教會。
- 五、世界的教會。

### 一、基督の私生涯

(聖書 マタイ および ルカ)

福音書は左の重要なことに就て我等に教へる。

- 一、降誕。
- 二、家庭。

### 三、教育。

### 四、職業。

一、彼の降誕 ユダヤのベテレヘムであつた。(マカ五二マタイ二)彼の生活は概から始つた。彼の搖籃は馬槽であつた、彼の知人は賤民であつた、彼は頼りのなき幼兒、誠に人間の中の人間であつた。

然し彼は天使の長に先驅せられ、天使の讚美に歓迎せられ。地上の智者に禮拜せられた、彼はまた神らしきものであつた。

二、家庭 エジプトより歸つて後マリアとヨセフはガリラヤの山中にある一小村ナザレに住んだ、(マタイ二三)村の生活は家具の多からぬ賤しいものであつた、然しまた善良なる家庭であつた、道德的に優れたものであつた、ヨセフは義人で(マタイ一九)マリアは心の美しい女であつた。イエスも善良な子であつた。(ルカ二五)

三、教育 初めての先生はマリアであつた。マリアは貯へのある頭腦を以て舊約聖

書をイエスに教へた、イエスはまたユダヤの外の子供等と一緒に村の會堂の學校に出席して読み書きを教へられた、彼は當時の通用語アラメクに熟達してゐた。彼がまたヘブライ語希臘語の聖書を讀んだ證據は彼が引用して居る言葉で知れる。

彼は注意深かつた、で、自然からも社會からも色々なことを學んだ、鳥(ルカ八五マタ)イ六二六) 花(ルカ十二二七)も彼を教へた。彼は百姓(ルカ八五八) 羊牧より學んだ、(ヨハネ十章) 又彼は屢々ナザレの正南の小山に昇つて、エジプトと東方に通ふ隊商の通路を見下して、貨物を運ぶ商人、また軍人、或は旅行家を見たことであらう。又彼は偶には之等の人々と語り商賣に従ふて色々な譬喩を學ばれたことであらう。

彼は神と人に愛せられ、智識と力にいや増つていつた。(ルカ二五二) 十二歳の時、彼は逾越節にエルサレムに上つたが、之は彼が神に就てエルサレムの學者と語る好機會であつた。

四、職業 その後十八年間は沈黙の中にすごした。唯我等は彼が大工であつたと云

ふことを知るだけである。(マカ六三) 彼は仕事を覚え、椅子腰掛を造へて、労働の神聖なるを示した。これらの間に彼は貧困の悲しみと誘惑を経験せられ、そしてまた貧民の要求には如何にして應ずべきかを學んだ。

練習問題

イスラエルの子等は如何にしてキリストの爲めに世界を開きしか。  
羅馬は如何にして無意識に基督の事業の爲めに準備せしか。  
當時希臘語の世界に通用せしことは如何なる價値ありしか。  
新約聖書の五區分を問ふ。

イエスの私生涯に於ける四つの事を云へ。  
彼を聖なるものと禮拜せし三つの人々を云へ。  
我等は基督の家庭に就て何を知るか。  
彼の教師は如何なる人なりしや。  
彼は觀察によつて何を教へられしか。

彼は何語を解せしか。

彼の職業は何ぞ。

彼の日常の勤勞は後の傳道に如何なる助を與へしか。

黑板上の梗概

<p>一、キリストの私生涯</p> <p>一 降生 二 家庭 三 教育 四 職業</p>	<p>二、キリストの傳道</p> <p>三、エルサレムの教會</p> <p>四、異邦人の教會</p> <p>五、世界的教會</p>
--	---

第二課

一、基督の傳道

通例基督の傳道は左の如く別たれて居る。

一、豫備の一年。

二、全盛の一年。

三、迫害の一年。

一、豫備の一年

バプテスマよりガリラヤ傳道の初めまで

(聖書 ヨハネ傳第一章より四章まで)

此時代は靜かに働かれてゐた時であつて、社會はまだ彼を知らなかつた。此時代は殆ど全部エルサレムとその近郊で送られた、そしてメシヤとしてユダヤ人に自啓し給



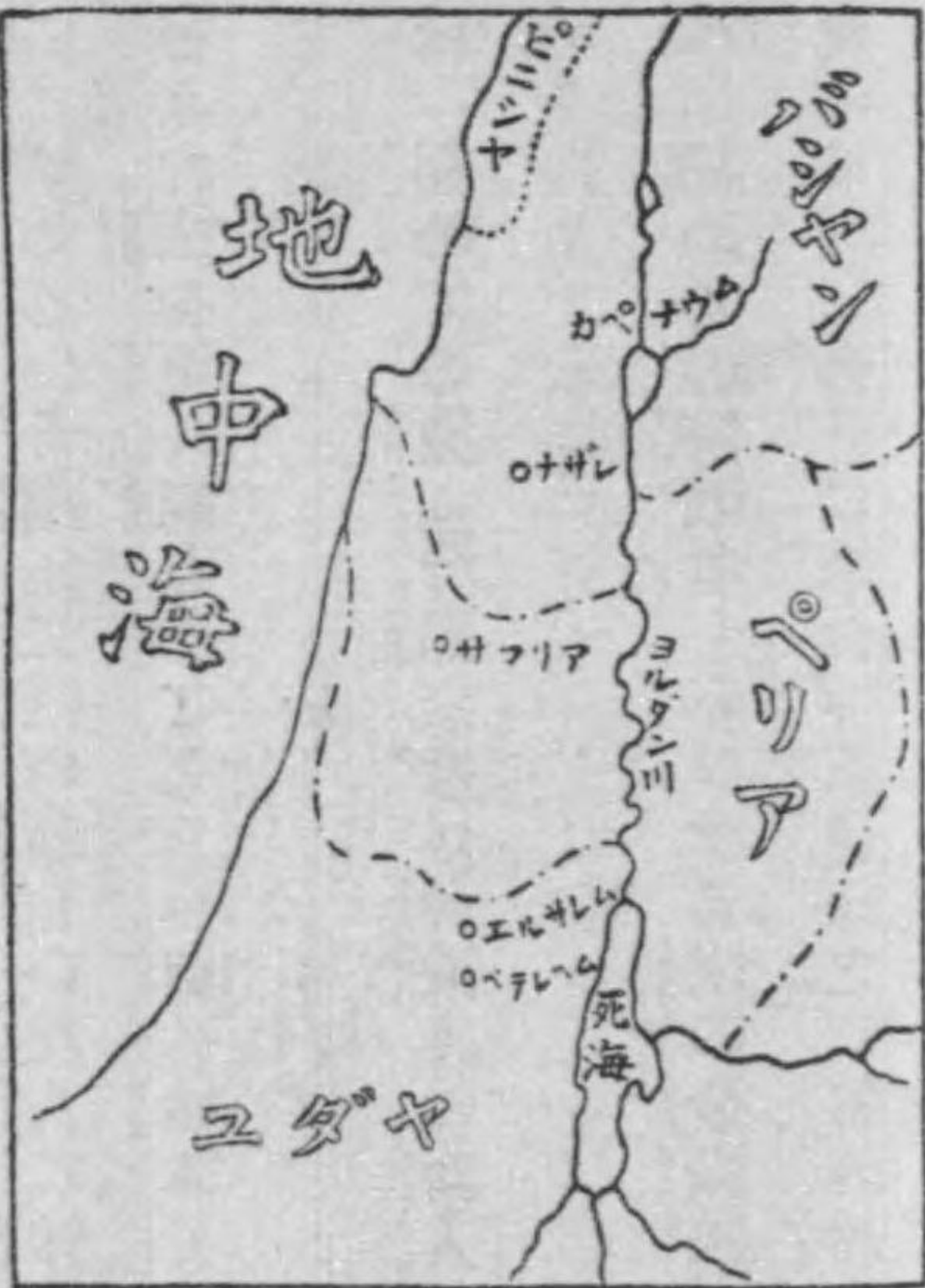
ふた。

此時代の主なる事件は、

- (い) バプテスマ。
- (ろ) 誘惑。
- (は) 初めての弟子。
- (に) 初めての奇跡。
- (ほ) 初めての逾越節。
- (へ) 初めての悔改者。

(い) **バプテスマ** 三十歳の時、彼はナザレを出でて他の巡禮などと共に、バプテスマのヨハネの説教を聴かうとヨルダン河に行かれた。ヨハネの使命は民の心を來る可きメシヤの爲めに備へさせ、また彼が來た時に之を指し示すことであつた。(マタイ三一二)

ヨハネ一二六(三四)



イエスは自ら卑下して、教を乞ふもの、一人の如くバプテスマを乞はれた、之によつて、彼は罪人に對する深き同情を示され、罪人の如く扱はれることを氣に止め給はなかつたのである。「こは吾心にかのふ吾愛子なり」との天父の御聲は誠に彼が地上に於ける三十年の生活を嘉し給

ふたのである、聖靈の降臨はイエスが之より入らんとする公生涯に備ふる爲めに彼の人性に満たすに力を以つてした。

(ろ) **誘惑** 直にバプテスマの後に起つた。バプテスマは彼が傳道の入口であつたが、誘惑は彼が傳道に適するや否やを試み、またその意志を強固にしたのである、三度の誘惑に悪魔は基督をして、人を救ふ爲めに難みを受けられ死なんとせられることを中

止させ、ユダヤ人が期待してゐた地上の帝國を建設せんと試みた。(マタイ四二二)

(は) 初めての弟子 誘惑者を征服して、イエスは愈々傳道界に投せられた、彼は第一に彼の周圍にあつて、彼の友たりまた同伴者たり得る四五の善人を呼び集められた、その主なるものはアンデレ、ペテロ、ピリポ、ナタナエルと多分ヤコブとヨハネも這入て居たらう。(約一三五―一五二)

(に) 初めての奇蹟 二三の新しい友人に伴はれて彼はガリラヤのカナに行き、酒宴に盡きた酒を更に新しくこしらへ與へ給ふて、自ら基督であることを弟子に證せられた、(約二二―一二)

(ほ) 初めての逾越節 彼は神殿より商人に追ひ出し給ひメシヤとしての彼の權威を示された。(約二一三七)

(へ) 初めての悔改者 バリサイ宗の金満家ニコデモは七十人議會の議員であつたが、夜イエスに會ひに來た。基督は之に答へ給ふて靈魂上の満足を與へられた。(約三一二)

ユダヤよりガリラヤの歸り途中で、彼はヤコブの井戸でサマリヤの女と物語をせられ彼女に限り無き生命を與へられた。(約四章)

此時代に彼はユダヤの上に立つ人々に長く待たれたるメシヤとして自啓し給ふたが、彼等はそれを信じなかつた。彼等は基督の活動が激烈になるにつれて、怒り出し遂に彼を死を以つて脅迫した。彼等はバプテスマのヨハネを獄に投じた、そして多分イエスが彼等の目につく處にいたものなら、彼をも獄に投じてたであらう。

然し主は多くの爲すべき事が有つた。それで彼は暫時危険を避けねばならぬと云ふことを語られた。遂に彼はユダヤの地に拒まれ、そこを捨て、より廣いまた望のあるガリラヤに向つた。

練習問題

基督の傳道の三期を擧げよ。  
 潜伏の一年は何に始まり何に終りしか。

潜伏時代に於ける六つの重要事件を擧げよ。

バプテスマのヨハネの使命は何ぞ。

何故にイエスはヨハネにバプテスマを望まれしや。

「是我愛子なり」の御言葉は何の意味ぞ。

イエスの上に聖靈の降臨は何を意味するか。

誘惑の意味如何。

イエスの初めての弟子の名を擧げよ。

第一の奇跡は何ぞ。何處にて行はれしや。

此奇跡は如何に弟子の信仰を助けしや。

如何にイエスは初めての逾越節に自らの權威を示せしや。

初めての改心の物語二つを云へ。

此時代にイエスは誰に現れ給ひしや。彼等は如何に彼を扱ひしや。

黑板上の梗概

11. キリストの傳道
1. 潜伏の一年
イ. バプテスマ
カ. 誘惑
ハ. は初めての弟子
ニ. は初めての奇跡
ホ. は初めての逾越節
ヘ. は初めての改心者
聖書
ヨハネ一章より四章まで

第三課

一、基督の傳道

二、全盛の一年

ナザレの排斥より五千人の會食まで。

(聖書 四福音書)

此時代はエルサレムを訪問せられた外凡てガリラヤで送られたのである。ガリラヤ傳道の目的は彼の短かき傳道の終る後、彼の事業を受け継ぐ可き弟子を集め教育する爲めであつた、然し彼はまた此間神の國の福音を宣へ傳へ、彼に集り來る人々を助けられた。

此時代の重なる事件。

- (い) ナザレの排斥。
- (ろ) カペナウムの定住。
- (は) 十二使徒の召。
- (に) 山上の垂訓。
- (ほ) ガリラヤの巡廻傳道。
- (へ) 五千人の饗應。

(い) **ナザレの排斥** ユダヤで排斥されて、主はサマリヤを過ぎつて故郷ナザレに歸られた。彼は會堂に入つて、近隣の人々に自らがメシヤであることを告白せられた。之は彼等を怒らせたので、彼等は彼を殺さんとした。(ルカ四十六三〇)

(ろ) **カペナウムの定住** ナザレを去つて彼はカペナウムに行かれた、そしてこゝを彼の根據と定められた、(ルカ四三二)この町より彼は巡廻傳道を試みられ、また此町で驚く可き多くの事を行はれた、(マタイ十一二三)直に彼は弟子の教育にとりかゝられた、もはや一年以上も知己であつたアンデレ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは改めて招かれた、彼等は網を捨て、凡ての時を彼と共に送ることとなつた。

(は) **十二使徒の召** 彼について來た多くの人々の中より、主は教會の設立と神國の擴張を託し得る十二人を選び給ふた。(ルカ六二三、マタイ十一八)

(に) **山上の垂訓** 十二使徒の召のすぐ後に與へられた、基督は神の國の性質とその住民の性質を述べられた。(マタイ五七)

(は) ガリラヤの巡回傳道 主は弟子を連れて前後三回の東ガリラヤの巡回傳道をせられ多くの町村を訪問せられた。(マカ六六)

此時代に彼は多くの奇跡を行はれた、(マタイ八章) 此奇跡は、彼の使命が何なるかを聽かんとする多くの聴衆を集め、彼の神性を證據だてた。

彼の説教は深き印象を與へ、多くの人は彼の口より漏るゝ惠の言葉に驚き、彼の如く語るものは曾てなしと叫んだ。

彼の名は知られ、全國擧つて彼を賞揚した。それで、或は彼がもうメシヤとして認められる時が来たのではあるまいかとも見えた。然し之は東の間であつた。彼の人望を妬んで、ユダヤの當局者は彼を捕縛する口實を作らんとわざ／＼ガリラヤまで探偵を巡遣した。當局の壓迫が急にきつくなつたので、基督は群集の傳道はすぐ中止せねばならぬと悟られた。

(へ) 五千人の饗應(ヨハネ六章) 弟子等が巡回傳道から歸つて来た時にバプテスマのヨ

ハネが斬首せられたと云ふ報らせが届いた。それでイエスは弟子に暫く湖を彼邊に渡つて黙考の時を作らうと云ひ出された。人々はイエスの船出して居るのを見た。それで湖を北の方から廻つて、上陸せられるを待ち受けた。憐みの心に動かされて、主は必要なる休みも打忘れ、一日を説教と教訓に費された。

夕方になつて、人々が空腹を感じた時、彼は奇蹟を以つて 彼等に食物を與へられた、群衆は之に驚いて熱狂し、彼を擱へて王にしやうとした、然しイエスは隠れ給ふた。翌日カペナウムに歸られ鋭い説教をせられた、彼は地上の人々にパンを與へんとて来たのではなく、また此世の王とならん爲めに来たのでもなく、彼の國は靈にある事を説教せられた、我汝等に告ぐる言葉は靈にしてまた生命なり(約六二六―五)之で、皆失望してしまつた。彼等は、彼等の爲めに戦ひ、王者の賜を與へてくれる政治的メシヤを待つてゐたのである。で、イエスの外誰れも居るまいと思はれるまで、彼を捨ててしまつた。イエスは悲しげに弟子を顧みて仰せられた「爾曹もまた去らんとする

か」之は彼の傳道の危機であつた、之で彼の全盛時代は終りをつげた。危険は刻々四圍に迫り、基督は退隱して安靜にせられる必要を感じられた、彼は敵の手に陥る前に猶多くのなすべき事があつたのである。

練習問題

- 全盛の一年は何の事件で始まり、また終りしや。
- 此時代彼は何處にて送られしや。
- 此時代の彼の目的は何ぞ。
- 全盛の一年の六大事件を問ふ。
- ナザレの排斥の事情を告げよ。
- カメナウム永住に就て語れ。
- 十二使徒を召されし目的は何ぞや。
- 山上の垂訓は何を教ゆるか。
- 基督の奇跡は何の爲めなるか。

基督の説教は如何なる印象を興へしか。

千人の人々は如何なる境遇の下に響應されしか。

ユダヤ當局のイエスに對する態度如何。

ヨハネの六二六―五二の説教に何を基督は教へ給ひしや。

その説教の爲めに直に現れし結果は何ぞ。

黑板上の梗概

11	イエスの傳道
1	幕僚の一年
い	バテマス
ろ	誘惑
は	初めての弟子
に	初めての奇跡
ほ	初めての滄海節
へ	初めての悔改
11	全盛の一年
い	ナザレの排斥
ろ	カメナウムの定住
は	十二使徒の召
に	山上の垂訓
ほ	ダリウサの巡回傳道
へ	千人の響應

第四課

一、基督の傳道

三、迫害の一年

五千人の饗應より最後の二週間まで。  
(聖書 四福音、特にルカ傳)

此一年の初め半分は北ガリラヤの隱退地で送られた、そして後半分はエルサレムに行く途中主としてペリヤで送られた、群衆を離れて主は専ら十二使徒の訓練に意を注がれ給ふた、それは主が世を去り給ふた後も御用に堪え得る爲めであつた、又彼等は教會を設立するだけの働さが出来る様に訓練されねばならなかつた。

此一年の大事件は左の諸件である。

- (い) ペテロの告白。
- (ろ) 死の預言。

(は) 變貌。

(に) ペリヤの傳道。

(ほ) ラザロの復活。

い) **ペテロの告白** 一日弟子等と語つて居られる時に主は人々が自分に就て何と云つて居るかに就て尋ねられた、彼等が之にお答へ申した時に「然らば汝等は我に就て何と思ふや」と折返し尋ねられた。時にペテロは大勢を代表していと莊重に「汝は基督活ける神の子である」と答へた、之は明白にイエスが神であると云ふことを認めた事を告白したのであるから、主は喜び給ふた。(マタイ十六十三) 弟子は智識は開發されつゝ、あつた、然し彼等はまだ、も一つの眞理を研究せねばならなかつた。

ろ) **死の預言** さて此時より、イエスは明かにエルサレムで苦しめられまた殺されると云ふことを弟子等に告げ給ふた。(マタイ十六三) 此言葉は彼等を悲しませしめた、彼等はそんな不詳なことが起るとは信せられ無かつた。(マタイ十六三) 彼等はイエスがメシ

ヤであるに違いないと信じた。然しメシヤと云ふものは地上の一大帝國を治めるもの  
とばかり思つてゐた、然し此度は主も斷えず事實の真相を披瀝せられた、と云ふのは、  
今彼等は之を言ふことを嫌ふけれども、いつかは之が眞理であると信せねばならぬと  
思はれたからである。(マタイ十七三三)

は變貌 弟子は主が何の爲めに死ぬかと云ふことに惑ふてゐた、此危機に際して、イ  
エスは彼等を山頂に伴ひ、彼等の眼前で姿が變り給ふた、彼等は彼の天上の榮にある  
を見た、そして天より聲があつて彼が誠に神の子であると云ふ保證を與へられた、此  
記憶は彼等が後日煩悶の中に居つた時に非常な助けになつたことであらう。北ガリラ  
ヤの六ヶ月は終つた、次の半年、彼は再び、公衆の前に現れ働きを續けられた、然し  
もう常に面をエルサレムに向けて、そこで罪人の爲めに死なんと決心して居られた。  
(に)ベリヤ傳道 彼はヨルダン河の對岸に渡られて、専ら此地の人々に福音を傳へられ  
十二使徒の教育を完成する爲めに數ヶ月を費された。彼は多くの奇蹟を行ひ、放蕩息

子」失はれた羊」善きサマリア人」大なる饗宴」パリサイと税吏」等の誠に美しい多  
くの譬話を語られた、此一年を通じて彼に反抗する聲は益々強くなつた、ユダヤの  
當局はもう疾くと、イエスの説く靈的王国などはいらぬ、彼を指導者として仰ぐこ  
とは出来ないときめ、彼等は以下の理由で彼に反對した。

彼は唯一個の大工である。(マタイ十三五五)

彼は高等教育を受けて居らぬ。(ヨハネ七五)

彼の選んだ助手は漁師や税吏である。

彼は罪人の友である。(ルカ十五)

此一年の終りに彼はベタニヤに往き給ふて、彼の公生涯の中の最大奇蹟を行ひ給ふた。  
(ほ)ラザロの復活 (ヨハネ十一章) 此奇蹟は深き印象を與へた、之は弟子の信仰を助け、  
多くのユダヤ人が彼を信するに助けとなつた、然し之がまた當局をして、彼を死刑に  
處せんとする決心をなさしめた導きとなつた、此時から彼等はイエスを捕へる機會を



窺ふてゐた。

暫時イエスは静かな處に隠れて後再びエルサレムに向ひ給ふた、彼はエリコを通過するに際して、ブルテマイを癒し、ザアカイを弟子に加へ給ふた。(ルカ十八三五―四三) ベタニヤで二三の親しき者が晚餐に彼を迎へた、もう二三日で彼の傳道は終を告げるのである。

練習問題

此迫害の一年の初めに當つて主は何の特別なことをせられしか。

初めの半年は何處に居られしか。

此年の五大事件を云へ。

ペテロの告白は何ぞ。

弟子は何故キリストの死の預言を信するに鈍かりしや。

變貌は如何に弟子等の信仰を助けしや。

後の六ヶ月の大部分を基督は何處にて送られしや。

此時に云はれし譬の或ものを云へ。

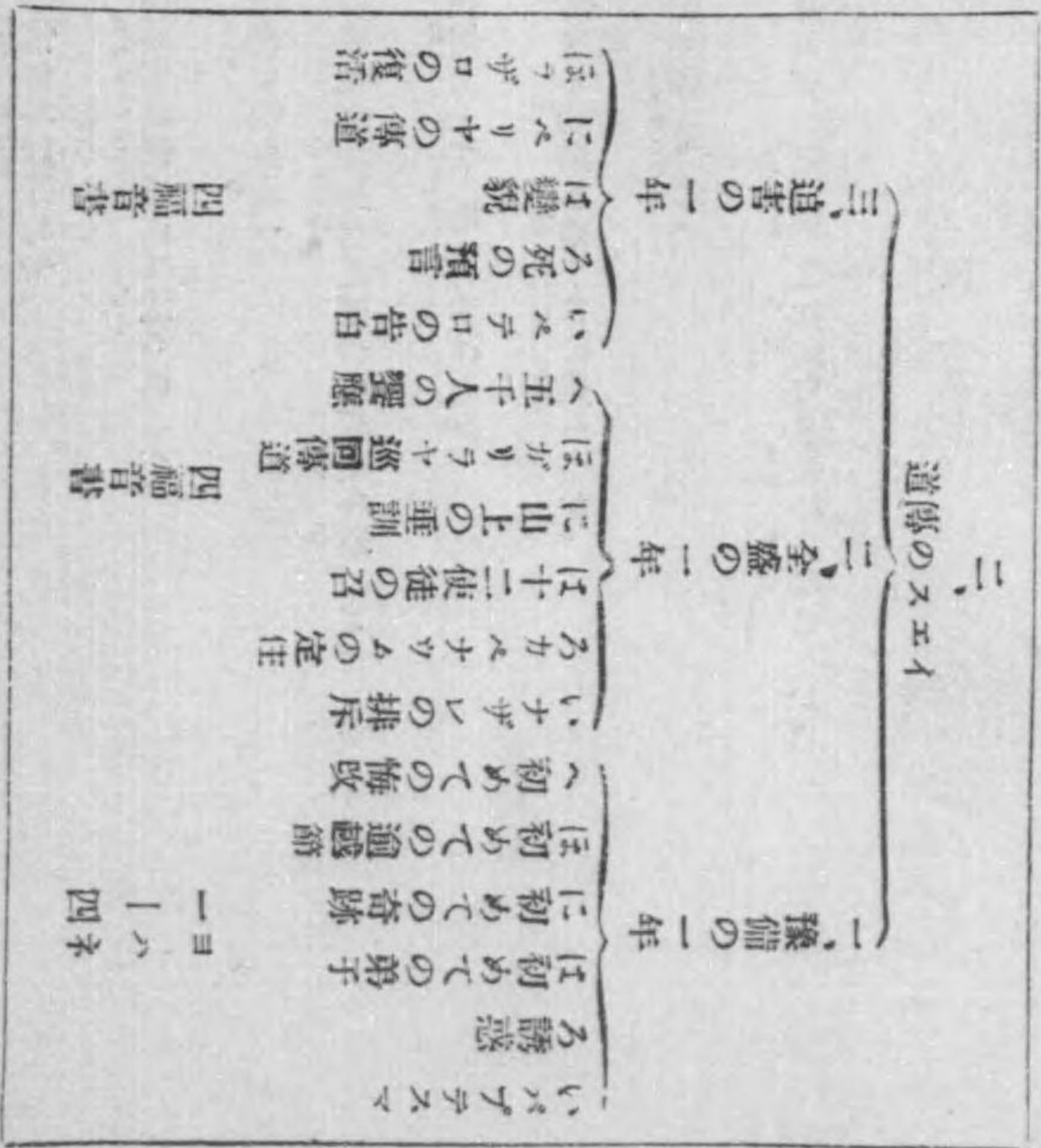
ユダヤ當局の基督の事業に反對せし四つの理由を擧げよ。

ラザロは何處にて、如何にして甦らされしか。

ラザロの復活は如何なる効果を弟子等に與へしか。

またユダヤ人に、ユダヤ當局に。

此奇跡が行はれし時ユダヤ當局は如何なる決心をなせしか。



第五課

一、基督の傳道

受難週間及凱旋

(聖書 四福音書)

之はユダヤの逾越節の一週間であつた、多分三百萬の人々が各地よりエルサレムに集つたことであらう、その中の或者はイエスが今度は權威を以つて現れ國民の主權者となるであらうと待ち望んでやつて來た、之に反してユダヤ當局は人民を怒らせ無様に彼を捕へる機會を考へて居たのである。(マタイ二六三—五)

**日曜日** 彼はベタニヤを出で、エルサレムに王として入城せられた、ひかへ目の時は過ぎた、彼は公然メシヤとして現れ、人民はうれしい調子でホザナを唱ひ乍ら彼を迎へた。(マタイ二一—三) 彼は宮に入り靜かに見廻し、ベタニヤに歸り給ふた、人々は彼が都を占領しその統治を初め無いので失望したに違ひない。

月曜日 朝彼は再びエルサレムに向つた、彼は主として宮に入り給ふた、そして父の家を汚して居る商人を追ひ出して彼の權威を示し給ふた。(マタイ二二二七)此等の商人より利益を收めて居たパリサイの人々は皆躓いた。

火曜日 彼の公衆への説教の最後の日であつた、イエスが宮に入られた時、パリサイの人々は彼の説教する権利が何處にあるかを詰問した、彼は鋭い譬喩で以つて答へ給ふた。(マタイ二二二二)その日の午後、彼は弟子等を橄欖山上に伴ひ町を見下して、來る可きエルサレムの滅亡と世の終のことに就て語り給ふた。

水曜日 多分祈禱と默想の爲めであつたか一日引籠つて居られた。

木曜日 の夕彼は弟子と共に逾越節を守られた。そして聖晚餐の基を開かれた。

(マタイ二六二七-三五)晚餐の間とゲッセマネの途上に、彼は約翰傳十三章より十七章までの絶大なる物語をせられた、そしてゲッセマネの苦惱があり、ユダの裏切があつて、彼は捕縛せられた。(マタイ二六三六-五六)

裁判の豫審は前の祭司長アンナスの前で開かれた。それからカヤバと七十人議會の一部の人々が彼を裁判した。(マタイ二六五七-六六)

金曜日 朝早く七十人議會の議員皆出揃つて、正式にイエスは神をけがしたと云ふ罪によつて死刑と判決した、然し、ユダヤ人は極刑に處する權を持つて居らぬから、彼等は羅馬の知事ピラトの處へ彼を引立て、行つた、ピラトには瀆神罪などと云ひ出しても氣をひかないものだから、祭司たちは訴をかへて、羅馬政府に謀叛したと云ひ出した、嘲笑的審判がピラトとヘロデの前に開かれた、そしてピラトはイエスの無罪を宣告した、けれどもユダヤ人は死刑と云ひ張つた、已むを得ず、ピラトは彼等の機嫌を取らうとイエスを磔殺の刑に處することを命じた。彼等は基督をカルバリに連れて行つた。(マタイ二七三三-五〇)ヘテロ前二三四)

土曜日 彼は墓に横つてゐた。

日曜日 彼の凱旋の日であつた、朝早く彼は勝利の主として甦つた、甦つた後

彼は少なくとも第一回弟子等に現れ給ふた。

一、マグダラのマリヤに

二、女達に

三、エマオの途上二人の弟子に

四、エルサレムにてペテロに

五、二階にて十人の弟子に

六、二階にて十一人の弟子に

七、ガリラヤの湖にて弟子に

八、ガリラヤの山にて十一人の弟子に

九、五百人に

十、ヤコブに

十一、昇天の時に

マカ十六九、十

マタイ二八九

ルカ二四二三

ルカ二四三四

ヨハネ二〇一九、二四

ヨハネ二〇二六

ヨハネ二二、二三四

マタイ二八二六

哥前十五六

哥前十五七

使一九、一二

十二、パウロに

哥前十五八

練習問題

日曜日にイエスは如何なる旅行をせられ何をせられしか。

月曜日に主は何をせられしか。

火曜日に彼は何をせしか。

火曜日の重大なることは何ぞ。

誰の前にて彼は裁判せられしか。

彼は何を訴へられたか。

如何なる理由にてピラトに彼を死刑にしてくれよと頼みしか。

何時、甦りは起りしや。

甦し後現れ給ひし十二度を一々あげよ。

黑板上の梗概

新約聖書



### 第六課

#### 三、エルサレムの教會

ペンテコステよりステパノ殉教まで  
 (聖書 使徒行傳一章より八章まで)

昇天の前に主は上よりの力に充されるまでエルサレムを去らずに待て、それから全

世界に福音を宣傳へよと命せられた。(使一八)

使徒時代の歴史で初期の重要な事件は下の様なものである。

- 一、聖靈の降臨。
- 二、使徒等の説教。
- 三、基督教徒の団体の成立。
- 四、初めての基督教徒の迫害。
- 一、聖靈の降臨 主の昇天後、十日目即ちペンテコステに起つたのである、百二十人のものが二階に集つて祈つて待つて居ると、聖靈は忽ち彼等の上に下り、不思議な賜を彼等に與へた。(使二一―二三) 彼等の品性は充實し、御用に立つ様に力づけられた。
- 二、使徒等の説教 今是等の人々は何の憚ることもなく、基督は我等の救の爲めに死に又甦つたと宣べ傳へた。

イエスの死が事の結末をつけ得なかつたと知つた當局は、イエスの名の下に語る者

共を沈黙させやうと決定した、然し昇等の人々を沈黙さすことは出来なかつた、使徒等は主イエスの勅に就て益々大なる力を以つて證を立てまた大なる恩が彼等を導いた（使四三三）ペンテコステの日に、ペテロの説教は三千人の改心者を得た、そしてその数はすぐ五千人に増した、また日に日にその数は殖えて行つた。

三、基督教徒の團體の成立 信徒は祈と集會と基督教徒的友愛の爲めに集つた、そして直に基督教徒の團體が出来た、バプテスマと聖晚餐との儀式が守られた、そして信者は道に就て教へられた。（使二四、七四、四三三）使徒は彼等の始めての指導者であつた、教會の必要は、使徒等を助ける爲めに直に七人の執事を任命することであつた、執事の中の重なるものはステパノとピリポであつた。（使四一八）

四年の間 教會は主として、エルサレムの町にあつた、使徒は全世界に福音を宣べ傳へよとの主の命令を忘れていたらしかつた、或は又その意味が解らなかつたのかも知れない、彼等は唯教はユダヤ人にも限られてゐると思つた、基督教はユダヤの

儀式ばかりに束縛されずして、これ等の儀式を離れた世界的な獨立せる宗教であること達觀した第一人は普通の信徒たるステパノであつた、彼は家庭を訪問し、多くの會堂で説教した、そして基督の福音は「自由」なるものであることを宣べ傳へた、彼は捕へられ、當局者の前に引き出された、その時、彼は自ら辯護して神の贖の方法として基督教が如何にユダヤ教の神殿や儀式に代り得るか云ふことを述べた、又彼はメシヤを殺したとして基督を訴へた者を叱責した。（使七章）

始めてユダヤの當局は基督の弟子が、ユダヤの宗教の一部で無く、新しい宗教の信者であると云ふことを發見したのである。

四、初めての基督教徒の迫害 ユダヤ人はステパノの説教に怒つて彼を町から引き出し、石で打殺した。（使七五、一六）此初めての殉教は全体の迫害の前兆であつた、エルサレムに安々として止つていた多くの基督教徒は、外の地の多くの人々に福音を宣べ傳ふる事となつた、かくて神は迫害を教會の發展の基礎とせられた。（使八一四）

練習問題

エルサレムの教會の時代は如何程なりしや。  
 昇天前に主は弟子に何を命じ給ひしや。  
 エルサレムの教會の此時代の四大事件を問ふ。  
 聖靈の降臨は弟子達に如何なる結果を與へしや。  
 弟子達の説教の主意は何なりしや。  
 基督教の團體は如何にして成立せしや。  
 如何なる新しき役員が設られしや。  
 何故に使徒等は長くエルサレムに止りしや。  
 誰が始めて基督教はユダヤ教的儀式より獨立したる世界的宗教なることを遠觀せしや。  
 基督教徒の迫害の爲めに如何なる好結果を生ぜしや。

黑板上の梗概

- III. エルサレムの教會
- 1. 聖靈の降臨
- II. 使徒等の説教
- III. 基督教徒團體の成立
- IV. 初めの迫害
- 聖書
- 使徒行傳

第七課

四. 異邦人の教會

ステパノの殉教より初めての宣教師の任命まで  
 (聖書 使徒行傳第八章より十二章まで)

此時代は福音の弘布の區域が段々廣くなつてユダヤ的基督教徒も、異邦人と雖も神の恵を受くる資格があることを認めて來た。

此時代の重大事件は次の様なものである。

- 一、サマリヤの教會
- 二、タルソのサウロの回心
- 三、初めての異邦人の悔改者
- 四、アンテオケの教會

一、サマリヤの教會 執事ピリポは、ステパノの死後猶引き續いて起つた迫害を逃れてサマリヤに來たが、こゝでイエスに就て説教をなし、多くの信者を得た。(使八五・十三) サマリヤは一部分ユダヤ人で、一部分異邦人であつた。彼等の禮拜は全くユダヤ人と同一であつた、即ち福音が彼等に傳はつた、福音は一方異邦人の方へ踏み出したのである、サマリヤ人は福音が異邦の國に宣べ傳へらるゝ端となつたのである、聖靈に導かれて、ピリポはまたアフリカの寺人を基督に導いた、そして福音はまた彼を通して弘まつた。(使八二六・四〇)

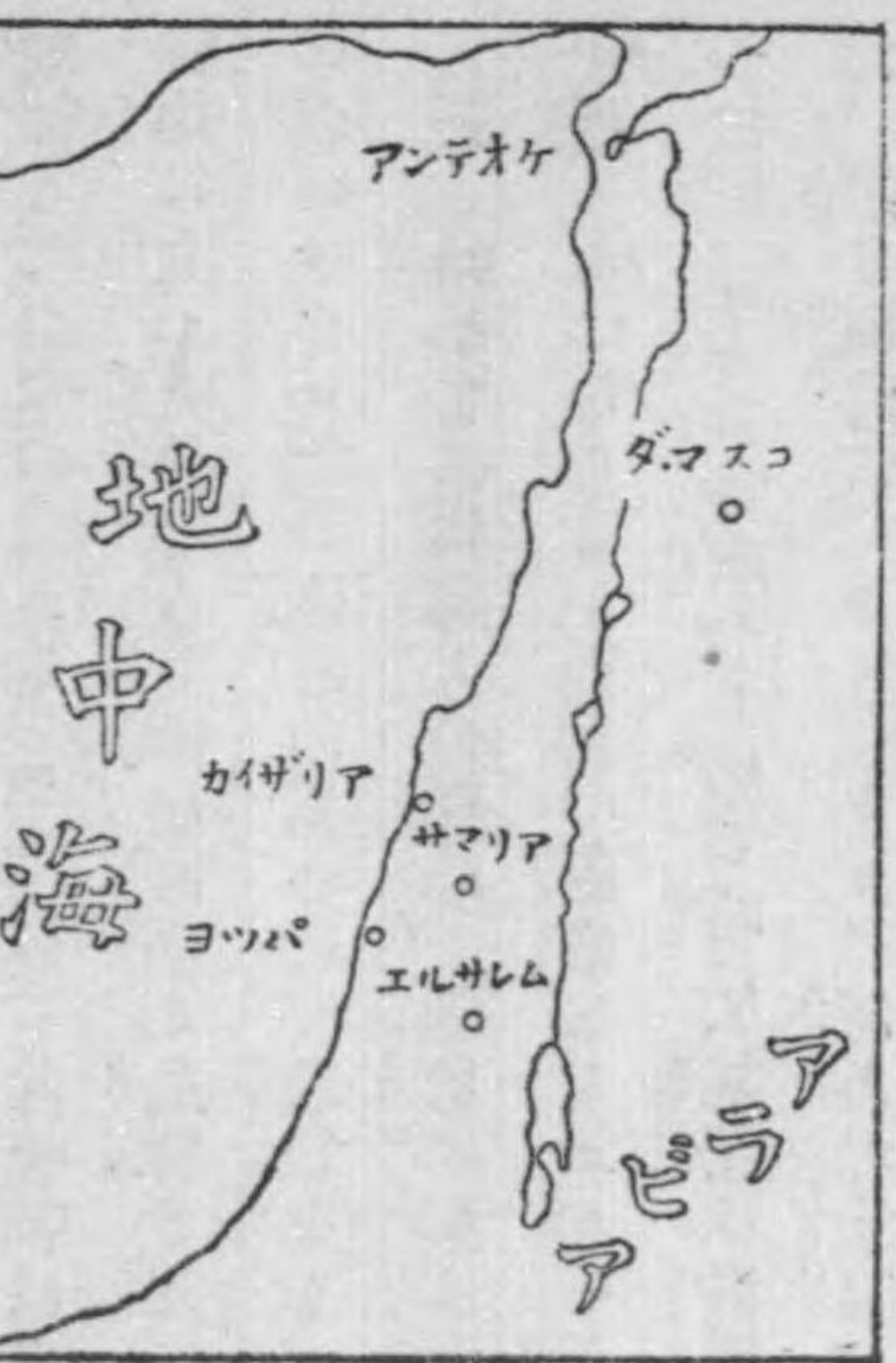
二、タルソのサウロの回心 特別の教育を受けた者より廣く異邦人の間に福音を宣べ傳へる必要が起つた、基督敎徒を厳しく迫害したサウロは神の選び給ふたその人であつた、主基督耶穌はダマスコの途上にて彼に現れ給ひ、其時以來彼は熱心なる基督敎徒となつたのである。(使九一・二三) 此後彼はアラビアの野に行き、モーセの如く大なる御用に立つ充分なる準備が出来る迄神と共にそこに止まつた。その間神はパウロ(元の名はサウロ)の傳道の爲めに、教會をも、世界をも準備せられたのである。

三、初めての異邦人の回心 教會の指導者は異邦人も救にあづかり得ると云ふことを認めねばならなかつた、嚴格なるユダヤ人ペテロは嘗て異邦人との交渉を好まなかつたが、ヨツバで祈つて居る時に、基督は世界の爲めであると云ふことを幻で教へられた、之と同時に、カイザリヤの羅馬の士官コルネリオは神から導かれて、ペテロをヨツバへ呼びにやつた。ペテロは來た、そしてコルネリオに説教したが、彼は回心して聖靈が降つた。それでペテロは神の恩は凡の人の爲めであると云ふことを悟つた、彼



はエルサレムに歸つて此不思議なることを兄弟達に報告した。(使十一、十二章)

四、アンテオケの教會(使十一、九、二六) 主に異邦人から成り立つて居る宗教的中心が



來た、或る信者がシリアの北にある異邦人の町アンテオケに來て福音を宣べ傳へたが、神はこれらの忠實な内國傳道者の述べ傳ふことを祝し給ふて大なる基督教徒の團體がこゝに出來上つたのである、回心者の多くは異邦人であつた。

エルサレムのユダヤ人の信徒は、この不思議な恵の働きを聞いて直にバルナバを事情取調への爲に遣した、バルナバは事情を取調べ眞實なる悔改者であることを發見して非常に動かされ、彼等と共に暫く止

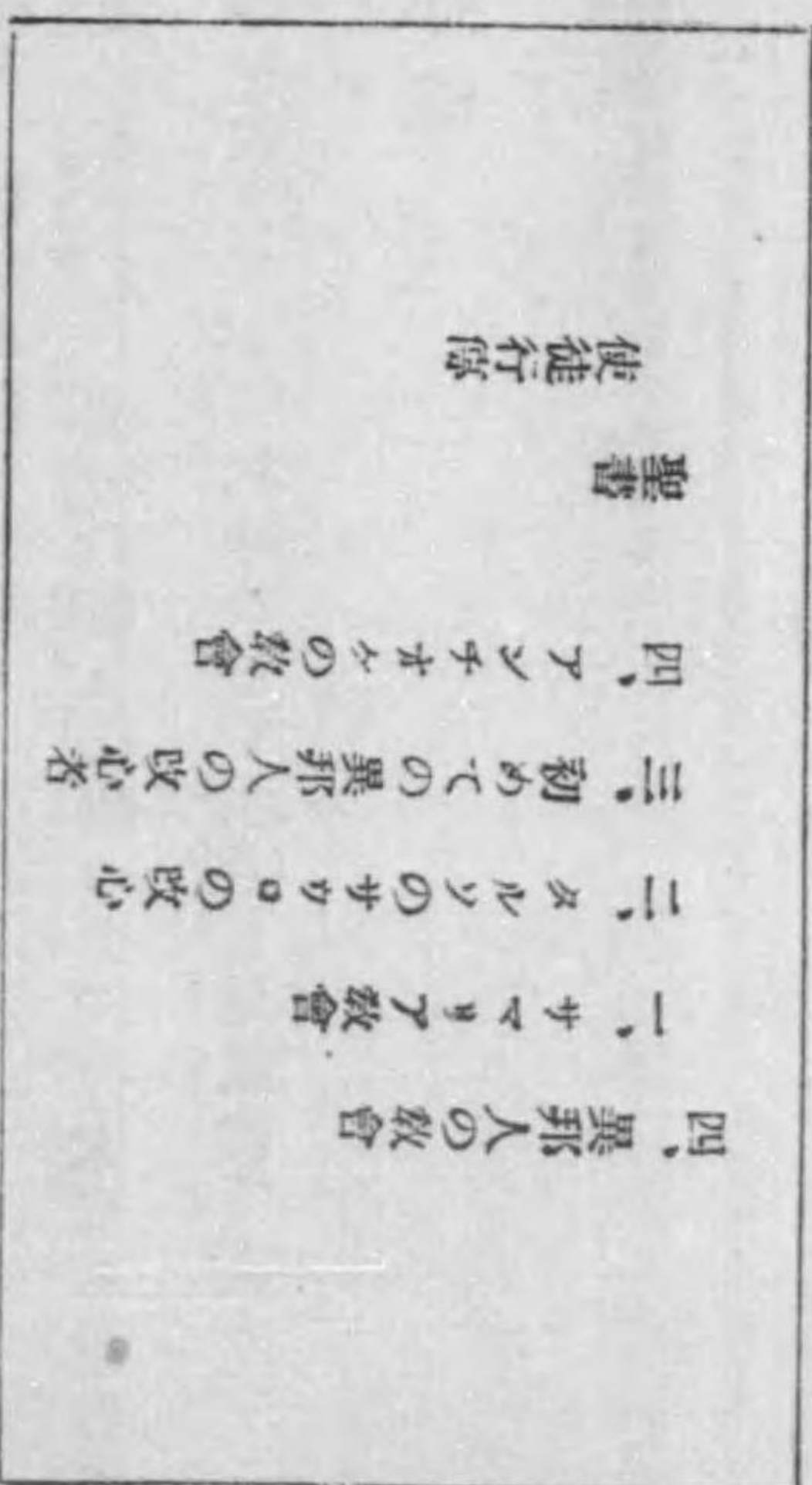
り、教會設立の手傳をした、尙彼は一層此事業に興味を感じ、サウロをタルソからアンテオケに呼びよせ、彼の事業を助けしめた、即ち之が回心者から成立つて、初めて外國傳道の大事業に着手し、聖靈の導きに依つて、偉大なる説教家バルナバとサウロを特に撰び、彼等を代表する宣教師として派遣した教會である。

練習問題

如何なる事件にて此時期は始まりまた終りしか。  
 此時代の四大事件を問ふ。  
 サマリア人傳道は如何に異邦人傳道の準備となりしや。  
 ヒリボの傳道結果如何。  
 サウロの回心に就て語れ。  
 初めての異邦人回心者は誰ぞ。  
 コリネリオの回心はハテロに如何なる結果を興へしか。

アンテオケの教會は如何にして設立せられしか。  
 如何なる偉大なる指導者がアンテオケ教會を助けしや。  
 アンテオケ教會に於て如何なる重大の事件が企られしや。

黑板上の梗概



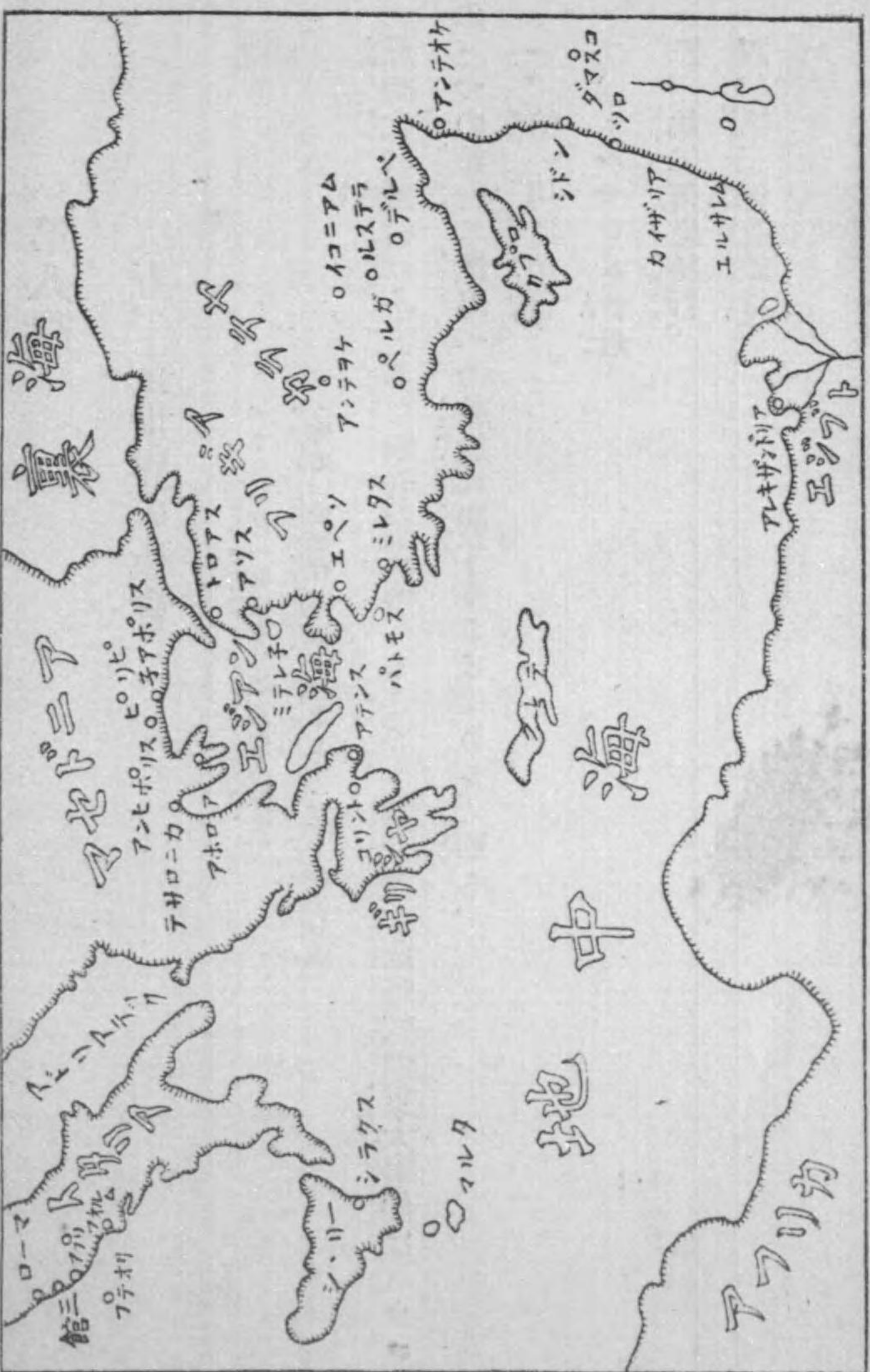
第八課

五、全世界の教會

パウロの第一傳道より羅馬の入獄まで  
 (聖書 使徒行傳第十三章より二十八章まで)

此時代に教會は全世界に福音を宣傳へることゝなつた、此時代の重大事件はパウロの三つの旅行と羅馬への旅行に關することである。即ち、

- 一、第一傳道旅行。
- 二、エルサレム會議。
- 三、第二傳道旅行。
- 四、第三傳道旅行。



五、羅馬への旅行。

一、第一傳道旅行 バウロとバルナバは異邦人への宣教師として任命され、アンテオケを去りクプロ島に渡つた。此處で始めてサウロはバウロと呼ばれた、彼等はクプロより小亞細亞本土のベルガに渡り、こゝより助手、ヨハネと云ふマカが彼等に離れた。二人の宣教師は會堂、其他處を撰ばず、福音を宣傳へた。彼等はビンデアのアンテオケ、イコニアム、ルステラ、デルベでもさうであつた、どこでも彼等が異邦人に往くところに福音の使者として最も目醒しき働きをした、何處にもユダヤ人は彼等に反對し、異邦人を教唆して彼等に反對せしめた、バウロとバルナバはアンテオケに歸つて兄弟に報告した。(使十三一―十四二六)

二、エルサレム會議 この頃ユダヤのキリスト教信者がアンテオケに来て彼等にユダヤ教の儀式に従はないと救はれないと云ふた、それで紛擾が起つた、それでアンテオケ教會を代表してパウロとバルナバをエルサレムに送り教會の先輩に異邦人の回心者

をユダヤ教的儀式に關係に就ての重大問題を質問させることゝなつた、パウロには事情を陳述し、ペテロは、コルネリオの回心に就て物語つた、そして會議の結果、異邦人もユダヤ教の儀式を守らなくて基督教的友誼に就てはユダヤ人と同等の權威を持つて居ると云ふことになつた。

然しながら唯二三の點に關して、異邦人の回心者に、ユダヤの回心者の守つて居る僅ばかりの宗教的儀式をユダヤ人の兄弟と共に暮す以上、守つて貰ふ様に注意したがよからうと云ふことになつた。(使一五二—三)

三、第二傳道旅行 バウロとシラスは此度の宣教師である。彼等は第一傳道旅行に設立した教會を訪問した、ルステラに於てテモテが一行に加はつた、これより彼等は西方アジアを横切つて進んだ、暫時ガラテヤに止つて、行く道々説教しながら、エーリアン海のトロアスに達した、こゝで愛する、醫師ルカが一行に加はる、マセドニア人の幻が海を越えて彼等を導いた、それで愈々福音がヨウロッパに傳ることになつた。

彼等はピリビ、テサルニケ、ベリア、アテンス、コリントに成功ある傳道をした、彼等はギリシヤの商業的中心地なるコリントに一年半止つた、歸途、彼等はエペソに止つて、それからエルサレムに歸つた、アンテオケを出て三年の後、彼等は再び歸つて來た。(使一五三—一八三)

四、第三傳道旅行 バウロはアジアに設立したる教會を訪問して遂にエペソに至り、そこに約三年半止つた、ヨウロッパの諸教會を訪問した後、此度は捕縛されると知りながらエルサレムに歸つて來た。實は羅馬に説教する便利を得やうと思つていたのである。(使十八三—三十七)

五、羅馬への旅行 彼はエルサレムの貧しき基督教信者に施與金を持つて來たのである、然しユダヤ人が彼を神殿の中に見た時、彼は直ぐ突撃された、彼は捕縛されてカイザリアに送られ、そこで二年間囚人生活をした、彼はカイザルに上告した、それで彼は罪人として羅馬に送られた、彼は羅馬に二年間囚人として止まつたが、羅馬の

第一回の入獄に、彼はエベン、ピリビ、コロサイ、ピレモン等の書翰を書いた、彼は裁判の上放免されたが、再び捕はれて獄に投せられ、彼は彼の最後の手紙である所のテモテ後書をそこで書いた、是が紀元六十八年で、その後間もなくネロ帝の迫害に殉教した、然し乍ら彼の感化は今猶生き、遂に帝都羅馬は基督教宣布の中心地となつた。

練習問題

全世界の教會の時代は何に始まり何に終りしや。  
 初めての外國宣教師は誰なるや。  
 初めての宣教師が訪したる重なる處を云へ。  
 エルサレム會議の召集せられし理由は何ぞ。  
 エルサレム會議 決議は何ぞ。  
 パウロと第二傳道旅行に行きし人は誰ぞ。  
 途中にて加はりし二人の人名を云へ。

地圖により第二傳道旅行の跡を示せ。

第二傳道旅行に於て彼等が重大事件に觸れしものとは何ぞ。  
 第三傳道旅行に於てパウロは何處に最も長く止りしや。  
 パウロの入獄に就て語れ。  
 ローマに於ての第一回入獄に際しパウロは何の書翰を書きしや。  
 第二回入獄に何の書翰を書きしや。

黑板上の梗概

五、全世界の教會
一、第一傳道旅行
二、エルサレム會議
三、第二傳道旅行
四、第三傳道旅行
五、羅馬への旅行
聖書
使徒行傳
保羅書翰

第九課

イエスの住み給ひし地

一、名稱 イエスの住み給ひし地を、或は主の地（ホセア九三）約束の地（ヘブライ十一九）聖地（サカリヤ二十二）喜ばしき地（ダニエル八九）と呼んで居るが、然し多くは下の様に呼んで居る。

(い) カナン—神の民のものとならざる前。（創十六三七八）

(ろ) イスラエル—聖地の征服よりバビロンの捕囚まで。（列王下五三）

(は) ユダ—バビロン捕囚以後。（ネヘミヤ五二四マカ一五）

(に) パレスチン—キリスト以後、パレスチンはビリシテアと同じ言葉である、之は初めペリシテ人の國に用ゐられた言葉であるが、ヨセフアスが全土を云ひ表すに用ゐて居る。

二、位置 パレスチナは舊世界の中心で（ホセケル五三）強國の文明を摸倣し得る爲めに

列國に相隣接してゐた。然しエホバの教育を受ける爲めに山と海と沙漠に依つて列強より離れてゐた。（民二三九申命三三三）それであるから基督教宣教師時代には福音の宣布には誠に好都合な位置を占めて居つた。

三、面積 今日のパレスチナは、殆んど我がニュー・ハンブシヤイア州程の大きさで（日本の四國大）ダンからベルシバ迄の間南北殆んど百五十哩平均の幅員は四十哩である。

四、地勢の區分 此處は四つの並行した區分に別たれて居る。

(い) 地中海に濱する平野 低くて平たい地である、北はカルメル山より南はパレスチナの終點まで延びて、昔は世界の通路となつて居つた、即ちエジプトとアツシリアの間の隊商の通路となつて居つた、之はまた有名な軍路であつたので、海岸線に添ふて舊世界の大軍が上下したのである、然しイスラエルは別に損害を受け無かつた。と云ふのは彼等の山地の住居は海岸の平野からは手が届かなかつたからである。

(ろ) 山地 地中海の平野に添ふて、南へブロンより、北へエスドライロンの平野まで、南北八十哩と平均三十哩の幅を持つた、平均二千二百尺の高地が、本土の中央を占めて居るのである。尙、エスドライロンの北はガリラヤに此山脈が續いて居るのである。イスラエルの村々は是等の山地にあつて、神の民はいつも山地に住み、異邦人はいつも谷に住んでゐた。

(は) ヨルダンの谿 ヨルダンの谿は五哩より六哩の間であるが、中央にヨルダン川を挾んで、殆んど全土の延長に等しい平野である、ヨルダンの水源はレバナンの山地より落ち来る三四の支流を合せてメロム湖にそそぎ、それよりガリラヤの湖に入り、尙下り、流れ／＼して死海に落ちる。ヨルダンの流は急であつて、死海では一千二百九十二呎水線より下つて居るのである。

(に) 東部高原地方 ヨルダンの東方の高原を指すので、北をパシヤンと云ふて居る。(詩六八・五)パシヤンの南はギレアデであつて、ギンアデの南はモアブである。モア

ブには、モーセが約束の地を見たを傳ふるネボー山がある。

五、政治的區劃 ヨシユアの征服後、土地はイスラエルの民族に分割された。列王の時代、ペテル及びエリコより北はイスラエルのものでヨルダンより西に三つヨルダンより東に二つ合計五つの區分に別れてゐた。

(い) ガリラヤ ヨルダンの西部北方の地に與へられた名稱であつて、ユダヤ人と異邦人が雜居してゐた。(大四十二)

(ろ) サマリア サマリアは「物見の山」と云ふ意味であつて、セケムの谷にある高き小山の名であつたが、遂に其附近一般をサマリアと呼ぶ様になつたのである、住民はアツシリアの子孫とユダヤ人との雜種である。

(は) ユダヤ 南方に位して最もユダヤらしい地であつた。

(に) ペリア ペリアは(マタイ四・五)にある如く、ヨルダンの東方の地である。

(ほ) パシヤン はペリアの北の地である。

日曜學校教授法

練習問題

此地の重なる四つの名稱を擧げよ。

パレステンの位置は如何なるものなりしか。

如何に其地の人民外の民族と分離されしや。何故。

パレステンの廣さを云へ。

パレステンの平行せる四區劃を問ふ。

地中海の平原に就て記せ。

山地の地勢如何。

エルダンの地勢如何。

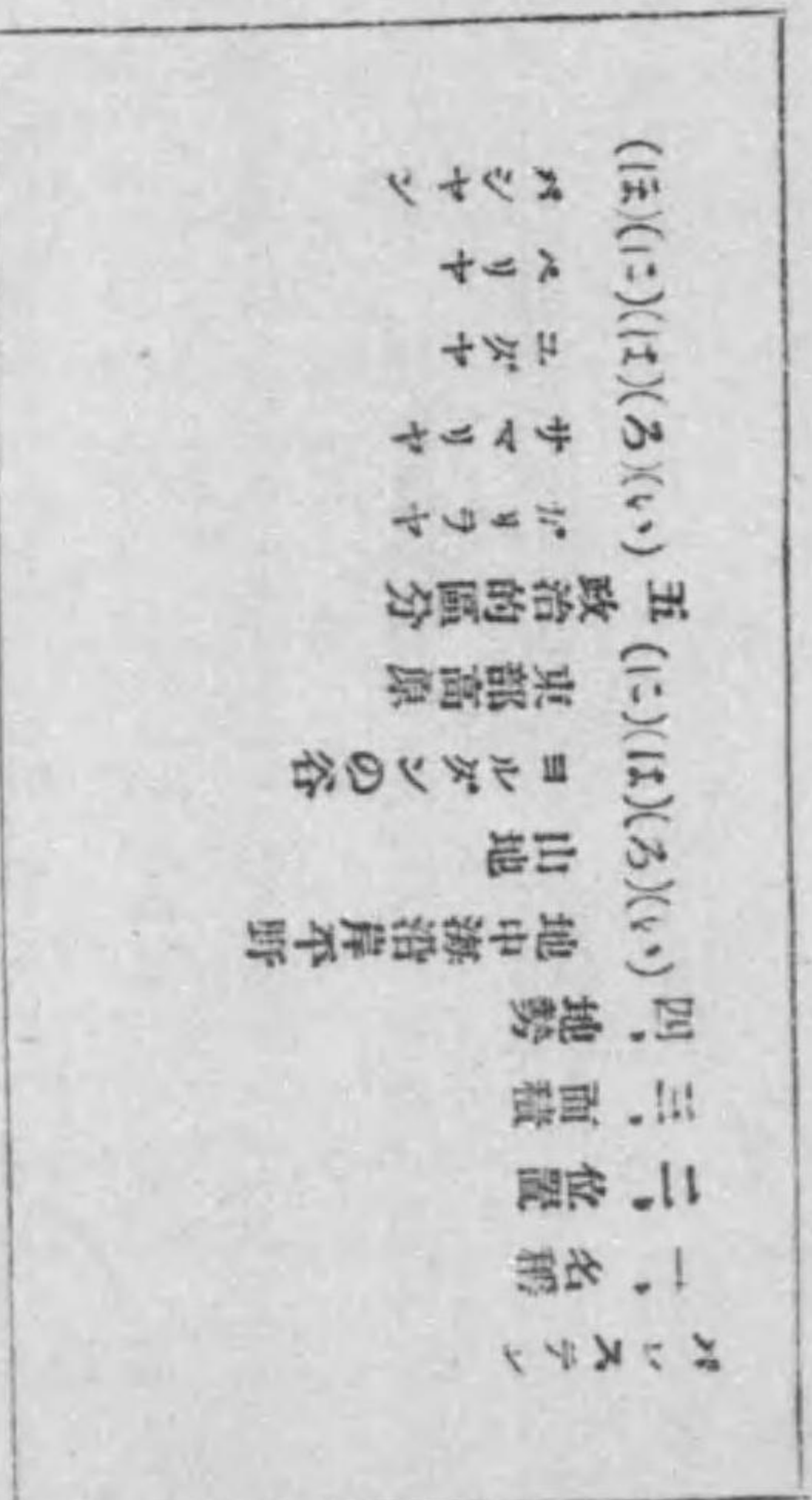
東方の高原は如何ものなりしや。

ヨシユアにより土地は如何に分たれしや。

王朝時代の區分如何。

新約時代の五つの國は何々なりや。

黑板上の梗概

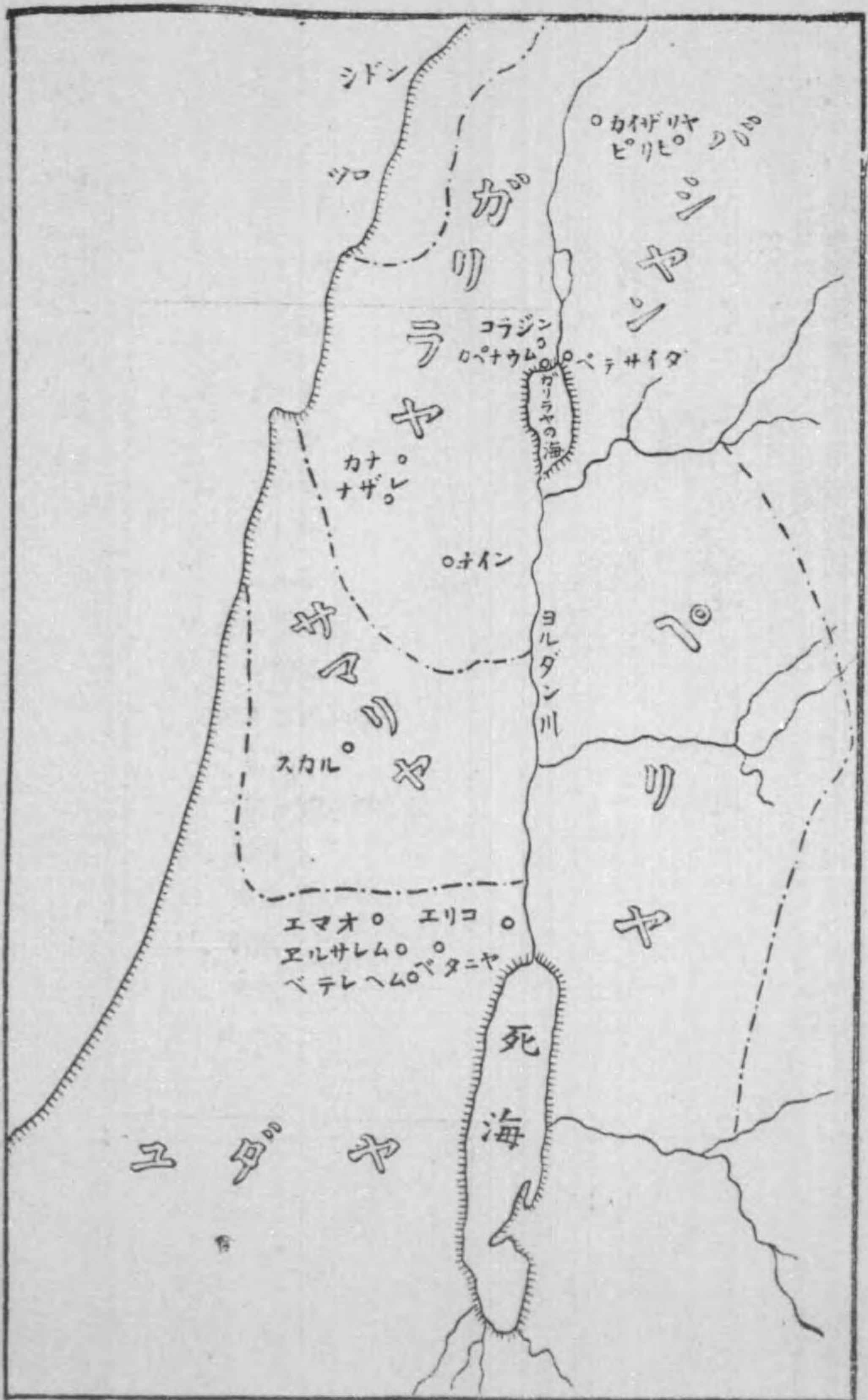


第十課

イエスの巡廻せられし地

我々が最も興味を感じる市町村は我々の主が一度訪づれ給ふたことによつて神聖の





感を與へるのである。

**ベテレヘム** イエスの誕生地であつて、エルサレムの南六哩の地に位して居る。(太

二) 此地は又ダビデの生地であつて、又其一族の住つてゐた地である。(サムエル前十七  
十三) ルツ、ナオミはこゝで暮した。(ルツ記二三) 此近くにラケルを葬つた處がある。

(記三五一九)ベテレヘムは現今人口八千を有せる繁華な基督教的村落である。

**ナザレ** イエスが、幼年時代青年時代を送つた故郷であつて、(ルカ四一六)エルサレム  
の北七十哩ガリラヤの山地にある、摺鉢の底にある町である。傳道の初めに當つて、  
彼はこゝで説教して拒まれた。(ルカ四一六)今日ナザレで一番面白いの  
は「乙女の泉」である。此處へイエスもマリアも再々來られた事であらう、人口は六  
千餘あつて、ベテレヘムと同じく基督教徒の町である。

**ヘタニア** 或はバサバラと云はれて居る、こゝでイエスはバプテスマのヨハネより  
バプテスマを受けられたのである。(改正四章ヨハネ一八)ヨルダン川の東方に位して居る。

**カナ** イエスが初めて奇蹟を行ふた處であつて、(約二)傳説によれば、ナザレの東北四哩の處にあることになつて居る。

**スカル** (約四五)此處にて、イエスがサマリアの女と、ヤコブの井戸の傍で話給ふたのである。エルサレムより三十哩隔つて居る。

**ナイン** はガリラヤの南方にあつて此處はイエスが寡婦の息子を甦らした處である。(ルカ七二一五)

**カペナウム** ガリラヤ傳道の間イエスの一家はガリラヤの湖の北端、エルサレムの東北八十五哩の地にあつた、ガリラヤの湖上には漁船とか羅馬の軍船とか合せて約四十隻の舟が浮んで居つた、イエスはカペナウムの教會で説教をなし、(約六五)多くの奇蹟を行はれた。(アカ二二三)

**ベテサイダ** は多分ヨルダン河がガリラヤ海に注ぐ處の兩岸に有つたらしい。そして西岸の町をベテサイダと云ひ、東岸にあつた町をベテサイダ・ジュリアスと呼んだ

のである。(約十二二二マカ六四五)

**コラジシ** (太十一三)はカペナウムの近くにあり、マグダラは湖の西南の岸にあり、(太一五三)ダルマスタは猶その南で、ガダラは東岸にあつた。(可八上ルカ八二六)

**ツロとシドン** 地中海に臨んだフェニキアの町であつて、こゝでイエスはサイロビニケの女を癒した。(太一五二二二八)

**カイザリア・ピリピ** ヘルモンの麓に位し、ペテロの告白のあつた地である、こゝでイエスは其死に關して弟子に教へられた。(太一六二三二八)

**エリコ** エルサレムより東北十七哩、ヨルダン川に近く位して居る、こゝでイエスは盲人を癒し、(ルカ十八三三)ザアカイを救ひ給ふた、(ルカ一九一)舊約時代には此町は頗る榮えたものである。(ヨシユ六章)

**ベタニア** ベタニアは、エルサレムより二哩橄欖山の麓に位し、イエスは屢々此地にあるマリアとマルタの響應を受けられた。(ルカ十三八一)こゝで基督はラザロを死よ

り 甦らしめ給ふた。(約十一章)

エルサレム イエスは此處で教へ又奇蹟を行ひ給ふたが、虚偽なる訴によつて死刑に處せられ給ふた。

エマオ 甦り給ひし日の午後二人の弟子と共に旅せられた處である。(ルカ二四二三―二五)

練習問題

ベテレヘムは何處にありや、どんな面白きことがありしや。  
ナザレは何處にありや。

この町は我々に何故に大なる興味を興ふるや。

カナにて如何なる奇蹟を行ひ給ひしや。

スカルにて如何なる興味なること起りしや。

カペナウムは基督の傳道と如何なる關係ありや。

ベテサイダは何處にありや。

ツロとシドンは何處にありや。

カイザリヤ・ロリビは何處にありや。

エリコにて如何なる興味あることありしや。

ベタニヤは何處にあり又何故著名になりしや。

エルサレムにて如何なる大切なることが起りしや。

黑板上の梗概

町、村
ベテレヘム、ナザレ
ベタニヤ、カナ
スカル、カイ、カペナウム
ベテサイダ、コラジ、
ツロ、シドン、カイサリヤ
ロリビ、エリコ
ベタニヤ (ベタニヤ)
エルサレム、エルサレム

復習の梗概

一、基督の私生涯

新約聖書

(い) 降誕

(ろ) 家庭

(は) 教育

(に) 職業

二、基督の傳道

(一) 豫備の一年

(ろ) 誘惑

(は) 初めての弟子

(に) 初めての奇蹟

(い) バプテスマ

(へ) 初めての回心

(は) 初めての弟子

(に) 初めての奇蹟

(ほ) 初めての逾越節

(へ) 初めての回心

(は) 初めての弟子

(に) 初めての奇蹟

(二) 全盛の一年

(い) ナザレの排斥

(ろ) カペナウムの定住

(は) 十二使徒の召

(に) 山上の垂訓

(ほ) ガリラヤの巡迴傳道

(へ) 五千人の饗應

(は) 十二使徒の召

(に) 山上の垂訓

(三) 迫害の一年

(い) ステロの告白

(ろ) 死の預言

(は) 變貌

(に) ペリヤの傳道

(ほ) ラザロの甦り

(ろ) 死の預言

(は) 變貌

(に) ペリヤの傳道

(四) 凱旋の入城

(い) 宮潔め

(ろ) 説教

(は) 隠退

(に) 聖晩餐

(ほ) ゲツセマネ

(へ) 裁判

(と) 十字架

(ち) 勝利

三、エルサレムの教會

(い) 聖靈の降臨

(い) 聖靈の降臨

(ろ) 使徒等の説教

(は) 基督教徒の團體の成立

(い) 基督教徒の團體の成立

(ろ) 初めての基督教徒の迫害

四、異邦人の教會

(い) サマリヤの教會

(い) サマリヤの教會

(ろ) タルソのサウロの回心

(は) 初めての異邦人の悔改者

(い) 初めての異邦人の悔改者

(ろ) アンテオケの教會

五、全世界の教會

(い) 第一傳道旅行

(い) 第一傳道旅行

(ろ) エルサレム會議

(は) 第二傳道旅行

(い) 第二傳道旅行

(ろ) 第三傳道旅行

(ほ) 羅馬への旅行

(い) 羅馬への旅行

### 第三編 聖書の制度及日曜學校

#### 第一課

#### 禮拜所

イスラエルの宗教生活を獎勵せんがために禮拜所として各々異つた時代に五つの聖所が設けられた。

- 一、祭壇。
- 二、幕屋。
- 三、神殿。
- 四、會堂。
- 五、基督教會。

一、祭壇 は削つてないその儘の石を以て造られたものであつて、默示が與へられた所へいつも建てられたものである。(創十二・二六・二四・二五・三五)

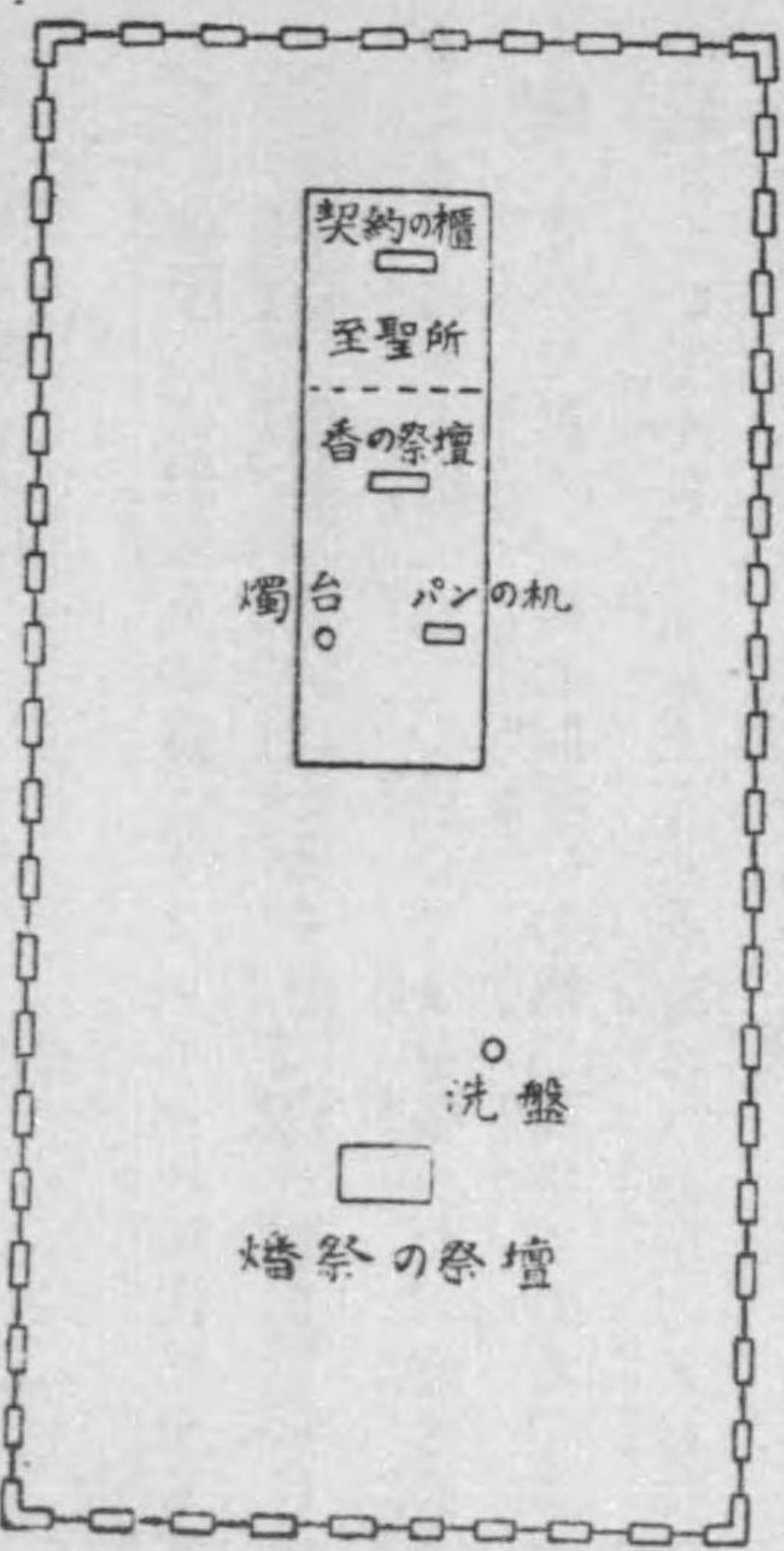
之は神と人が會合する爲めの初めての場所であつて、此處で敬虔なるものが祈と讚美を捧げて神と交つたのである。祭壇は出埃及の後にも公衆の禮拜所として存在してゐた。

二、幕屋 は出埃及の時よりソロモンの時代に至る迄の禮拜所であつた、此間殆ど五百年間、幕屋の設計はシナイ山に於て神よりモーセに授け給ふたものである、運ぶことが出来る様に成つて居つて金を張つた、板と蔽としたる三枚の幕を順次に重ねて成り立つて居る、縦七間半にし幅二間半である、その周圍に縦二十五間に幅十二間の庭がついてゐた。(出埃及二十七章)庭には幕屋の入口に當つて、燔祭の祭壇があつた。(出二七・一八)又その傍に洗盤があつた。

幕屋は二つに別れてゐて、初めの室は聖所であつて、金の燈臺と(出二五・三一・四〇)パン

を置く机(出二五三三〇)と香を焚く祭壇があつた。

奥の室は即ち至聖所であつて、神の在す印として契約の箱が置かれてあつた。



これは内と外とに金をはつた櫃であつて、十誠を書いた石が收められてあつた。櫃の上には金の板があつて恵の座と云はれてゐた、之はセラピムの間にあつた、幕屋が榮の雲

に蔽はれた時に神がいつもユダヤ人と共に居られるのだと考へられた。(出二五八)

三、神殿 始めての神殿はソロモンによつて建てられ、五百八十七年前バビロン軍に破壊されるまで、殆ど四百年間立つて居つた、石造で、廣さは幕屋の二倍あつた。諸道具は殆ど幕屋と變りは無かつたが、唯形と數に於て大きくて幕屋には燈臺とパンの

机が一つづゝしか無かつたものが、神殿には各十個あつた様なものである、又燔祭の祭壇或は「海」は神殿のものは幕屋のものより遙に大きかつた。(列王上六)

第二の神殿はバビロン捕囚後、ゼルバベルによつて建てられ五百年間立つて居た。

第三の神殿はゼルバベルの神殿を再建して大きくしたのであるが、之はヘロデ大王の建築したものである、紀元後七十年ロマ兵によつて破壊された。

四、會堂 會堂は捕囚の時に出來たもので、第一の神殿が破壊されたものであるから故國を離れた人々が、こゝに集つて、禮拜と教訓とを受けたのである、此種の集合は遂に規律のある一種の會堂の禮拜となつた、此等の集會が如何に有益なものであつたかは、パレスチンに歸つた後にも猶つゞいて居つた事を見てもわかる。新約時代に會堂が澤山あつた、基督と弟子は此等の會堂を利用して福音を宣べ傳へられた。

五、基督教會 以上の諸宗教的制度はより充實した遙に靈的な完全な禮拜を有する教會の出來る爲めの階段となつた。

日曜學校教授法  
練習問題

神より定められたる五つの禮拜所を問ふ。  
祭壇の特長は何ぞ。

禮拜所として祭壇は如何程長く用ゐられしや。  
禮拜所として幕屋は如何に長く用ゐられしや。

幕屋の庭は幾何ありしや。  
聖所に何かありしや。

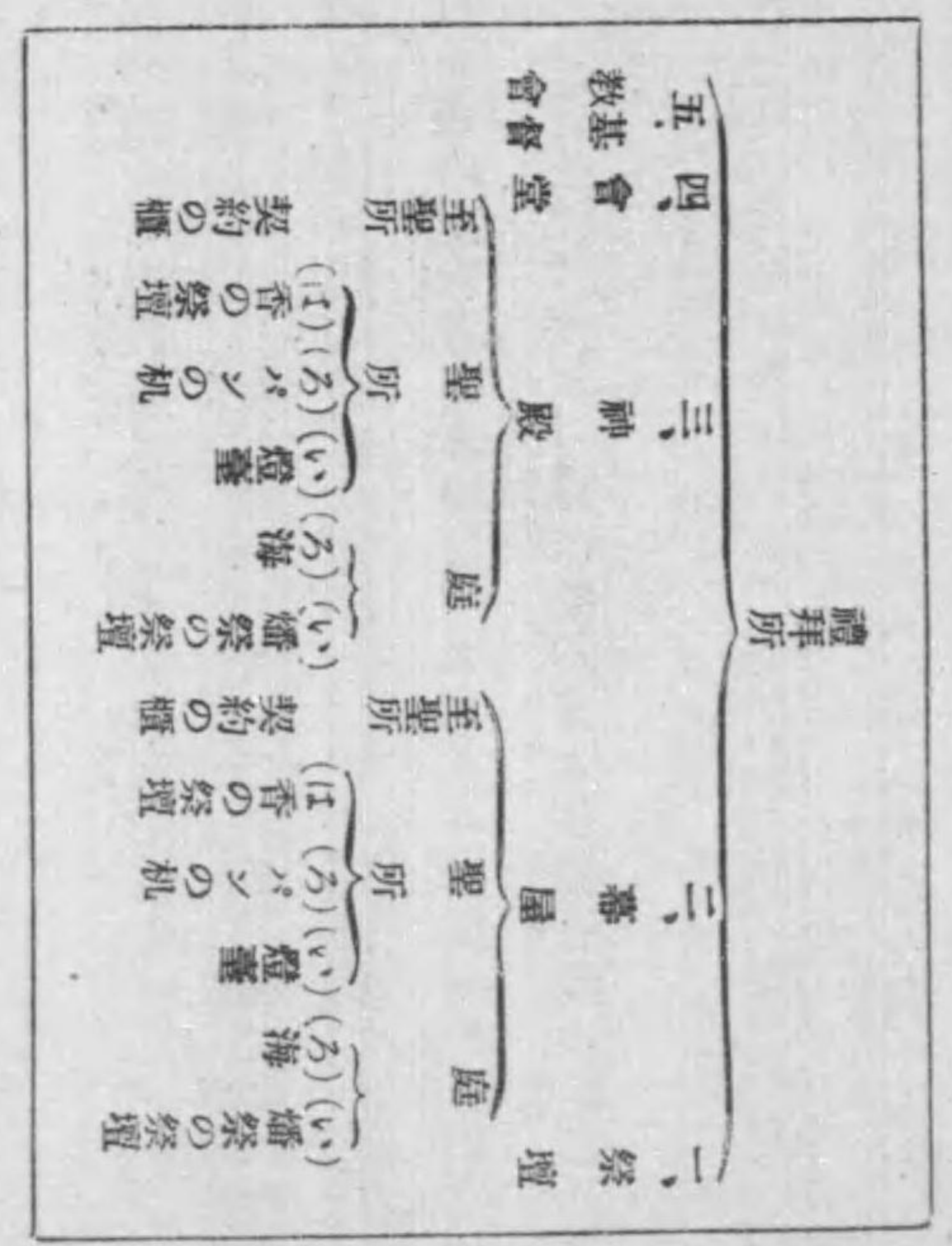
至聖所に何かありしや。  
第一の神殿を建てし者は誰ぞ、その特長は何ぞ。

神殿と幕屋の相違は何ぞ。  
第二の神殿は誰が建てしや。

第三の神殿は誰が建てしや。  
會堂の起原を問ふ。

最後に起りし最も大切なる禮拜の制度は何ぞ。

黑板上の梗概



第二課

禮拜の諸式

舊約時代の宗教の重なる教役者は豫言者と祭司である。

豫言者 豫言者は神より人に使はされたものである、彼は神の代言人である、彼の使命は天來である、屢々彼は未來の豫言をした、然し多くは現在に就て訓戒を與へたのである、彼は正義の説教者であつた。アブラハムもモーセも、ダビデも、サムエルも矢張エリヤ、エリシャイザヤ、或は他の偉大な指導者と同じく一種の豫言者であつたのだ。

祭司 人より神に近づくものであつた、彼は民の祈と讚美を捧げた、彼は民の爲めに代表者となり、神に祈つた、神に近づくかんとする重きを負へるイスラエル人は、幕屋或は神殿の庭まで獸を携へて來る、そうすると燔祭の祭壇に、その人の悔改めと聖潔

を云ひ顯はす爲めこの獸の頭の上に手を按く、それから之を屠り祭壇に血をぬる、祭司は禮拜者を代表して洗盤に行き罪の赦の後に生活を送る可き印として手を洗ふのである。そして彼は聖所に入る、燈臺や、パンの機の側を通つて香の壇へ行き、祈禱を捧げるのである、祭司の長は、一年に一回だけ聖所と至聖所の間をしきつて居る幕を越えて、契約の櫃の前に立ち、民の爲めに仲保をするのである。

犠牲に五種類ある。

一、燔祭 之は民が神に自らを捧げたしるしであつて、自らの無價値を云ひ現したものである、格段なる罪の懺悔では無い。(レビ記一章)

二、罪祭 一個人の罪の爲めに捧げられたものであつて、赦罪を祈るしるしである (レビ記四五―一二)

三、愆祭 之は人を傷けた時に捧げられたもので、辨償が伴ふものである。(レビ記六一―七)



四、酬恩祭 感謝と神との交を祈るために捧げられたものである。

五、素祭 之は單に神の恵を感謝するしるしである。(レビ記二章)

ダビデ王は、神殿の禮拜の儀式を完備することに色々苦心をした、ソロモンの神殿の建立せられた後も色々こみ入つた儀式が守られた、人民の禮拜は聖歌手の一團によつて助けられた、新約時代は禮拜の純朴なのがその特長であつた、彼等は堅く使徒の教と友誼に立つてパンを裂くことと祈を怠らなかつた。

練習問題

舊約時代の宗教の主なる教役者は誰なりしや。

預言者の務は何ぞ。

七大預言者を挙げよ。

祭司の任務は何ぞ。

祭司を通じて捧物を捧げて神に近づく順序如何。

燔祭の意味は何ぞ。

愆祭の意味は何ぞ。

酬燔祭の意味は何ぞ。

素祭の意味は何ぞ。

ダビデとソロモンの時代に神殿の禮拜は如何なる變化を受けしか。

初代基督信徒の禮拜の特長は何ぞ。

- 一、教役者
- 一、預言者
- 二、祭司
- 二、犠牲
- 一、燔祭
- 二、罪祭
- 三、愆祭
- 四、酬恩祭
- 五、素祭

祭禮の諸式

第三課

年中行事

人民の宗教的生活を助け、國民の團結を強くするために、特別の宗教的禮拜が定められた、イスラエルの人民が是非出席せねばならなかつた大祭は、下の様なものである。

一、逾越節 春に守られた者であつて、エジプトよりの救を記念したものである。

(出十二一―二八)その逾越の小羊はキリストの象である。(哥前五七一―八)

二、ペンテコステ節 逾越より五十日目、收穫時の終りに行はれたものである。此祭は聖靈の降臨が弟子達の上に有つたことによつて記憶せられて居る。(使二一四)

三、構廬節(利二三九―四四) 九月或は十月に行はれたもので、一週の間人民は小屋或は天幕の中で曠野に過した昔を記念するものである。此節はまた收穫が全く終つた感謝を

も含んで居た。

三つの小さい祭は下の様なものである。

四、喇叭祭 秋に行はれたものであつて、ユダヤのお正月となつて居つた、ユダヤでは新月毎に銀の喇叭を吹き鳴らして月の始を知らせ燔祭を捧ぐることになつてゐたが、新年早々の新月だから特別の祭があつたのである。(民二〇一)

五、宮修節 之はユダス、マカベが國をシリア人より救つた後再び宮殿をきよめた記念として守つたものである。(約一〇三)

六、プリム節 女王エステルによつて、國民が救はれた記念であつて、二月或は三月に當つた。(エステル九二六―三二)

此外聖別された時としては、

一、一週の安息日 之は既に天地創造の始めより定められたものであつて、神とイスラエルの契約のしるしと成つたのである、此日は安息と禮拜の爲めに聖別された。

（出三一三三）

二、安息年 七年目に地は耕されず、捨てておかれた、そして自然はえたものは凡て貧民に與へられた。（利二五二七）

三、ジユビリー 五十年目毎には凡ての奴隸は解放され、囚人は解き放たれ凡ての財産は元の持主に歸された。（利二五八一七）

四、贖罪日 之は一年中で一番壯嚴な祭であつた、罪になやむ者には此日は斷食と祈禱の日であつた、又此日は一年一度祭司長がセラピムの間に住み給ふ神に近づかんとて至聖所に這入るのである、色んな準備の儀式が行はれた後、祭司長は罪祭の血と薫る香の這入つた香爐を取つて至聖所へ這入るのである、こゝで彼は契約の櫃の上に血をそゞぎ又香を焚いて彼等の罪と國民の罪の爲めに贖をするのである、此日の儀式は罪人が神と和ぐを顯はすのである。（利十六章）

練習問題

三大節を問ふ。

三小節を問ふ。

逾越は何時守られしや又何を記念するや。

構廬節は何時守られしやその意味は何ぞ。

ペンテコステの有名になりし所以は何ぞ。

宮修節は何を記念せしや。

喇叭祭は何の爲めぞ。

プリム節は何を記念せしや。

猶四つの聖き時を云へ。

何の爲めに安息日は設けられしや。

安息年には何をすべく命ぜられしや。

ジユビリーの年には如何なる善事が行はれしや。

贖罪日の意味は何ぞ。

1	大祭	聖年中行事
2	逾越節	イメネコメナ祭
3	幕蓋節	ハ
4	小祭	ハ
5	調風節	イ
6	宮備節	ハ
7	アツム節	ハ
8	聖き時	ハ
9	安息日	イ
10	安息年	ハ
11	イメネコメナ祭	ハ
12	調風節	ハ

### 第四課

#### 日曜學校

日曜學校は教會の教育的奉仕であつて、その主義方針に於て聖書の制度である。神のこゝを教へることは常に神の民の義務である。

#### 一、聖書時代に於ける教育的奉仕

- 一、イスラエル人は其子孫に神の言葉を忠實に教ふる事を命せらる。(申六六九二〇一二五)
- 二、モーセは民を集めて男も女も子供も神の言葉を彼等が行ひ得る様に、聞き又學ばねばならぬと神より命せられた。
- 三、ヨシヤバテ王は非凡なる改革家であつたが、侯伯、レビ、祭司をユダの國中、所々に送つて主の律法書に就て人民に教へた。(歴代十七七九)
- 四、子ヘミヤ時代の書記官エズラはエルサレムに有名なる聖書學校を起した。十三人のレビが聖書を讀むことと人民に説明する爲に助を與へた。(ネヘミヤ八五)
- 五、ユダヤの會堂には毎日開かれた宗教教育を興ふる學校が有つた。五歳より十歳までの子供がこゝで聖書を學ぶのである、少し大きくなると彼等はラビの註譯或は傳説を研究した、安息日の午後また別の聖書學校が有つて、青年及び老年の爲めに質問の應答が有つた。

六、主イエスは大切な真理の教訓的方面をいつも用ゐられた。(太四三三)彼は重なる時間<sup>かん</sup>を其弟子<sup>そのでし</sup>を教育<sup>けういく</sup>する爲めに用ゐられた、基督<sup>きりすと</sup>の弟子<sup>でし</sup>達と離れ給ふた後にも弟子<sup>でし</sup>達は會堂<sup>くわいどう</sup>に或は個々の家<sup>いへ</sup>にて教<sup>をし</sup>を續けた。(使五二九九)

七、初代教會<sup>しよだいけうかい</sup> 初代教會<sup>しよだいけうかい</sup>は幼者<sup>わうしよ</sup>及び年長者<sup>ねんちやうしや</sup>の爲めに信仰問答學校<sup>しんぎうもんたふがく</sup>を起した。

二、近世日曜學校の發展

暗黒時代<sup>あんくわくじだい</sup>に於てはヴァルデンシー教徒<sup>けうと</sup>の様な極く少數<sup>せうすう</sup>の靈的な人<sup>れいてきなひと</sup>の外は聖書研究<sup>せいしよけんきう</sup>をするものがなかつた。

宗教改革<sup>しゆきうかいかく</sup>及び十五世紀<sup>じふごせいき</sup>から十七世紀<sup>じふしちせいき</sup>に渡つて起つた新教會<sup>しんけうかい</sup>の勃興<sup>はつこう</sup>によつて、聖書<sup>せいしよ</sup>研究<sup>けんきう</sup>に新生命<sup>しんせいめい</sup>が開かれた。ルーテル<sup>るーてる</sup>とカルヅキン<sup>かるづきん</sup>は基督<sup>きりすと</sup>教學校<sup>けうがく</sup>創立<sup>くりつたう</sup>に力を注ぎ、信者<sup>しんじや</sup>の訓練<sup>くんれん</sup>の爲めに信仰問答<sup>しんぎうもんたふ</sup>を書いた、ウエスレー<sup>うゑすれい</sup>、ホイットフィールド<sup>ほいつとふいるど</sup>、チンゼンドルフ<sup>ちんぜんどるふ</sup>其外種々な人<sup>ほかいろくひと</sup>は皆、子供<sup>こども</sup>の宗教教育<sup>しゆきうきういく</sup>に多大<sup>ただい</sup>の注意<sup>ちゆうい</sup>を拂ふた。

近世日曜學校<sup>きんせいじちやうがく</sup>の運動<sup>うんどう</sup>は一七八一年<sup>いちふちちちいち</sup>ロバート、レークスより始まつた。彼は英國<sup>えいこく</sup>ロー

セスターの子供<sup>こども</sup>が日曜日<sup>にちようび</sup>一日町<sup>いちちちう</sup>で唯呪<sup>たのろ</sup>つたり、賭博<sup>とぼく</sup>したり、汚い歌<sup>きたなうた</sup>を唱<sup>うた</sup>つたりして居るを見て、怠慢<sup>たいまん</sup>と無學<sup>むがく</sup>より起つたと云ふことを悟り、一日<sup>いちにち</sup>五十錢<sup>せん</sup>拂つて、四人<sup>にん</sup>の教師<sup>けうし</sup>を備ひ、是等<sup>これら</sup>の子供<sup>こども</sup>を日曜學校<sup>にちようがく</sup>へ集めて讀み書き及び信仰問答<sup>しんぎうもんたふ</sup>を教へる様にしたのである、彼の初め<sup>はじめ</sup>の考<sup>かんが</sup>は唯改革<sup>たいかいかく</sup>であつた、然しそれが、遂には聖書學校<sup>せいしよがく</sup>となつてしまつた。

數年<sup>すうねん</sup>の後、教會<sup>けうかい</sup>は此日曜學校<sup>こゝにちちやうがく</sup>を自分のものとして年齢<sup>ねんれい</sup>と年級<sup>ねんきふ</sup>によつて別けた聖書學<sup>せいしよがく</sup>校とし、初めは唯聖句<sup>たひせいぐ</sup>の誦誦<sup>あんしよ</sup>を主にしたが、一八二六年<sup>いちふちにちろくにん</sup>遂に英國<sup>えいこく</sup>では「選定學課教<sup>せんていがくけう</sup>程」<sup>てい</sup>が發行される様になつた、之が又毎週<sup>またまいしゆ</sup>の聖書研究<sup>せいしよけんきう</sup>に定つた課程<sup>かてい</sup>を與へることになつた、そして學課<sup>がくくわ</sup>に基いて質問書<sup>しつもんしよ</sup>が出版<sup>しゆつぱん</sup>された。

一八七二年<sup>いちふちしちにん</sup>現今用ゐて居る「統一學課組織」<sup>いついつがくくわしき</sup>が採用<sup>さいよう</sup>されて日曜學校<sup>にちちやうがく</sup>事業<sup>じぎふ</sup>に驚く可き發達<sup>はつたつ</sup>を見た。

アメリカの日曜學校協會<sup>にちちやうがくけうかい</sup>は一八二四年<sup>いちふちにちしき</sup>組織<sup>しき</sup>され、今日迄<sup>こんにちまで</sup>に及んで居る、此協會<sup>このけいふかい</sup>は蓋<sup>けだ</sup>し貧民窟<sup>ひんみんくつ</sup>日曜學校<sup>にちちやうがく</sup>を設置<sup>せつち</sup>した第一<sup>だいいち</sup>のものである。

萬國日曜學校同盟は多年基督教各派を通じての日曜學校事業に効果を與へた一大機關であるが、過去三十五年間に於ける此方面の發展は此同盟に負ふ所頗る大である。

練習問題

- 1. 申命記三十二には神がモーセに何と命じ給ひしや。
- 2. 國民を教へんためヨシエアパテは何をなせしや。
- 3. 會堂聖書學校に就て知る所を云へ。
- 4. 新約時代に聖書教育が施されしと云ふ證據は何ぞ。
- 5. 初代教會は青年及び老年を教ふる爲めに如何なることをなせしか。
- 6. 基督教學校を設立するに趣味を持ちたる宗教改革者二三名をあげよ。
- 7. ロバート、レークスの事業に就て語れ。
- 8. 彼の學校の教授の方法は始め何なりしや。
- 9. 一八二六年多くの學校に如何なる教程が採用されしや。
- 10. 一八七二年如何なる學課が採用されしや。

アメリカ日曜學校協會の事業は何ぞ。  
萬國日曜學校同盟の事業は何ぞ。

黑板上の梗概

1.	日曜學校
イ	モーセ
ロ	ヨシエアパテ
ハ	エブラ
ニ	基督教
ホ	會堂
ヘ	使徒
11.	近世
イ	改革者
ロ	リンクス
ハ	選定學課
ニ	統一學課
ハ	萬國同盟

第五課

教會と日曜學校と家庭との關係

日曜學校は、教會の一部で、教會と云ふ家庭の一員で、教會と縁が無いものではない、即ち日曜學校の勤めは教會の務めである。

一、教會と日曜學校の關係

一、教會は日曜學校を監督せねばならぬ、教會の役員は其權威を執行せねばならぬ、然し之は誤解を招かない様にせねばならぬ、教會の役員は日曜學校を順序よく治めて行くには日曜學校の一部分だと云つても善い、又彼等が靈的指導者としての地位及び學校の事業に對する顯著なる盡力は彼等の忠告として學校管理の上に重きをなされねばならぬ。

二、教會は日曜學校を維持せねばならぬ。

(い) 適當な設備と、必要な諸器具を備へ、適當な教師を學校へ送り出さねばならぬ。  
(ろ) 教員は學校に出席し又趣味を以つて助けねばならぬ、もし日曜學校が教會の聖書研究的禮拜だとすれば勿論全教員は日曜學校と關係を持たねばならぬ。

(は) 教會は日曜學校の財政を心配せねばならぬ、必要な費用を負担せねばならぬ。  
(に) 日曜學校の事業は講壇より報告とか説教とか演説によつて全會衆に示さねばならぬ。

三、日曜學校は教會に忠實でなければならぬ。

(い) 教會の當局者に従順なること。  
(ろ) 教會其他の集會に出席すること。  
(は) 教會の教理に逆らはざる教育をすること等に由つてその忠實なることを示さねばならぬ。

二、日曜學校と家庭との關係

日曜學校は家庭の代用となることは出来ぬ。日曜學校教師は兩親の位置に立ち父母の責任を負ふことは出来ない。

一、日曜學校は家庭教育の補缺である。よき日曜學校教育は兩親に家庭教育に忠實である様に勵まされねばならぬ、日曜學校教育は家庭教育の效果に附加する所があらねばならぬ、家庭教育に足らぬとがあれば日曜學校はこれを補はねばならぬ、多くの神なき家庭に宗教的感情を注入せんがために日曜學校を用ゆるは神の喜び給ふ處である。

二、日曜學校は基督教的感化を其生徒に與へねばならぬ。家庭は日曜學校教師に眞面目な基督教信者たることを要求する權利がある。

三、家庭は重要な事件に關して日曜學校と完全なる協力をせねばならぬ。兩親は、

- (い) 日曜學校の悪口を云ふてはならぬ。
- (ろ) 兒童の出席を奨勵せねばならぬ。
- (は) 兒童の學課の準備を助けねばならぬ。

練習問題

日曜學校と教會の關係は何ぞ。  
學校に對して教會の義務二つを云へ。  
如何に日曜學校は監督せらる可きか。  
學校が教會に對し忠實なるべき四點を擧げよ。  
學校と家庭の關係を告げよ。  
家庭に對する學校の二つの義務を云へ。  
家庭の學校に對する三つのことを云へ。

黑板上の梗概

1	教會と學校
1	監督
2	維持
3	忠實
1	學校と家庭
1	家庭教育の補缺
2	基督教的感化
3	協力



第六課

日曜學校の目的

日曜學校は、神の御旨を知らんとして神の言葉を研究し、以下三様の目的の爲めに眞理を教ふる教會である。

- 一、魂を基督に導くこと。
- 二、基督教的性格を完成すること。
- 三、教役者を養成すること。

一、魂を基督に導くこと 生徒の多くに向つては之は我等の主に對する態度の一變を意味するのである、即ち浮氣な我儘な不從順より、神の御旨に打托す生活に這入ることである、又或者には少さい時より愛して居つたイエスを、公衆の前で公然己の救主だと云ひ現はすことである、基督を救主として愛し、また主として従ふことは日曜學校としてはなすべき最大事業である。

(い) 戸別訪問 此方法により數千人の新入生を誘ひ、我等の力を個人々々の靈的必要に觸れしむることが出来るのである。

(ろ) 決心日 は特別に限つて行ふならば、基督を救主または主としてはつきり受け入れる必要な時である、日曜學校の監督者は生徒銘々に同情ある興味を持つて敬虔なる靈的指導によつて此の目的を達せねばならぬ。

(は) 日曜學校教師の生活及び教訓 は生徒の上に靈的感化を與へるに尤も有力なるものである。

二、基督教的性格を養成すること 日曜學校教育は靈的專業である、即ち魂の教育である、日曜學校の生徒が基督に連れ來られた時には漸く專業が着手されたのである、之より凡ての方面に於て生徒を基督教的な生活に慣れしむる様に導かばならぬ、即ち

- (い) 祈禱の生活の高調。
- (ろ) 聖書研究の奨励。

聖書の制度及日曜學校

(は) 聖靈の恩化を蒙るべきこと。

(に) 自主自由の人となること。

三、教役者の養成 基督の爲めに身を捧ぐるの特権及び或る方面に活動する義務に就て 彼等の良心に訴へねばならぬ。

(い) 教師は常に生徒の前に基督教者の奉仕の喜びに就て語らねばならぬ、基督は罪の愆を取り去るのみならず又罪深き利己心をも取り去り給ふのである、ほんごに救はれた人ならば、御用に立つ爲めにも救はれて居るのである。

(ろ) 若き基督教信者は、神の言葉を教ふる先生をして、貴き勤めを果す爲めに準備する師範科に入れられねばならぬ。

(は) 學校の課業を通じて外國傳道學課を教へねばならぬ、強き男女を基督の使者として内外國の傳道地に派遣することを各日曜學校の祈りまた目的とせねばならぬ。

練習問題

聖書を教ふる三つの目的は何ぞ。

基督に魂を導くとは何を意味するか。

月別訪問は働きに如何なる助となるか。

決心日は如何なる效能ありや。

教師は如何なる感化を興へ得るか。

生徒の品性を建設するためには如何なる事をなすべきか。

如何に教役者を造るために生徒を訓練すべきか。

黑板上の梗概

日曜學校の目的	一、魂を基督に導く
月別訪問	い、
決心日	ろ、
教師の生活と教訓	は、
基督教的性格の養成	い、
祈禱の生活	ろ、
聖書の研究	は、
聖靈の恩化	に、
自己權の獲得	三、
教役者の養成	い、
奉仕の喜び	ろ、
師範科	は、
傳道學課	は、

第七課

日曜學校の組織及び設備

組織は秩序と効果を齎すものである、充分な効果を納めんとするには適當な職員を有する完全な組織を有せねばならぬ。

一、日曜學校の職員

(い) 牧師 教會の牧師はまた日曜學校の牧師である、彼は日曜學校に出席し忠實な考と飽ことなき努力を示さねばならぬ、彼は校長の友となり相談相手となつて全校の靈的指導者とならねばならぬ、もし牧師が師範科或は壯年科を教ふる必要のない場合に、教師の缺席のある時、この組でも受け持つ様にするなら、機會は幾許もある。牧師は斯う云ふ風にして生徒と親密にせねばならぬ。

(ろ) 校長 校長は全校の支配者である、彼は祈の人で神の導きを常に求め熱心なる

聖書研究者としていつもその日の學課の智識に於て全校の模範であらねばならぬ、又彼は子供好きで其同情を以つて生徒及び先生を引きつけねばならぬ。

彼はよき指揮者又適當な人を見付けるに巧みな人、彼等を適當な處に用ふるにたくみなる人でなければならぬ。

(は) 副校長 いつも校長の代理をつとめる様に心懸けて居らねばならぬ、彼は教師の缺席に注意し、補缺者を送る心配をせねばならぬ、彼は新入生を待遇し、適當な組に編入する様に待ちかまへて居らねばならぬ。

(に) 書記 書記は記録係の頭である、學校生徒の完全な學籍簿を管理し、教師職員生徒の出席を綿密に記載し又報告を記き止めておくのが彼の任務である。

(ほ) 會計 彼は日曜學校の會計を掌る爲めに設けられたのである、彼の任務は献金を保管し日曜學校献金の用途を示し、學校への献金を増加する爲めに種々の方面より盡力すべきである。

(へ) 圖書係 彼は書籍を通じ、圖書室へ本を探しに来る者に適當な智識と贊助を與へ屢々傳道報告とか有益な書籍に就て學校に注意を與へねばならぬ。

(と) 音樂教師 學校の讚美歌を歌ふに當つて敬虔的にまた靈的に効果を納め得る様に盡力せねばならぬ。

二、日曜學校の設備

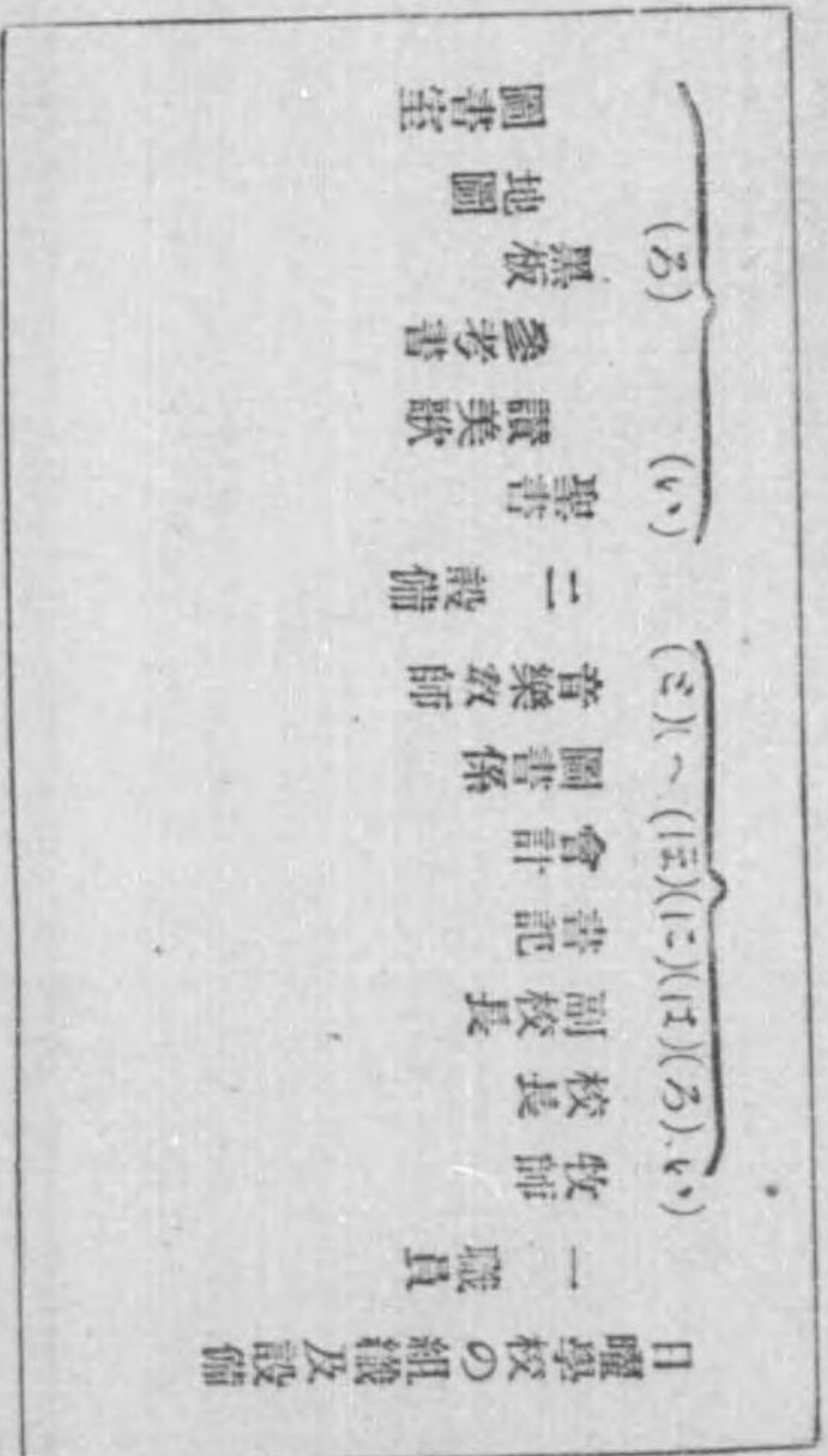
望むらくは各科各一室を占め得ることである、特に下級の生徒は是非とも室を異にせねばならぬ、そう出来なければ、幕を用ゐねばならぬ、聖書、讚美歌、學課の參考書に缺乏があつてはならぬ、黑板、掛圖、圖書室、教師用參考圖書席は設けて置かねばならぬ。

練習問題

何故日曜學校は完全なる組織を要するか。  
 日曜學校に對して教師は何をなし居るか。  
 校長の特質二三を述べよ。

副校長の任務は何ぞ。  
 書記の任務は何ぞ。  
 會計の任務は何ぞ。  
 圖書係は如何に學校を助け得るか。  
 音樂教師は學校に如何なる貢獻をなし得るか。  
 學校の設備に含まる可き事件を擧げよ。

黑板上の梗概



第八課

日曜學校の級別

日曜學校の級別と云ふのは生徒の年齢、智識その他種々の便利上教授に都合よい様に階級に區分されたものである。

此級別制度に於ては、生徒の進歩に従つて進級する様に設備されて居るのである。

一、級別校の各科

(い) 嬰兒科名簿 之は三歳以下の嬰兒の爲めに設けられるので、學級に編入するにはまだ早いのであるから、嬰兒科名簿受持の人が子供の氏名を登録し、家庭を訪問し、誕生日カードを贈り子供が大きくなつて、學校に入學が出来る迄連絡を保つて行くのである。

(ろ) 幼稚科 三歳より六歳迄の子供の爲めに設けるので、是等の子供には特別の課程と特別の室、それだけでなく幕で限をした處が採用である。

(は) 尋常科 六歳よりのものと幼稚科のものとが尋常科に進級するのである、そして九歳に成る迄尋常科に居るのである、尋常科は幼稚科と一緒にしてもよい。

(に) 初等科 九歳より十二歳迄の子供の爲めで、尋常科迄は男女混合でよいが、初等科になつて區別せねばならぬ。

(ほ) 中等科 十二歳より十六歳迄、最も肝心な時であつて、學校に生徒を一番引き止めにくい時である。

(へ) 高等科 十六歳より二十一歳まで、此時代に自治學級を奨励する必要がある。

(ど) 師範科 或る學校では中等科の終つた生徒を、高等科なり師範科なり自由に好む組に入學さす様にして居る。

(ち) 大人科 或學校では十六歳で、又或る學校では二十一歳で此組に編入して居る。

(り) 家庭の組 學校へ出席することの出来ない者で課業を受けたいと思ふ者、又學

校と連絡を保ちたいと思ふ者の爲めに家庭の組を設けるのである。

### 二、級別の方針

- (い) 生徒の進級 一は修業により、他は年齢によるのである、然し規定の課程を修得したものは、賞として特別の進級をさせても善いのである、其時には定めぬ修業式に特別の承認を與へるがよい。
- (ろ) 各級の教授 は級々の發育に従てなされるべきである。
- (は) 教師 はいつも一定の級に止つて居らねばならぬ、組をあつちこつち變ることはいよくない、生徒の爲めに先生を變へることになる恐がある。

### 練習問題

- 日曜學校の級別とは何ぞや。
- 日曜學校の年級を擧げよ。
- 嬰兒科名簿の管理は如何にすべきか。

幼稚科には如何なるものが編入せらるゝや、尋常科には如何なるものが出席すべきや、初等科より如何なる變化を級の組織に與ふべきや、如何なる方針にて生徒は進級せしむべきや、進級法に就て他の二方針を云へ。

### 黑板上の梗概

級別制度	(一)	學級	嬰兒名簿科	幼稚科	尋常科	初等科	中等科	高等科	師範科	大人科	家庭科	方針	(二)	年齢と修得による組に適したる教授	適當の教師
------	-----	----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	------------------	-------

第九課

日曜學校管理法

一、教師の養成 日曜學校の最大問題は如何にせば出来るだけ多くの教師を得、又最も善良なる教育を施し得るか云ふことである、もし教授が下手であればその學校は全く失敗だと云はねばならぬ。

如何なる學校と云へども、教師になるべき者を養成する永久的の二課を設けて置必要がある。十六歳より以上の尤も望める青年は此組に入學する様に勧誘せねばならぬ、そして此組は教師には最も勝れた人を選ばねばならぬ、教科書は聖書のことから日曜學校の事、生徒の研究や教師の研究等を細大漏さず書いてあるものでなければならぬ。師範科が日曜學校の一組として日曜日に教へる處では、教師ばかりの研究會を一週間の中に便利な時に開いて居る。

二、教師會 事業を最も有効にする爲めに、職員と教師は以下の様なことを研究する爲めに集らねばならぬ。

- (い) 學校の必要。
- (ろ) 學校の進歩。
- (は) 最善の教授法の研究。
- (に) 思想の交換及び獎勵。
- (ほ) 事業の統一。

三、近隣の訪問 日曜學校の生徒は其教區或は近隣の家庭を戸々訪問すると殖えらる。訪問するにはよく計畫を立て、置く必要がある、訪問者は住所、姓名、宗教別、教派を一々かき止めて置くがよい。そしてその家の兒童がどこかの日曜學校に出席して居るか否かを知つて置かねばならぬ、又印刷した勧誘書を殘して置くのも善いことである、永久的結果を得る爲めに忠實に打ち續けて訪問するがよい。

四、自治學級運動 は大人に興味を持たして學校に引き止めて置く一つの工夫である、萬國模範自治學級は五人の職員があることになつて居る、即ち、教師、會長、副會長、書記、及び會計の五人である。然しこれだけ置かなくても委員三人は是非置かねばならぬ、即ち禮拜係、人事係、社交係の三人である、會員は若くとも十六歳以上でなくてはならぬ、萬國同盟より規定の制度完備して居るものには一種の認可證が來ることになつて居る、此自治學級はその職員を選擧によつて選び、自治體を取るのであるけれども、矢張り日曜學校の一學級であるには違ふないのである。

五、家庭の組 日曜學校に出席し得ない者に家庭の組と云ふのが設けられる、之には老人、病弱者、或は家庭の都合で日曜學校に出席しない人、それでなくても種々な事情があつて日曜學校に出席出来ない人が連なることになつて居る。此組に連るもの、資格としては、少なくとも一週に三十分だけ、日曜學校の學課を研究するため費すことが出来ること云ふ人でなければならぬ、この爲めには、良い監督者と組の大

きによつて訪問者を増す必要がある、訪問者は少なくとも三ヶ月に一度は訪問して、一季間の學課、質問の答案、献金などを入れる袋を残して行かねばならぬ。

家庭の組を上手にやれば、日曜學校の出席者は必ず増加する。

練習問題

日曜學校の師範科は如何に組織すべきか。

教師會の利益五つを云へ。

近隣訪問の目的は何ぞ。

訪問者の心懸くべき事項を云へ。

自治學級運動の目的は何ぞ。

自治學級と日曜學校の關係如何。

その監督者と訪問者の義務は何ぞ。

家庭の組は日曜學校の出席に如何なる影響ありや。



日曜學校管理	一
部會	二
近隣の訪問	三
自治學堂	四
普の講義	五

第十課

日曜學校と傳道

我等が研究し又人に教ふる聖書は、全世界に向つての神の御言葉である、神が我等に

真理を授け給ふは、我等がその恵を外の人にも傳へる爲めである、だから「汝行きて萬民に福音をのべ傳へよ」と云ふみ言葉は、また日曜學校に向つてのみ言葉である。來るべき第二の宣教師と宣教師の後援者は、今日の日曜學校の男女學生の中から現れるのである、だから内外國の傳道地にその代表者を出すを以つて、凡ての日曜學校の目的とせねばならぬ、そして之を果す爲めには一定の傳道方針を採用せねばならぬ、その爲めには、

一、傳道委員 が必要である、この委員は日曜學校で最も必要なものとせられねばならぬ、委員等は一ヶ月に一度は是非祈禱と相談の爲めに集まらねばならぬ、そして此委員會で學校に於ける傳道的圖書の設備、傳道の方針、傳道學課の進捗等に就て、研究をなし、常に基督教會の最大事業たる此方面に日曜學校の注意を引く様にせねばならぬ。

二、傳道學課 この目的に添ふために、各學生に傳道學課を授けねばならぬ、今日

に於ては既に級別の傳道學課が出来て居る、又補助學課によつて多くの智識を増すことが出来る、普通の學課の中での傳道に關する教訓は、いつもよく教へられねばならぬ、一年間を通じての學課の中に傳道上の教訓を示す多くの機會がある。

三、傳道上の訓練 一組或は全校に對しての或る傳道の計畫は、非常に價値のある者である、一ヶ月に五分間位の短い牧師の感話或は校長その他、招待した人の話は、興味を呼び起すに力がある、また開校の時、聖書を讀む場合傳道的な一章を選ぶのもよいことである。

全校の集つた場合、傳道地の爲めに屢々祈らねばならぬ。

四、傳道的圖書並に陳列室 圖書室にはよい傳道的書籍を備へて置かねばならぬ。又傳道上の經驗に就て、特に面白い書物は生徒に讀むことを奨励せねばならぬ、地圖書品、繪畫などは備へて置かねばならぬ。

五、傳道献金 之は或る一定の時傳道の爲めに献金することである、其の献金が基

督教會の傳道事業を助けることになるのは、非常なる生徒の特權である。教へられねばならぬ、多くの學校では生徒の献金は全部傳道の爲めにつかひ、學校の維持費は教會が出すことになつて居る、之は理想的である、又或る學校では一ヶ月に一回乃至二回傳道費の爲めに献金をして居る、「神は我を外國傳道或は内國傳道就れに召し給ふか」と云ふ質問は繰返して極くやさしく、然し熱心に生徒に向つて訴へねばならぬ。

練習問題

傳道に就て教へねばならぬ二つの理由を挙げよ。

傳道に關して學校の方針如何。

傳道委員の爲すべきことを問ふ。

各組に於て傳道學課を教ふる四つの方法を問ふ。

平常の課業に傳道に就て注意すべき四つの事を云へ。

圖書は傳道上の趣味を如何に助くるか。  
傳道献金を助くる爲めに何をなすべきか。

生徒に如何なる質問をなすべきか。

黑板上の梗概

日曜學校と修道	一
修道委員	二
修道學票	三
修道上の訓練	四
修道的圖書並に陳列室	五
修道獻金	六

第四編 生徒の研究

第一課

生徒を知るの必要

大理石や花崗石は滅し易き記念碑である、而も其碑文を読む者は稀である、人の心に汝の名を記せし之のみは亡びない。

——セオドレ・キユイラー——

一、何故に生徒を研究せざる可らざるか

一、生徒の要求のため 園丁は色々の植物をどうすれば尤も保護し得るかを研究する、そして或物には多くの水を、又或ものには少しの水を興へ、或ものには多くの光線を、また或物を全くひなたに出さない。

また裁縫師は「みどり」を一々取つてその人の特點に合はす、之と同じく、教師も児童の頭腦を研究せねばならないのである、と云ふのは教師はそこへ種を蒔き、一般的の法則を個人々々に當て箝めるのであるからである。

二、教育なるものの性質上より必要とする 教師は石膏細工の職人ではない、土はいじられても手向はせぬ、又教師は美しいものを造へるまで氣に食はぬ隅々を削つて行く彫刻師でもない、大理石は動きもせねば反抗もせぬ、又教師は庫に寶を詰め込んで入用な時に出して來ると云ふ生徒の頭に知識をつぎこむ親切な友人でもない、教育とは唯學課を教へたり聽いたりする計りでは無い、之は一部分である、英語で教育と云ふ言葉は『導き出す』と云ふ言葉から來て居るので、兒童に人生の實生活、向上の一步を踏み出さしむる様に導くことなのである、即ち兒童を智情意の凡てに於て己と人と神とに充分盡し得る様に導くことである、之は教師の特權である。云ひ換ふれば、教ふることは人をして正しきをなし得る様に、知らしめ感せしめることである。

### 二、教師の生徒に就て知る可き事項

生徒を研究することによつて教師の學ぶ事項、

一、生徒の一般的特長 として年齢によつて扱ひ方を換へねばならぬと云ふことを、發育の異つた時期々々によつて發見する。

二、生徒の個性的趣味 教師は生徒に注意してもらふ爲めに、先づ何かそこに趣味を感じさせねばならぬと云ふことに氣付くであらう。處が、その趣味と云ふものが、太郎に面白くても次郎には面白くないので、一々異つた趣味を持つて子供に接近せねばならぬと云ふこともわかつてくるのである。然し之を以つて近づけば、生徒はすぐなつく。

三、子供の動作の意味 嬰兒は欲しいものがあると、氣をひく爲めに、泣く、子供は玩具を欲しがると、情け者は逃げ出す是皆一樣に道理があるので、智情の要求に應じて居らないことを知らせて居るのである、先生が之を知つて一々その必要を充して行くな

らば、先生の仕事は正に矯正的であるよりも防止的となり、男生徒はよく續いて日曜學校に出席する。

幼児のもじくするものも、子供の馬鹿に大きな聲で笑ふのも、女の兒のきやつくこと笑ふのも、皆生理的の發達の然らしむるので、之を頭から、こなしつけすと、善い意味に取らねばならぬ。多くの子供は、両親や教師が之を知らない許りに目茶々々にされて居るのである。

四、子供の二つの型 大抵の子供は自動性のもものと受感性のもとの二通りに分つことが出来る。然し此二つを附き合せた様なものもある。

(い) 自動的兒童 これは子供のたちが自動車の様ではづみがなか／＼よい、然し出ぎわが中々八ヶ敷い、走るも早ければ外見もよい、然し出た時と同じ様に止るのも早い、バタと止る、感奮的で、熱中的で、理解も早ければ決断も早い、然し氣變りも早いので、教を受ける前にもう活動は始つて居るのである、然し悟りが早い變りに忘れ

るのは猶早い。

(ろ) 受感性の兒童 は靜かに考へ込んで居て答へが頗る遅い、その變り解つたらしく、つくりして居る、見付はわるいが、よく覺えて居る、智識を與へることは六ヶ敷が覺え込むと中々忘れない。

三、教師は如何にして生徒を研究すべきか

一、氣をつけて居れ！ (勿論生徒に悟られない様に)

二、家庭を訪問せよ 如何に彼が報られ又罰せられ、如何に教へられて居るかを研究し、又彼を動す動機は何で、恐れより従ふて居るか愛より従ふて居るか等の家庭の空氣を研究せねばならぬ。

三、或は一人一人に 或は組全体として訪問して來る様にさせるがよい、いつでも宗教的のこ訥り話してはならない。

四、友人、職業、遊戯、目的を知れ 日曜ばかりでなく、月曜日や土曜日には何を

して居るかを研究せよ。

四、教師はこの智識を如何に利用すべきか

- 一、生徒の愛するものを出来るだけ愛し、また子供が教師をすく様になつてよ、そうすれば同情が出来る。
- 二、生徒が知つて居ることを研究し、それに結びつけて教へる様にせよ、遊んで居る處で見よ、そして玩具の説明をさせよ。
- 三、彼を誤らず理解し、彼の信用を得よ。

練習問題

何故兒童の心理を研究する必要ありや。  
 教師は彫刻師或は石膏細工の職人にあらざる理由をのべよ。  
 教師の生徒に就て知るべき三點を問ふ。

兒童の動作に就て知るべき事は何ぞ。

自動的兒童とは何ぞ。

受感性の兒童とは何ぞ。

如何に教師は生徒を研究すべきか。

教師は生徒に關する智識を如何に利用すべきか。

黑板上の梗概

生徒を研究するの必要	(一)	なぜ?
1. 生徒の要求		
2. 教育者の性質	(二)	なにが?
1. 性質		
2. 趣味		
3. 動作		

第二課

遊戲によれる生徒の研究

「來れ、我等兒童と偕に住まん」—フローベール

一組の生徒が教師に引率されて散歩に出た、思ったより道が遠いので生徒は弱りこんでしまつた、それで折角の楽しみがだいなしになりさうになつた、そこを老練なる教師はすぐ一團の革命軍を組織するとの命令を發し、目的地に軍歌を唱ひながら突進した、弱つた足も、遠い道も遊戲が面白いので、すつくり頭から忘れられてしまつて、豫定の地に無事につくことが出来たのである、遊戲の力は之れ程大なるものである、實に遊戲は兒童の本能であつて、兒童の生活に如斯力あるものであるからして、教師には充分理解されて居らねばならぬ。

一、遊戲は生徒の要求を充す

一、生理的

(い) 遊戲は溢る、精力を消費す 子供は靜かに注意深くせよと外から縛りつけて置かれると、精力を貯蓄して居る、しかしそれを吐き出さしめないで、栓を吹き飛ばして損害を與へるのである、だから、小供が日曜學校の教室を騒がして出て、廊下や、そこから騒いで居るならば、それは、遊戲的精力が吐き出されねばならないからである。

(ろ) 遊戲は兒童の將來の爲めに身体を養成す 球あそび、スケーティング水泳は筋肉の發育を助け、新鮮な空氣と日光は大人となつてやくに立つ様な身体をつくるのである。

二、精神的

精神的な生活は遊戲に於て五官を使用することから發達するのである、即ち子供は氣がきく様になり、判斷力を養成されるのである。

三、道德的

正義、非利己、忠實などの諸徳は遊戯によつて得られるのである、遊戯の規則を守らねばならぬと云ふことは男らしき性質を發達さすのである。

### 二、遊戯は兒童の性格を現す

一、幼兒は觀察者である。その飢えたる感官は新しき光景、新しき音響、新しき味覺によつて充されて行くのである、そして之が、彼の未來の智識の基礎を形造るのである。彼は手あたり次第、引張り、ひしやぎ、引き裂きたいのである、然し之は亂暴がしたいのではないので、唯觀察したい計りにそうして居るのである、太鼓の面に穴をあけては、なせ音がするかと云ふことを知らうとして居るのである。赤ん坊の遊戯は經驗的で單獨的である、決して外のものと一緒にしやうとはしない、玩具さへあてがつておけば一人でよろこんで居る。

二、少年は競争者である。彼は智慧くらべのお相手が欲しいのである、彼は未だ他人の爲めに我儘な考を除けるなど云ふことを知らない、彼の遊戯は嬰兒の遊び振りより

も巧者で智慧もいるのである、彼は真似に長けて居る、女の子は飯事をして遊び、男の子は巡查や消防夫の真似をして遊ぶ。

三、青年は仲間好である。彼は團體を作る本能があるのでクラブをこしらへ、クラブの制服をつけ記章をつける、ベースボールや、フットボール、テニスが好きで頭を使ふ遊とか組で遊ぶのが好きである、犠牲をよろこび特に女の人が見て居れば猶奮發するのである。

### 三、遊戯は義務を生徒に愉快と感ぜしむ

石炭を運んだりお使に行くにはもう疲れ切つて居ても、子供は半日、家を建てたり、水を堰いたりして遊んで居る、要事を一時間させると疲れる小供は半日は充分遊ぶ、要事はいやいやするのであるが、遊ぶのは好きからするのである。子供がしたいと思つてするならば、もう仕事と云ふ領分を通り越して遊ぶと云ふ處へ行つて居るのである。

### 四、日曜學校教師に對する此方面の智識の價値



- 一、生徒の遊戯の基くところを知れば、教師は生徒の趣味を悟り、彼に同情することが出来る。
- 二、生徒の傾向を知り、生徒の特別の要求を知つて教授することが出来る。
- 三、遊戯に對する兒童の態度を理解し、課業をも遊戯の様にするならば、既に半ば成功して居るのであると云ふことを教師は發見するのである。
- 四、日曜學校で遊戯と云ふことはないけれども、遊戯の法則は適用することが出来る、態度の變化、進行曲、面白い歌、演藝會等によつて單調な課業に興味を持たすことが出来るのである。

練習問題

遊戯は生徒の生理的的要求を如何に充し得るか。  
 遊戯は精神生活の發達を如何に助け得るか。  
 遊戯は生徒の道德上に如何なる感化ありや。

遊戯は嬰兒の如何なる方面を現はすか。  
 遊戯は幼兒の如何なる方面を現はすか。  
 遊戯は少年の如何なる方面を現はすか。  
 遊戯と仕事の差異は何ぞ。

日曜學校の教師に於けるこの知識の價值如何。

黑板上の梗概

遊戯によれる
生徒の研究
一、遊戯は生徒の要求を充す
一 生理的
二 心理的
三 道德的
二、遊戯は傾向を示す
一 觀察者なる幼兒
二 競争者なる少年
三 協力者なる青年
三、遊戯は義務を愉快にす
四、教師に對する價值
一 同情
二 適當なる教授
三 注意を引くことが出来る

### 第三課

#### 幼年期 嬰兒名簿及幼稚科

——誕生より六歳に至る——

「如何なるものをも學ばんとする熱望より外には何にもない。」

#### 一、生理的發育

一、此時期は身體の發育の最も著しい時代である、去年のものがまだ合ふと思つて居ると、コートも、ズボンもお母さんが吃驚する程小さくなつて居るのである、詩的の云ひ方ではないが、小坊主は成熟期に達しようとして居る一小動物に過ぎないのである。

二、幼兒の特徴はジツとしてゐないことである、これは一方に偏した發育をしない様に自然的自衛上然らしむるのである。赤ン坊が、足の先で、蹴つたり、弄つたりしてい

るのや、小ちやい兒がジツとして居らされると、モジ／＼して居るのなどはつまり自分の筋肉を發育させて居るのである、動くことを中止した動物は死んでしまう、動かされない動物の一局部は大きさも力もないものとなる、馬は足の中指だけが進化した標本である、不斷使用してゐるのでかうなつたので、外の使は無い所は無くなつてしまつたのである、少し大きくなれば一人手に發育さすことの必要を教へることが出来るが赤坊の時には唯もじ／＼するのが、身體を充分發達さす法則となつて居るのである。

#### 二、心理的發育

五官が恐ろしく餓えてゐるので何でも新しいものに氣をつける、幼兒はその五官を用ゐる、彼は言語を覺える、事物に關しては特別の見解を持つて居る、そして種々な變つた珍しいものを集めてくる、彼は目から最も多く學ぶが、良い教師は五官全部を働かさす様に心懸けねばならぬ、たとへば、神殿のことに就て教へるにしても

口で説明する計りでなしに目で見る繪であるとか、模型であるとかを見せ、又出来るならば手にも觸れさす様にして、彼の爲めに一つ造る様にすれば猶よいのである、種々な感官を通して來る印象は益々充實、明瞭になり永久性を帶るのである、これを知つて教師は黑板にハート形とか十字架形とか、星などを畫いて教へるのがよいのであるが、唯茲に一つ氣をつけておかねばならぬことは、生徒は唯形や色だけに氣をとられて肝心の教訓は頭に這入らないことがあるからして、その繪の側に質問などをかいて生徒が充分了解してゐるかどうかをためさなければならぬ。

一、好奇心 好奇心は幼年時代の主なる特質である、子供はいつでも質問を發する、好奇心は智慧の源である、子供が虹を見る、すぐなせ出來たかときく、彼は何んでもその理由が知りたいのである、だから、教室で、生徒の注意を呼ばうと思ふならば、好奇心に訴へるのが一番近道である。

二、摸倣 は幼者のも一つの大切な特質である、「好奇心は知識の基礎を据え 摸倣は

性格の基礎を造る」トムレー。子供はすぐ、外の人の真似をする、お父さんや自分の近くの人のする通りの、話し振から食ひ方、考へ方をする。

(い) 單純の摸倣即筋肉摸倣 子供はおいでくしたり、キツスを送つたり、手を叩いたりすることをすぐ覺える。彼は小さい筋肉を動かす前に大きな筋肉を動かすことをする。

(ろ) 寫實摸倣 子供は兵隊であるとか熊であるとか、頭に浮ぶとすぐほんとの真似をする。

(は) 理想的摸倣 子供が、豪傑の真似又は兵隊の真似をして行軍をする時には、理想的な所をやつて居るのである。

そこで教師は之を利用して、子供の品性を造るに資することが出来るのである、先づ第一に教師は彼の理想とならねばならぬ、「先生に生徒が似る」とすぐ云はれるから、教師の乗りもの、態度、云ひ方、は皆子供の持つて居る小さい鏡にみな寫つて行

くのである。先生は「怒りばいこと」、「我儘」、「無頓着」、「不敬度」、「俗なこと」は子供の一生に非常に大きい印象を残すのである、境遇は性格を作る一大要素である、だから日曜學校教師は品性に於て非難される處なく、勝利ある神の靈の恵によつて養はれて居ることは缺く可からざることである、「あなたの行は、あなたの云はれる聲より響が高くて、お聲が私の耳に這入りませぬ」と云ふ言葉は記憶しておかねばならぬ。

練習問題

幼年時代の二種の發育を云へ。

生理的發育の特長を云へ。

もじくすることは如何なる効能ありや。

幼年時代の心理的發育の三つの特長を擧げよ。

教師は飢えたる感官を教授に際して如何に利用すべきか。

子供の好奇心の將來に於ける價值如何。

子供の生活に於ける摸倣の價值如何。

摸倣の三種を擧げよ。

筋肉摸倣のよき實例を擧げよ。

寫實摸倣とは何ぞ。

理想摸倣とは何ぞ。

何故摸倣は教師の人格をしか大切なるものみなすか。

黑板上の梗概

